明治三十七年度

訣別の辭

別れて臨みて一言せん、今や校長は病勝ちに、學監は遠く海外に出でんとし、長女は將に嫁せんとす。此の時、此の學校にとりては恰も片腕を取らるゝが如き感ありて心淋しき限りなれども亦、能く考ふれば是れ皮想の感なり。此の際學監を出だすは、實に學校の力を減ずるが如きも決して然らず、却て學校の力を增し學校の根を强うせしむる所以なり。麻生君は能く事に堪ふるの人、學識あり經驗あり教育家として高き品性を具へらる。而も君も吾人も之を以て足れりとせず益々君が意志を鍛ひ學識を增し、品性を高めらるゝやうせしめざる可らず。今回君が修養のために洋行を企てらるゝことも、亦止み難き一事なり。學校の根は今迄櫻楓會を形成すると云ふ狹き範圍内のみに蔓りしも、向後は世界に蔓るに到らしめざる可らず。今や諸子を世に出すは、學校の力をそぐに非ずして全世界に及ぼすなり。全世界より滋養分を吸收するなり。今迄は幹と枝と花とのみなりしも、之よりは良き實を結ぶに至るべし。實に吾等は諸子の成功を祈り諸子よりの佳報を得て學校の親達は喜ぶなり。斯くてこそ學校の基礎は愈々强固となるべし。今迄は常に至難の事のみ話し聞かせしも、實は此の櫻楓會をして强固なる勢力を有せしめ、健固なる根を有せしめんとてなりき。今や其の幹も根も餘程强固となりしは實に喜びに堪へざるなり。今日此處に臨席せられし大隈伯、廣岡夫人を初めとして三井、森村、土倉、西園寺侯等の有力なる維持者を有するのみならず、發起人諸氏も此の校を開くに當り、困難なる事ありしも、其の危險を厭はれず之が設計に加はられしのみか、其の困難なりし時には迷惑なることもありしにも係らず、諸氏は少しも困難の爲に退かるゝことなく、國家の爲と云ふ考より、實に親切に種々と御世話下されしなり。昨日も本校の關係者數多來られし中に、西園寺侯、樺山伯、久保田氏は、實際文相として我國教育の爲に盡されし方々なり。本校の爲には初めより同情を表せられ、善惡共に吾人と共に考へられ、我子を思ふが如くに忠告せられ注意せられて只尋常一樣の關係には非ず。且其の關係者は我國に於ける有力家なり。是等の方々が本校及び本會の重なる根をなせるなり。將來本會が風浪怒濤に堪へ得る所以なり。本校には熱心なる教職員ありて、常に諸子の爲本校に自己を忘れて盡さるゝなり。又感ずべきは諸子の働くことにして、掃除に、裝飾に、料理に自ら進んで手を下し人の毀譽するに關係せず、我物として表裏なく心の中より忠實に事をなすは、實に本校が非常

に強固なる力を有することを示す一例なり。人の監督の達せざる處に忠義なるは團體の健全なる生命にして、恰も植物が人の知らざる間に少し宛成長し、斯くて大木となるが如きものなり。然るに人の見ぬ所にて惡きしことをなし中衝手段、離間策等を行ふは結核性の黴菌を以て充たされたるに等し。本校生徒及び教職員間に、さる事のなきは實に美風なり。これ予が最喜びとする處、又必ず將來發達の基ならんと信じて疑はざる所なり。諸子の散ずることゝ、學監の漫遊せらるゝことは決して憂ふべきに非ずして最喜ぶべきことなり。校長の健康も恐るゝに足らず、母校には又第二回の櫻楓會員もあり、創立員諸君、教職員諸君には強き基を作られつゝあり。又萬一不安の事あらんには電報一本にて麻生君は歸校せらるゝなり。よし予にして倒るゝも學校はたをれざるなり。基礎既に固し、此の強固なる基礎の上に大なる物を築かれんことを切望す。御列席の大隈伯、廣岡夫人は、本校の爲には親の關係を有せらる、實に親が子を育つるが如き勞力を取られしなり。諸子は此等の方々の恩は決して忘るべからざるなり。諸君が諸子の爲に何時迄も盡力せらるゝことを記憶し、心配あらば相談し得る親あることを忘る可らず、勿論是等の有力者ありと雖も、各自の自信力は充分養ひ置く事の必要なるは言を俟たず、爰に諸子と別るゝに臨み敢て此の有力なる親あることを告ぐ。

明治三十七年四月

研究科生の爲に

予は此の期に於て、秩序と云う事と進歩と云ふ事との關係を示さんと欲す。卽ち秩序と進歩との關係宜しきを保つ事は、吾々の日常に甚だ困難なるも亦甚だ必要なる事なり。而して其の困難の原因は全く不熟練と無知とより來るものなり。故に秩序と云ふ事を少しく說きて後進歩に移らんと欲するも、斯くては諸子の必要に應ずべき時に遲るゝを以て進歩と云ふ事より始むべし。

進歩は卽ち研究なり。卒業生及び三年生は予の目より見れば共に研究科生と見なすなり。研究科生とは英語の所謂 Post-graduate にして其の意味は卒業後學校と家庭に入るとに拘はらず、常に進歩發達するものならざる可らず。扨て本年の研究生を大別すれば左の孰れかに屬すべし。

研究科
- (1)研究科生
- (2)傍聽生
- (3)補充生

又一方より云ふ時は

研究科生の學校生活
- 自給生
  - (1)教員並に助手
  - (2)役員
  - (3)實業部
  - (4)寮監
  - (5)家庭教師
  - (6)家庭より來るもの
- 學資を親又は他人より受くる者

然るに目下の有様より云へば、卒業後何か仕事を爲して研究せる者の方大部分を占め、父兄より學資を受くる者は甚だ少なし。是につきて此の頃三年生の間に一の問題起りたりと聞けり。曰く「卒業生は果して其の品性實力共に完全なりや否や」と或は曰く「卒業後實業部其の他の實務に鞅掌して果して研究を爲し得べきや否や」と、第一の問の如きは教育の可能力を餘りに強く餘りに多く見たる考なれば善く實際を調査して熟慮せざる可らず。凡て何事によらず、皮想の觀察を以てする時は大に誤まるものなり。教育は惡人をして忽ち聖人とならしむる力あるかの如く思ふ人あれど、實際は斯くの如きものにはあらず、宗教も其の通りなり。故に卒業したればとて全然脱化するものにはあらず。唯教育によりて其の人を以前よりも善き人と爲らしむるのみにして、夫れ以上の力は無きものなり。故に如何に遲々たる有様なりとも、其の人をもとよりも進歩したる人と爲し、將來限りなく進歩して止まざる人格を作る事を得ば、吾々の希望は達せられたりと云ふべし。然らば則ち極公平なる心を以て、其の事業を精密に調査したる後ならでは容易に判斷す可らざるなり。

予は諸子全體を悉く研究科生と見做し、卒業後も限り無く進歩發達し得る人たらしめん事を期せり。此に於てか其の研究の方法を述べ置かば、今諸子の心中に在る所の難問は自ら氷解する事を得べし。故に先づ其の例證として、予の實驗したる經驗につきて述べんとす。

第一、時

此の頃諸子の心に起りし問題は、時と云ふ事なり。實業部に入りし人、寮監となりし人、殊に寮監を兼ねて教員となれる人の如きは日々教ふる事の支度もあれば寮の事務もあり、出でゝは先生歸れば寮監、殆んど忙殺せらるゝ有様なり。故に餘り多忙にして時足らずんと云ふ事を始終耳にする事あるも、予は決して是を怪まず、寧ろ當然の事なりと信ず。凡て文明國の人々

が時を重んずると云ふ事は、斯かる必要より生ずるものなり。又諸子或は思はん、「書を讀み物を考ふるには、單純に其の事を爲すべき時間を與へられざれば爲し能ふ可らず」と、併し之は大なる誤解なり。諸子の前途は日々繁務に赴くべし。卒業すれば最早父兄よりは學資を與へられず、此を以て何事をか爲さざる可らず、今日諸子の身にて日に五十錢の働きを爲すには終日働かざる可らず、故に到底他に方法はあらざるなり。吾々の境遇はいろいろなる事情を以て充たされ、吾々の頭腦は非常に複雜ならざるを得ず、卽ち自給して學問をすると云ふ境遇にならざれば、眞の研究は爲し得可らず、然らば夫れ程忙はしき暮しを爲さば研究は出來ざるものかと云ふに、予は必ず爲し能ふべきものと信ずるなり。時は乏しきものなるも、時の價値を知り、時の用ひ方を解する時は、充分に研究し修養する事を得るものなり。予は十三歳の時より經驗せり。そは自ら生計を支ふべき仕事を爲し、運動して體力を養ひ、其の間に勉强して自身に最も必要なる書籍を讀む事卽ち是なり。予は十三歳の時或る病院長に請ひて調合生となり、傍ら其の家の米搗きをしながら勉强せり。卽ち米を搗く時は臺の横木を書架に代へ、身勞力を惜まずしてしかも心は古今東西の聖賢を友とす。書見益々興に入り米穀愈々精白なり。所謂粒々辛苦を嘗め、以て一俵を搗き一卷を讀み玆に始めて快哉と呼ぶ、當年の意氣思ふべし。さて十六歳の時には二島と云ふ所の小學校長となりしが、毎土曜日の午後には此の二島を距る事凡そ三里餘りなる山口市に住せられし、某先生の許に通學せり。然れども身既に公務を帶ぶ、奚むぞ、執務、思考、讀書、運動と各課に分つべき餘暇あらむや。卽ち約半日の道程、行く行く書を讀み其の門に達す、此に於てか自然は友なり、萬象は學校なり、行きて問ふべく、就きて學ぶべし。加ふるに、心身を高山幽谷の間に鍛ひ、使命を斷岸絶壁の下に負ふ、其の爽快希望實に名狀す可らざるものありき。予の今日非常なる繁務に當りて猶修養研鑽の時を得るは、一に昔日苦學の中に得たる賜なりとす。吾人の世に處するや到底閑暇ある可らず、故に時の足らざるは疑ふべからざるも、如何にすれば時を省かるゝかと云ふ必要を感じて後、始めて百般の改良は行はるゝものなり。故に自給と云ふ事は經濟上の都合もあれど、又一方より云へば修養上甚だ大切なる事なり。卽ち自給して學問をも修め修養をも爲し得ると云ふ人にならざれば、將來孰れの方面に於ても亦何事につきても成功は期す可らざるなり。

第二、健　康

健康を保たざれば到底研究は爲し得可からず、而して是も餘程時に關係せるものなり。諸子試みに彼のスペンサー氏の總合哲學及び進化論を讀まば、如何に彼が學問に精勵して、實地を觀察せしか、如何に多く世界のあらゆる所より證據を擧げたるかを知るに足らん。古より識者は、皆多忙を厭はずして事を爲さんと期するものなり。此に於て最大切なるものは健康なりとす。昔より遠大なる事を爲せる人は必ず健康なる人、又は健康に注意したる人なり。何人に限らず是非讀むべき書を讀み、是非考ふべき事を考へ、是非爲すべき仕事を爲さんと着手すれば、必ず健康の不足を來すべし。故に諸子は皆銘々の健康を進めざる可らず、又其の方法を講ぜざる可らざるなり。而して學問を修むる者の最弱り易きは、腦と心臓と神經と呼吸器なり。吾人は或一派の論者の如く、身體の故障は皆一つの機械的原因より來るものなりとは云はざるなり。されど生理衛生の心得はあり乍ら、其の上に種々の注意すべき點を怠る事多し。先ず第一に身體の姿勢即ち脊髄の位置を正しく保つことは甚だ大切なるにも拘らず、動もすれば忘れ易きものなり。ノースロップと云ふ人は四十四五歳の時肺結核になりしが、一度感ずる所ありてより、如何なる事ありとも姿勢を枉げぬと云ふ事によりて全快せりとぞ。此の身體の姿勢を善く保ちて、適宜に運動をすれば確に健康になり腦も疲勞せぬ樣になるものなり。故に予は、日常なるべく直立して事を執り物を考ふるにも必ず運動しながら熟慮する事に決し、日々此の習慣を作らん事に勉め居れり。而して戸外の空氣を呼吸すること、又は全身を揉む事も必要なり。其の最適當なる方法を自ら見出して自ら衛ることを怠る可らず、所謂己を知ると云ふ事の中には、身體を知る事も含まるゝものなり。故に先づ身體の位置、歩み方などを改むる事より初め、心の中の惱みを去らんとするには種々の疑問ありとも、獨斷的又は感情的に物事を判斷せぬと云ふ事を一の習慣となすべし。是等の事は極些細なる事の如きも、其の影響する所は甚だ大なるものなり。故に畢竟全體の習慣を作らんとするには、是非とも吾々の考を一つに纏むることを最肝要なりとす。

第三、研究と經濟

研究と云ふ目的を達するにも、先づ經濟的品性を得ざる可らず、戰爭をなすにも今日は是非金力が續かずば到底云ふべくして行はれざるなり。今や全國民は日露の戰爭の永きに亘らん事を憂慮せり。併し容易に終局を告げざるものと假定するも兵士の上より云へば百萬の勇士を容易に募る事をも得べく、其の他彈藥も機械も之に應じて供給する事難からざるべし。只恐るべ

きは夫れ丈けの準備を爲し、日本の兵力を維持するに足るべき金力が繼續せらるべきや否やに在り。今日の軍を爲すには、是非とも金力を要するなり。是と同じく吾々が學問を修むるにも、經濟と云ふ事を伴はざる可らず。若し經濟の續かざる時は如何に熱心はありとも到底目的は達せられざるなり。故に此の教育を盛んにするには是非其の爲に國民が多くの資金を投ぜざる可らず、先日も述べし如くアメリカの國費の殆んど半額以上は教育の爲に費せり。彼の國人は、學生を養ふ爲に喜びて莫大の金を投じ、又は學校を維持する爲に奮つて多くの寄附金を投ずるものなり。然るに我國に於ては斯かる實例甚だ稀なりとす。故に教育を受くる時に於て常に問題となるものは經濟なり。父母は先づ子供を教育する爲に經濟と云ふ事を考へるざるを得ず。又學生の間にも自給する苦學すると云ふ事が近來盛んに稱へらるゝに至りしなり。是は自ら喜びてするにはあらざるも全く境遇の然らしめたるものにして、此の如きは日本の全體の上より大に考ふべき事ならずや。即ち米國の如く學生が十七八歳となれば自分で自分の事をすると云ふ風にならざれば到底經濟は續かざるなり。今一ツは國民が自ら進み行くには自給自衛して、經濟的狀態を作らざれば無論永續せざる事を確信し來れるなり。本校附屬高等女學校生徒の中にも、實業部に入りて、自給しながら學問したしと云ふ願ひは續々出で來り、地方の父兄友人などよりも何卒自給して學問を爲す方法を與へられたしと尋ね來る者日々に多し。又戰爭の續く爲に我國が二十億三十億の借金を負ふ事は免れざるべし。假令戰は終局を結ぶとするも善後策として猶多くの兵を動かし軍鑑を購求すべき必要多く、其の他如何なる事業にも皆資本を要するを以て經濟上非常の困難を來すべきは明白なり。或は今後諸子が修學する上に、又一家を持ち子女を育つるには、是非經濟上の必要を感ずる事多かるべし。是を以て今後多數の人が益々高等の教育を受けんとするには勢ひ自給の途が開けざれば其の志を達することは能はざる事實は、年々に多くなり行くべし。故に予は先きに第一時第二健康の必要なる事を說きしが、此の二ツの中孰れを得るにも、是非經濟を伴はざる可らず、時を省く樣に、又健康を增す樣にするには必ず金を要するなり。而して今一ツ研究に必要なるものは書籍なりとす。自分の收入にて自分の書籍を買ひ、自分の家庭に自分の圖書室を備ふると云ふ風にならざれば決して眞の研究は望む可らず。故に昔の如く赤貧にても善しとは云ひ難し。必ず經濟と云ふ事がよく整はずば、研究と云ふ事は到底云ふべくして行はれざるべし。此を以て諸子に經濟的品性を作らざる可からざる事を說明するなり。是を個人につきて

云ふも、國家の教育上より云ふも將た櫻楓會の事業より云ふも悉く經濟的にならざる可らず、實業部を開きて自給の途を開く事は、諸子の上のみならず我日本の將來につきても大に必要なる事なり。故に是非自給の途を開拓するの外多くの學生を救ひ全體を進むる途はあらざるなり。

第四、讀書と思考力との自由

今後諸子が或る事を研究せらるゝには是非諸子に必要なる書籍を集めざる可らず。而して之を讀む事も亦大切なり。諸子の爲に先づ必要なるものは Authority なり、讀書なり。然れども日本の學者にして世界のオーソリチーとなるべき人は殆んどない。故に研究する時には必ず諸子銘々が世界の知識を總合して、オーソリチーとも云ふべき人々の說を聞く事心要なりとす。扨て夫れを爲すには是非多くの書籍を讀まざる可らず。書物を讀めば廣く世界の知識を得ることを得、又極端と極端或は中庸の說に廣く接することを得。又最自分に必要なる事を得られ、又如何に忙しく閾の外一歩も出で難き人も、自分の勝手なる時、隨意に多くの學者と相談することを得るものなり。到底自分の目にて見、自分の手を觸れ、自分の耳にて聞く事のみにては、發達すること能はず、是非書籍と云ふ媒によらざる可らず。而して其の書籍を得ると云ふ事と、之を讀むと云ふ事とは隨分困難なり。日本の書物のみにては吾々の必要なる事柄は得られざるのみならず、之のみを讀み居らんには勢ひ時勢よりも五六年程後るゝなり。又日本の書物は非常に不便なる故に、何か眞の研究をなさんと欲せば先づ一ツの外國語を得ざる可からず。併し是のみにては猶足らざるなり。外國語は如何に巧みに出來たりとて、眞の研究は爲し得らるゝものにあらず、故に假令自分にて外國語は餘り出來ず、書物は餘り讀めずとも、其の研究は出來、其の結論のつく人はある者なり。自ら讀み自ら考へ自ら研究する人にして、始めて指導教授の講話が如何に必要なるかは了解せらるべく、而して讀書に最大切なるものは思考力なりとす。眞に書を讀むと云ふ事、眞に研究が出來ると云ふ事は、凡て此の力によるものにして、思考力のなき人は自分の考を以て進むことは能はざるなり。然らば如何にすれば善きかと云ふ事は是非此の期に諸子をも了解せしめたき事なり。

第五、觀　察

經驗、實驗、觀察此の三ツの力なく、自ら經驗して見たる事ならざればそは決して確實ならず、又自ら經驗して得たる事にあらざれば品性は養はれざるなり。己を知らず、人を知らず、

社會を知らぬと云ふ事は、畢竟經驗を積まざるによるなり。而して今一ツ大切なる事は實驗なるが、是も亦自身目的を持つ、夫を確むる爲に自ら試み明かならしむる事にして、觀察も之と同樣なり。然るに吾れ人共に爲し難きは實に此三ツの事なりとす。本校に商業部、牧畜部、園藝部等を設けしは一は自給の爲なるも、歸する所は全く教育の爲なるを忘る可らず、此の主義方針を全國の學校及び家庭に普及せしめたしと云ふ考に外ならず。要するに今後我國の教育の有樣は全然一變し來るべく、又根本より改善せざる可らざることは讀者の既に認めし所なり。

第六、常識

予は殊更に研究に常識の伴はざる可らざる事を云ふなり。それは研究と云へば勢ひ專門となる故 Special sense と Commonsense とは互に衝突する樣なれど實際は然らず、故に常識の大切なることを特に專門教育を受くる女子の爲に云ふなり。從來家庭を天地とせる狹き婦人には一ツの研究に身を入るれば、勢ひ愈々狹く固定したる人となる弊あり。我國にては未だ女子にして深く一事を研究せる專門家出でざる故に其の例證なきも、歐米の女流大家につきて見れば、其の弊害甚だ多し。卽ち婦人が學問を修むれば害ありと云ふは此の點をさせるものなり。此を以て專門に傾く時に當り餘程吾々の注意すべき事は Special sense を養ふと共に Commonsense をも養はざる可らず。研究と云へば專門に傾くも個人個人の專門的研究は、全體の知識の爲として人道を進め、教育を改善し、生活風俗を改め、家庭社會を改良せしむると云ふ目的を以て進まざる可らず。以上の事は吾人が動もすれば孤立せんか隱遁せんか社會の地位に立つべきか立たざるべきか、或は何年間決して責任を負ふまじきかと云ふ事を考ふる時に當つて、必ず熟考すべき問題なり。凡て物事は全體に通ぜずして一局部を知り得べきものにあらず、如何に專門の學業を修むればとて餘りに狹くなれば、局部と全體との關係を解し得ざる爲に、自家專門の事のみも通曉し能はざる樣になるものなり。謹まざるべけんや。

第七、自信力

吾々が學問を修むる時に當り最學生の陷り易き弊は、オーソリチーに依る事なり。オーソリチーとは何ぞや。古より心理學にてはゼームス、ブント、サーリーの如き社會學にては、スペンサー、コント、ギツヂングスの如き、又教育に於けるヘルバルト、フレーベルの如きは世界中の人が其の名を知り其の說を知れり。而して是等の人々の說は獨斷的ならずして必ず一の眞

理あり。斯かる人を稱してオーソリチーとは云ふなり。吾々は各々違ふ所の力、天性、問題及び長所を有せり。故に餘りオーソリチーにたより過ぎ其の先生の說を聞き其の先生の論を讀むならば、寸毫の誤謬なきものなりと思惟せんか、最早夫れ以上には成り能はざるなり。殊に吾々は何博士何學士の說と云へば、そは誤まりなきものと信ずる事多し。吾々は一の目的に從ひて、最必要なる處を研究せざる可らず、吾人は某大博士の未だ見ざる事を見たる事あり。聞かざる事をも聞ける事あり。故に吾々が研究せんと欲する事につきては決してオーソリチーはあらざるなり。世界の凡てのオーソリチーにつきて相談する事はあれど、我行く道にはオーソリチー無し。國につきて云ふも、保守の國程オーソリチーにたよること多きも、米國にては決してさる事無し。然るに諸子は研究的態度を以て、人の說を聞くと云ふ自信力に乏し。吾々はオーソリチーを卑みはせざるも研究する以上は必ず自信力を以て進まざる可らず。世には往々一種の偏見より立論する者あり、例へば宗教は人の考を束縛するもの、又傳說なりと云ふものあり。何事によらず、束縛せらるゝ時は決して研究心は起らざるものなり。故に苟くも研究せんと欲するものは、先づ思想の自由を得ざる可らず。されど如何に思想の自由を得たりとて心の基礎の破壞せらるゝものにはあらず、故に先づ心眼を開きて自由の空氣を吸收し、加ふるに强固なる自信力を以て研究に從事せんことを要す。

第八、犧牲の精神必要なり

凡そ研究と云ふ事は何か非常に感ずる處ありて、心に活動する所なく又命にも代へ難しと云ふ動機卽ち眞理を愛すると云ふ觀念なくば、決して爲し能はざる事なり。自身の目的を自身の生命よりも重く、且つ大切なるものと信ずる考なくば、到底爲し得べき事にあらず。古より機械を發明し、或は眞理を發見せる人が如何に苦心せるか、如何に自身の爲に凡ての事を犧牲として、其の爲に死したるかを知るべし。女子にしてもメレーライオンの如きは卽ち其の例なり。吾々の心中に非常に心を動かすものあり、且つ目的確乎たるものあらざれば、決して成功は見る可らず、されど予の諸子に望む所のものは社會を改善し、人道を進む爲に、所謂 Humanity の爲に研究せられん事にして、此に至れば宗教家が神に身命を捧げたると同樣なる力を生ずるものなり。

抑も犧牲的精神とは、其の統一したるものゝ爲に、己の身命を犧牲にすると云ふ事にして、此の考を有する人は自身の研究に熱心になりて、殆んど寢食をも忘るゝ程になるものなり。故

に眞に人道を重んずる人ならば、勢ひ己の天職に就きて確信せざるを得ず、而して己の天職を確信する以上は、必ず其の爲に己の身を捧ぐると云ふ覺悟を存するものなり。無論予は諸子にカント、スペンサー、メレーライオンの如く、生涯獨身生活を爲して研究の爲に其の身を捧ぐべしとは、勸告せず、そは尋常一般の上より云へば、普通の生活を爲す方最完全に發達し得るものと信ずればなり。されど予の所謂眞の研究は生涯に於て只己の幸福、己の地位、己の境遇を作ることを以て唯一の目的とせる者に對しては到底望むべき事にあらず。故に眞理を愛し、誠を愛し、天職の爲に、又其の天職に對して最必要なる研究の爲に、一身を捧ぐると云ふ人は是非此の犧牲的の精神を養ふ事必要なり。本校の主義とし櫻楓會の精神とする處は、日本の教育を改良し、只机の上のみならずして、實際の教育を活きたる社會に結びつくると云ふ事なり。今其の一例を云へば園藝の術と雖も先づ園藝と教育との關係を調べたる後之を實驗應用し、今日の生活と結びつけて一般の學校及び家庭に普及せしめんとの確信竝に希望を有し、且つ之を生涯の天職とせる人が、其の事に當らざる可らず。其の他孰れの方面につきても、生涯に於て是非是れ丈けの事を成し遂げざる可らずと、自ら天職を確信せる人が主任となりて研究せずば決して模範的の教育は行はる可らざるものとす。

第九、研究は愉快なる心と伴はざる可らず

諸子の生涯は愉快にして且つ滿足に滿ちたる人にあらざれば眞の研究は云ふべくして行はれざるものなり。不平なる人、不滿足なる人、厭世的の人は到底此の研究をなし能ふべくもあらず、そは不平不滿の念を有するものは、其の心常に暗きに向ひて希望の光を知らず、其の身は卽ち地獄の中にありて淨土の樂しみを知らざればなり。

此を以て不平、不滿、厭世の人は眞の研究を爲し得ざるのみならず、其の健康をも保ち難し。故に予が諸子の爲に是非注意を促がさんと勉むる處は、先づ心中に愉快、滿足、熱心、勇氣、希望を以て進歩發達せられん事なり。凡そ何人と雖も、眞理を見出せば誠に樂しきものにして、假令死につくも萬歳を稱へ、喜びを以て詩を賦し歌を詠じ、或は天の一方に無限の希望を懷きて、從容自若以て死に臨むことを得るものなり。されば學問は必ず面白く樂しく修めざる可らず。此の心中に愉快を感じ、喜悅と勇氣とを以て進むと云ふ事は、聊かたりとも心中に不平ありては爲し能はざる事なり。而して其の原因を推究すれば、己を滿たすこと能はざるものは常に己の内にありて、之が

人を不平に陥らしむる基にして、苟くも心中に此の不平あるときは、到底困難に勝つこと能はず、故に予は反覆して諸子に告げん、乞ふ快活なる人となれ、而して研究し得る人となれと。

予は進歩と云ふ事の楷梯につきて縷述し來りぬ。今や此の章を終らんとするに臨み、其の參考の一助として歐米中等教員は如何にして養成せらるゝかを述べんとす。

此の問題に對する識者の意見も亦其の方法も大別して二樣に分かる、一は高等教育を受けたる者と高等師範學校の卒業生とにつきて議論一致せず、一方は曰く「師範學校の出身者は學識淺薄にして形式に流るゝ恐れあり、且つ初めより職業的に養成せらるゝを以て、勢ひ人格の劣れるを免れず」と又一方には曰く「否々師範學校は教育家を養成するを目的とすれば、其の卒業生は最多く教育家たるべき資格を有せり、之に反して大學生は學問は深く、其の教ふる問題は廣きを以て、之を人に施し授くる處の財源は豊富なるも、元來教ふる爲に仕立てざる故教授法に疎し、此を以て大學生は教育家とするに最適當なる資格を有するも、亦一方には不適當なる點もあり」、とて今日の師範教育に反對する說と賛成する說と二樣あり。併しながら之を公平に考ふるときは甲論乙駁孰れも道理ある事なり。

抑も師範教育を受けたるものは、學力淺薄にしてしかも機械的の傾向を帶ぶるは免れ難きことなれど、又必要なるものなり。而して教育家中模範的の人物、卽ち學校長教頭とも云はるゝ如き人物は、歐米に於ても概して大學の出身者に多しとす。外國には大學夥しと雖も悉く善しとも云ふ可らず、先づ一例をあぐればクラーク大學、コロンビヤ大學、イリノイス大學、シカゴ大學、ハーバアード大學等の方針は、人物を養成する事は實に大學教育に於てすべきものとす。故に人格の高き事、財源の豊富なる事等は此の種の大學教育によりて得るものなり。而して其の上に猶教育家たるべき資格は教育學部に於て更に教育家たるべき精神及び方法を教ふるなり。斯くの如くして世に出だす時は最有力なる教育家を養成することを得べし。我大學は如何なる教育家を出だすかと云へば初めより、第三者を作るにあり、故に此の次に開設せらるべきは卽ち教育部なりとす。

さて予の今日迄の經驗によれば、一般の婦人は恐ろしき大望を有するものなるが又一方には實に小成に安んじ易き傾きあり。而して目的と手段と、換言すれば精神と方法とを顚倒して始終動搖する弱點より、將來非常なる大望を抱ける爲に、動もすれば今日目前にある小さき本務を怠ること多し。併しながら之は大に注意すべき事なり。諸子は知らん豊太閤を、秀吉は群

雄割據の後をうけて天下を統一せしも、猶日本の國内に安んぜずして支那朝鮮にも手を出す程の豪傑なれば、若年の頃より非常なる大望心を抱きしならん。されど蒼龍未だ雨を得ざる時に於ては、人の最賤しとせる草履取りをなし、しかも最よく之を勉めたり。此の草履取りに忠實なる人にして、始めて關白となる事を得るものなり。予が諸子に敎ふる所は偉大なる人物となること、立派なる婦人となる事、人格を高くすること、品性を養ふ事、財源を豊富にする事なり。人の最大切なる處は心の置き所にあり。其の方針を誤まらずば、男女に拘はらず、又老若に拘はらず、何人と雖も、立派なる人となることを得るものなり。然るに方向に迷ひ、進退に狼狽するが如きは畢竟心の根據を發見し得ざるに因るものにして、五里霧中に彷徨するが如きは必ず心中に何か惡しき點あるによるなり。諸子の前途は多望なり、從って諸子の將來には是非確守すべきもの頗る多し。希くは諸子自奮自重せられん事を。

（「花紅葉」第一號）

研究科につきて

研究は今迄種々の方法を以て度々試みたが、中々困難である。如何にして此の困難に打ち勝つ事が出來るであろうか、或は研究の精神といふものは女子には求め得られぬものかと疑惑の心が起こるかも知れない。けれども若し自分の心を疑ふたならば何事も成就する事はない。されど又確信を得る丈けの道理がなければ其の疑に勝つ事も出來ない。夫故に從來如何に戰うても勝つ事の出來なかつた困難に如何しても打勝たねばならぬといふ決心を固めて貫ひたい。日露戰爭の起る前に國民は先づ果して日本が露國を制する力の有りや否やといふ事を疑ふた。けれども露國は漸々專横を現はして遂に許す事が出來なくなつたから、勝負は天運に任せて戰はん、戰ふ以上は必ず勝たねばならぬといふ決心をしたのである。其の決心の結果は今日既に表はれて斯る大勝利を得て居るのである。併し此勝利は今日偶然に得た者でない、如何にして勝つべきかの問題に就ては充分に用意し充分に研究し且國民は悉く　陛下の御膝下に集まりて一致團結した。之が卽露國に勝つ事を得た第一の原因である。卽我國は第一に團結第二に研究心が露國より優れて居るのである。露國の敗を取つたのは右の二原因の缺けた爲である。我參謀本部ではあらゆる財力知力を用ひて世界の粹を集め强固なる團結力を以て陸海軍を組織して居るのである。凡ての研究が敵國の先を制して居る。併し乍ら國家は唯陸海軍計りで成立するものではない、必ず之に伴ふ事がなくてはならぬ。他の事とは

即ち我國の商業學術の進歩教育の有様等である。是等のものはどうであるかといふに我國に大學の整頓したものは東京に一京都に一よりないので譬へて見れば軍艦が二艘よりないのと同様のものである。而も是等が皆凡ての新知識を取て他國に劣らぬ研究をして居るであらうか。英米に於ては國内に幾多の大學が有つて女子の爲に門戸を開いて種々の研究をして居るのである。若し我國で教育に於て負けを取るならば將來各國と競爭して國運を發達せしむることは到底望むべからざることである。我國女子の大學は今茲に一つ出來たが決して之を以て滿足することは出來ない。我女子大學をしてユニバーシチーとならしめねばならぬ。我校にはまだ其の價値がないから今から夫を試みんとするのであるが、研究科生は實に其試驗をせられるのである。故に研究科生には此校に於て希望する所の研究的頭腦と研究的協力一致とを要するので、是は恰も陸海軍に於ける研究的精神が　陛下の御威德の下に團結して此連戰連勝の結果を得ると同様であらねばならぬ。併し乍ら此研究は實に容易でない。女子には殊更困難である。獨り我國ばかりでなく、西洋に於ても其の初めは同様に困難を感じたが、漸々發達して今日の狀態となつたのである。困難に遇うて躊躇すれば勝利を得る事は出來ない。諸子は決意を茲に要するのである。成遂げねばならぬ、必ず成功するといふ確心を要するのである。諸子が研究上困難を感ずる點を擧げて之に對する我意見を參考として述べて見れば

一、我校に書籍館のなきこと

併し是は研究を妨ぐる强い原因であるといふ事は出來ない。必要なる材料を求むる爲に團結したならば採集せられないことはない。又必要の書物は之から購入する。

二、語學に不熟練なること

外國の書を讀まねば眞の研究をする事が出來ないといふ困難が起こるであろう。何れの學校でも大學となれば、少なくとも一二の外國語を要するのである。併しながら諸子は目下の急務の爲に、充分に外國語に通ずる迄研究を待つて居ることが出來ないのである。スペンサーの如きは餘り外國語の習得に骨を折らなかつたがあれ丈の大學者となり得た。大隈伯は筆を以て帳面一つつけられたことはない。外國語も餘り達者でない。けれども世界の大勢に通じて凡ての新知識を得てよく消化し眞の意味を研究をして居られる。故に語學に不充分の件も研究を妨ぐる原因とはならない。

三、器具標本の缺乏

今はないけれども集められない事もない、これが蒐集に着手

するのも研究の一である。

四、境遇

之は第一の強い原因であろう。婦人と生れては到底學術のみの研究に從事して居る事は出來ない、一度は必ず家庭に入らねばならぬと、之は外部の障害であるが、果して女子教育の進歩せぬのは之が原因となるのであるか否かは疑問である。それよりも強い障害を與ふる內部の障害はないか。若し研究し得る樣に內部が發達して居るならば決して外部の障害にのみ妨げらるゝものでない。又研究の材料財源の缺乏も決して研究の障害の原因とはならぬのである。歐米の文明日に新となるのは何の故であるか。是は彼の國民は現狀に安んぜずして如何にせば進歩發達すべきかと日夜心を勞して居るのである。つまり押へられぬ向上心があつて凡ての物質に精神に進歩を來すのである。熱心なる向上心卽眞理を愛する心が發達せねば進歩することは出來ない。

研究力を增加する件

一、內部に求むべき財源を發見し其開拓が解れば研究力を生ず

二、共同研究の習慣を養ふこと

三、一層組織的の指導と一層強き衝動とを學術研究に與ふる事

我國古來研究の障害とも云ふべきは

一、我國は古より祕傳を重んず

西洋にては發見せることを直に公衆に發表す

二、小國民の根性とて何事にも心が狹い。人と共に行はんとする力乏しくして互に相容れず

三、個人に向上心乏し

四、學問をいつも書籍の上にのみ求めて實地の觀察をせぬこと

と、眞理を應用して行く熱心の足らぬこと等である。

今後諸子と共に實際の社會を研究しようと思ふ故によく此の心を以て奮勵せられんことを望む。卒業生が些細の事でも自ら手を下して處理するは實に喜ばしき事で、之によりて追々研究心が發達し疑なき確信を以て進まれんことを希望する。

（「花紅葉」第一號・櫻楓會第一回例會）明治三十七年五月

家庭週報發刊につきて

社會の需要に應じ、時の必要に赴かんには、われ等は敢へて磐根錯節をも辭せずして、進んで之れに當らざるべからず。

新聞の事業たるや、從來多く男子の手になり、女子はたゞ訪問記事、文苑欄の一部を擔當するに過ぎざりき。これらの業を爲すに於ては、觀察力、判斷力、思惟力、組織力必要にして、

これ等は最も女子に不得意のものなればなり。

今この櫻楓會に於て家庭週報の發刊を見るに至れり。この發刊に於てや、毫も男子の手を借す所なく、しかも經驗なきものゝ手に一任せり。これその不得意、及び經驗なき事を省る能はざるの必要あればなり。

經驗はもとより爲さざれば得る事能はざるなり。不得意は果して不得意なりや、未だ我國女子にしてこの業をなせるものあらざれば、能はざるにあらずして爲さゞるにありや否や知るべからず。況んや不得意なりとて之れを打捨ておかば、遂に發達するの機なきに至らん。

然れども家庭週報の生れいでたるは、これ等の必要は第二なり。我校已に大學部に於て、百數十名の卒業生を出したり。その卒業に先だち一つて團體を組織して、この校と卒業生、及び卒業生各自との聯絡を結びたり。之れ卽ち櫻楓會なり。この櫻楓會たるや、たゞにその聯絡を結ぶのみにあらずして、共に相助け、共に相計り、共に相益して以て、國と人とに捧ぐる所あらんとするなり。已にこの精神あり、これを宿すべき身體あらざるべからず。

家庭週報は實にその身體たるべきなり。櫻楓會を養ふ血管、神經を宿せる身體たるべきなり。さればもしその會員にして、他の會員に向ひ、學校に向ひ、社會に向ひて大勢を作らんとせば、宜しくこの身體を借りて叫ぶべし。また人をも、社會をも益するの研究發見あらば、この身體を借りて、これを世に運ぶべきなり。

故にその載する所、世に阿(おもね)るの必要なく、徒らに人の短所を指摘して事々に破壞するの必要もなかるべし。ひたすらに世の益を計り、世とともに進み移りて、光りを與へてこれを導き、花に流れず實に乏しからざるものたるべし。

卽ちこは新聞ありて記事あるにあらず、記事ありて新聞あるなり。かつその特色としては進歩的なるべし。建設的なるべし。また常に研究的態度をとり、空論に走らず、空理に耽らず、實際に近かるべきことを期し、凡て記事は正確公平なるべし。もし世の人のこの紙面を手にするものあらば、常に何をか學ぶ所あるべく、慰めらるゝ所あるべく益せらるゝ所あるべく、この紙面をしてさながら家庭の思ひするに至らしめんとするものにして、傍ら前述せる第二の必要ともいふべき、觀察力、判斷力、思惟力、組織力を養はしめんと欲するなり。

かゝればこの紙面の完全ならざるはもとより、極めて幼稚なるものなるべけれど、たゞこの紙面の今日は昨日に勝り、明日は今日勝るものたらしめて、聊かなりとも進歩發達の途につか

しめんと希ふものなり。

已に社會の需要に應じたり。時の必要に赴きたり。前途また磐根錯節なしとせず。務むべきを務め、勵むべきを勵みて、倒れて後已まんの決心を期せよ。

（文責記者）

（「家庭週報」第一號）明治三十七年六月

戰時に於ける婦人の責務

一昨日宮內省に出頭の節香川太夫より洩れ承る所によれば、皇后陛下には御機嫌麗しく渡らせられ、又非常に御多忙にて殆んど御寢食を忘れさせ給ふ程なりとの御事にして、大御心には常に世界の地圖は勿論、我艦隊の軍艦の圖を畫かせられ、我軍の勢力集注の模樣卽ち戰地並に諸外國よりの通信は日夜の別ちなく、到着すると直に御覽遊ばさるゝのみならず、出征軍人の遺族並に家庭負傷兵の事等は日夜御念頭を放れず、かくの如くかしこき御精神上の御同情は出征軍人、並に家族、國民の上に加はるのみならず、日夜御手づから勞働を遊ばれ、彼我の負傷兵の爲に繃帶を作らせたまふに日も足らぬ御有樣なりと、かゝる一大時期に遭遇し、陛下の御誕辰を祝するに當り、其の御仁德を深く感謝し奉るのみならず、恐れ多けれども其の御實行にならひ、我々も大に此の際に於て奮起すべきものならんと信ず。而して我々の學び奉るべき事は

第一、質素勤勉

両陛下の常に御質素にましまします事は曾て振天府拜觀の時に感じたり。かくの如き御精勵御質素は卽ち義眼義手義足となりて彼我の負傷兵に便宜を與へたまふ賜とかはり、又一昨年本校に賜りたる御下賜金となるなり。其の他數ふるに遑あらざれども、其の結果は多數の國民の上に惠の露となりて下り、教育、慈善、赤十字社事業の御奬勵となりてはたらくなり。かくの如く質素儉約の御德を具へさせたまふのみならず、日夜御忙しく御手づから繃帶を作らせたまふ。我々臣民は此の尊き國母の御德にならひ、蓋し質素儉約を守り勞働を尊び、奮ひて進むべきものなりとす。故に日露の間に事起るや、一同儉約をなし、又手仕事をして集めたる金數百圓に上り、一定の額に達したる時に赤十字社なり恤兵部なり適當の所に献納するは善き志なりとす。而して更に一層勞働を尊び、經濟的思想を養ふ事最必要なり。無論奢侈の宜しからざるは云ふまでもなき事なれども、此の際にかゝる風が國民的となるは喜ばしき現象なり。然れども極端に走する時は消極的に考が向ひ、經濟も萎縮し、生產事業

振はざるに至るは大に憂ふべき事なり。

我々は財を無益に消費せざると共に、益々之を殖すべき品性を作らざるべからず、然らざれば文明に進む能はず、故にかゝる多忙多事の時には陛下の御身を以てかゝる勞働を遊ばざるゝを思へば無論勞働を重んぜざるべからず。故に本校にては殊に此の事を奬勵する爲に、身體を働かする校風を與へたり。即ち此の度より新に彫刻、粘土、造花、刺繍等の科目を入れたり。我々は書物の上にて學問をするのみならず、手足を練りて之までの習慣に益々新しきを加へて、種々の手業をなし得るに至るは各人にとり、又體育にとり、意志にとり必要の事なりとす。

第二、同情の念

陛下の御感化は最近き華族の中に及びて、種々同情の働らき社會に起る事は最喜ぶべき事なり。愈々戰局を結ぶの曉には困難なる家族、父を失ひたる子女を生ずるならん。我々は此の困難を救ふ事に應分の力を注ぎ、又出征軍人に對し、傷病兵に對し御德にならひ、相當の同情を表すべきものと考ふ。

第三、內を守るの本務を全ふし、出でゝ戰ふものゝ爲に內顧の憂なからしむる事

內に良妻賢母ありて內顧の憂なからしめば、男子に幾倍の勇氣を生ぜしむ、之に反する時は男子は勇氣を摧かれ成功の半を減殺さるゝなり。今日我兵の强きは妻たり母たるものゝ强きが爲なり、かくの如き例證は枚擧に遑なき程なり。此の講堂に集る家族の中にもかくの如き例は乏しからざるなり。數日前に沈沒の不幸に陷りたる吉野艦の曾て日清戰役に働きたる時、同艦副長は軍功をたてられて、負傷の後死去せられたりき。爾來其の夫人は女の手一つにて五人の子女を育てて、其の中の一人は本校にて牛乳の配達をして勉强せらる。今日以後益々かくの如き婦人を要す。强健なる體格、磨きたる知力、同情深き品性を具へたる妻、娘を要す。今日我國の男子たるものは軍人のみならず學生、實業家、官吏何れも此の戰場にたち幾多の冒險をして勇往邁進せざるべからず。故に如何なる境遇に處しても夫、父、兄弟をして內顧の憂なからしむるの女子を要す。故に我等は此の未曾有の大時機に際し、國母陛下の善き御手本にならひ益々質素儉約の德をつみ同情の德を養ひ、意志を磨き、知力を鍛ひ、體を練りて今日の國民たるに適する性格、第二の國民の母たるに適する品性を養はざるべからざるを感じ愈々益々奮起して進まん事を希望す。

（「家庭週報」第二號・地久節講話概略）明治三十七年六月

研究を以て本務とせよ

此の學期は實に多忙で夢の中に過ぎ去つた樣な心持がする。第一回の卒業生を出し、其の式を擧げ、新入生を迎へて歡迎會を開き、研究科を置き、次で學監を海外に送り出し、戰爭の爲に繃帶を卷き、春季運動會を催し、實業部を開き、新聞を發行した等實に經驗のない事許りを引續いて一同が協力し一致して櫻楓會の爲に盡された事は實に會長として深く之を謝さねばならぬ。諸子が今年の活動に關して充分の誠意を以てなされた事は充分に私の認むる所である。併し昨年も申した通り其の一分一里の不足はないかといふとそれはあるのである。此の不足の小言は其責めを諸子に歸するのではなく余自ら之を負はねばならぬのである。諸子の盡された美點を擧ぐれば限りがないが、時間が不足であるから其の缺點のみを云う積りである。責任ばかりは自ら進んでも重きを負ふて決して惡くはないから此の事を諸子に言はんと思ふ。

先刻湯本教授が今日我國婦人を實際に研究するのは諸子の外にはないといはれたが余も全く同感である。余は二十餘年間女子教育に從事して聊か其心理を觀察したと自信する。初は少しも女子の心理が解らないで失策をした。譬へば惡い事の有つた時に之を直接に叱ると直に泣き出して返事をせぬ。それで之では駄目なりと思うて情を以て親切にすると直に馴れなれしくなつて少しも定つた所がない。學問を敎へて解つたかと思うて活用問題を與へると少しも出來ない。實に初の經驗では女子は叱つても理屈を敎へても駄目である、表面は心服した樣に見えても陰では惡口をいうて居る。實に女程解らぬ複雜な心理の者はないと思ふた。不透明のガラスの樣なものが日本婦人の心かと思ふと實に勇氣もなくなつた位である。斯樣な勇氣のない婦人許りでは駄目である。怒らさぬ樣泣かさぬ樣にする女子敎育では全く駄目である。是は全く臭いものに蓋をして置く樣な物であるから、叱る時は叱り逃る人は逃して、跡に殘つた者を敎育して健全なる女を作らふといふ事を多年の經驗に依つて決心したのである。否といふべき時に否と云うことの出來る人でなくてはならぬ。

會といふ樣な團體には凡て犧牲的精神が必要である。例へば會に出席する樣な時でも其の時間に出席して見ても他の多くの會員がまだ出席せずして會が開かれないといふ樣な場合には次回から自分も時間を後らして出席するといふ樣なことをしては會の發達する筈がない。自分は常に時間に出席して待つて居る

時間を無益にせぬ樣に用ふるのが必要である。會員に犧牲的精神がなければ其會は發達しないのである。我軍隊の强いのは是れ犧牲的精神があるからである。初めに廣瀨中佐の樣な人が出て閉塞隊が犧牲となつたから其精神が廣がつて今日の結果を見ることが出來得るのである。櫻楓會の事業も軍隊のそれと異なつた事はないのである。自分で主となり團體の爲に盡す覺悟があれば會は益々發達するのである。今日我國女子と同齡の男子は生命を賭して國家の急に赴いて居るのではないか。我國の爲に種々盡さねばならぬと認めて居る女子が犧牲的精神を養ひ、以て國家の爲、團體の爲に盡すのには實に好機會である。國家の爲、櫻楓會の爲、諸子が大に眼を覺まし各人責任を負うて貰ひたいと思ふから、斯る希望を以て諸子を責めるのである。諸子が弱くして泣き易き母親とならば實に心細いことである。丈夫な役に立つ淑女となつて貰はねばならぬ。其つもりで誤解せぬ樣に聞いて貰ひたい。詞は少し强過ぎるかも知れない。

我校の現狀は二三年前とは正反對になつて來た。以前は多くの中衝もあり委員方も種々懸念せられたが今はなかなか評判がよくなつて來た。入學者も年々增加して來るし委員達も安心せられ又責任も從て重くなつて來た。是第一回の卒業生が出て斯くなつたのである。其一例を擧ぐれば卅年間米國に在つた人が歸られて、此の間本校を參觀せられたが、その評判を聞いたところ、此の學校の生徒は米國婦人から御轉婆といふ特性を引拔いた樣なものである。如何にも日本婦人は斯くあらねばならぬといはれたさうな。又大隅伯は、理想を實現して居る婦人もあり模範となるべき生徒もあるといはれた。又櫻楓會の會員は感心なものである。種々考へて寄附金などもして活動をして居ると賞讃せられたのである。伯が斯く云はるゝと岡部子爵は實に其通りである。斯る働き振を見ると充分に信賴して事を托することが出來得ると云はれた。斯る結果遂に余が今日迄常に考へて之を公言しても一度も耳を傾けなかつた事を、今では却つて他より要求せらるゝことになつた。卽ち此の學校に模範小學校と幼稚園とを設立することを委員會に持出されたのである。其の模範學校とは廣い地面を借り受けて山林池等を作り生徒をして唯書物上の知識のみならず實地教育を施さんとするのである。其の設計は全く之を汝に一任するが金は幾何あればよいかと云はれたのである。又實業部にも二千圓計り資本金がいる、之を學校の基本金の中から出す事を許された。又家庭週報にも滿足せられて其の結果余が人を保證すれば皆之を信用せられることとなつた。斯くなれば實に櫻楓會の責任は重いのである。今の文部大臣も非常に本校の爲に同情をもつて賞讃せらるゝの

である。斯の如く學校に最關係の深い方々に賛成せらるゝといふことは實に喜ぶべき事である。されば諸子は此の重い責任を負うて之に堪へ得る丈けの用意をせねばならぬ。唯今の所實業部に於て又其他の方法によつて自給して研究科に殘て居る人が澤山ある。是等の人々に注意したきことは自ら既に卒業したりといふ心を起して油斷をしてはいけない。米國に於て女子大學卒業生がウエーターとなつても少しも其學問を顔に出さないのには感心した。我國に於ても斯る實業部を開き自給の途を立てたのは實に感心である。又高等女學校の方の職員となつて居らるゝ人達も別に教員として迎へたのでなく、唯其自給の途を開いた計りであるから、研究科生として授業料もとつて居るのである。研究科生の最重き役は研究することである。それに實業部なり又外の職業を持つて居る人は其職業が本務の樣になつてドーも研究が餘り出來なかつた樣に思はれる。實際なれない事業を片手に非常に多忙であつたには違ひないが、飽く迄も研究的精神を以て其本務とし、片時も之を忘れてはならぬ。諸子が世の研究せんとする女子の模範となり得るや否やが試みたいのである。東京の此學問の中心に於て此學校に於て滿足して勉强することが出來なかつたら全く駄目である。どうか現在諸子の上に重く掛つて居る責任を知つてどこまでも研究的精神を以て進んでほしいものである。

（「花紅葉」第一號・櫻楓會第三回例會）明治三十七年七月

經濟的品性の必要

吾人は己に生あり、早晩死するをまぬかれざるべし。然れども吾人の作りたる一つの團體なる櫻楓會は永遠に生くるものならん。またその生命と共に、品格、精神は限りなく發達せん。畢竟會を結ぶは、吾人の今日有する生命、又は生涯辛苦して作りし品格を限りなく、子孫に傳へんとの意なり。其の生命は決して個人によりて出來うるものにあらずして、多くのもの集りてなるものなるより、如何なる偉人と雖も、會の品性を備ふること能はざるほど理想に近きものにして、吾人はこれを模範となすと共に、またおのが心の集中點となすべきなり。この女子大學の如きも廣く委員方の賛助を仰ぐは、また多くの委員方の品性をも加へんとの意なり。且つ直接これ等の人に接してはその感化を個人の品性に及ぼし、延いては子孫に殘して次の時代に一層進歩する國民を生ずる土臺を作るをうるなり。今日森村氏に接する折をえたる吾等は、會に、個人に森村氏の品性を加へんと希望して止まざるなり。

吾れ等の品性に兩方面あり、卽ち經濟的品性、心靈的品性なり。これは二のものにして、互に一致する所なきが如く見ゆるも、實は二にあらずして一なり、眞の品性は、この二、相須ちてこそ、始めて完全なるものといふべきなれ。然るに我が國學生の概ねは、この二の品性が互に相衝突して容れざるものゝ如く考ふるはいかにぞや。經濟卽ち富を欲するが如きは、甚だ賤しむべきが如く考へ、道德は貧者のものゝ內にあるかの如く考ふ。かゝる誤解を來せしは社會の弊風といふべし。東洋の敎へにも、衣食足りて禮節を知るとあれば、この道理は夙にわきわまふるも、蓋し迷ひ易き問題なればなり。

吾人の品性は如何なる由來によるべきか。第一遺傳より來るもの、天性卽ち是れなり、第二修養により作らるゝもの、卽ち自ら務めてうるものと社會より得るものとの二あり。此の天性と修養によりて得たるものと結び付きて、第二の天性を作り、これを品性とはいふなり。この品性は靜止するものにあらずして、常に新しき品性を加へつゝ進化するものなり。新らしき品性を得ることは、新しき力を得、新らしき活動と希望とをうるに至る。この新らしき活動は、新らしき境遇を欲し、此の境遇はまた新らしき品性を作る。この進步は經濟的の主義と同一なり。天地の理法も吾人の理法も、二つの働きをなす。一つは進化的、建設的、一つは消極的、破壞的にして吾人の作用は一方に消しつゝ一方にこれを補ひつゝあり。精神上に於ても然るなり。この二つの作用相平均せば、古今東西この世の中には變化なかるべし。されどもし消極勝てばこの世の中は退步せんも、積極勝てばこの世の中は進步し、人心に餘裕があるより、更に新らしき品性を產み出すなり。

經濟的品性は身體又は境遇、卽ち外界の品性にて、心靈的品性は心の品性なり。宇內には心身ありて密接の關係を有し、道德は心靈的品性を造り、物質は經濟的品性を作る。而して精神進化せば自から、肉體も進化し、肉體進化せば、精神も自ら進化す。かく相須ちて進むものなり。

凡て進化には力に餘裕なくては叶はぬものなり。筋肉が使用すれば使用する程發達する如く、人の腦髓も使へば使ふほど、益々進步するものなり。これ使用すれば、常に新らしき力を加ふるを得ればなり。

この新らしき力を加ふるには、是非共新らしき境遇を欲するなり。その新らしき境遇を欲するには經濟界に訴へざるべからず、吾人の周圍の境遇を支配するは、凡て經濟的品性ならずや。食物、衣服の改良せられざるは、經濟的品性なきによる。この品性なき時は實際に迂きものとなるをまぬがれざるべし。

わが櫻楓會もまた心身の兩方面を備へざるべからず。如何にわれ等はこの櫻楓會の主義目的を達せんと企つるも、もし經濟に餘裕なくして能ふべんけんや。心靈に於ても然り。自らの力に餘裕ありて始めて人の爲をも計るをうるなり。かく何事も經濟的の主義を離れては、眞の品性に達せざるなり。さればとて心靈的を離るれば所謂守錢奴の無益のものとなり終るべし。諸子は森村氏に接してその心靈的、經濟的品性を完備せらるゝ點に鑑みて、各自補ひ、養ふ所あるべし。

（「家庭週報」第三號）明治三十七年七月

暑中休暇に先ち別れを告ぐ

この學期はわれも人も、特に時の早きことを經驗せり。顧ればこはまづ二の理由に歸因するなり。

我國民は嘗て今日の如き時に際したる事なければ、いかにかゝる時を處すべきかを知らず。

此の學期の仕事、餘りに多かりき。その重なるものを擧ぐれば、第一回の卒業式をあぐると間もなく、學監の送別あり。その二週間の後、春期運動會を催したり。春期の運動會は、今回に於て始めて開かれたるものにして、凡て生徒自身の計畫、斡旋によりたるものなり。また時局問題はわれ等を安逸に起居せしむるを欲せしめず、軍服裁縫、軍用腹卷編み、繃帶製作等の事をなし軍服百着、腹卷若干、繃帶二千卷は已に製作せられたり。

これ等は皆微力と雖も、包むに餘る精神は確かにあらはれたり。繃帶につき、三宅博士を始め赤十字社社員の語る所によれば、五百本詰の箱に、こゝにて卷きたるものを入るれば、二寸許りあくよしなり。これ卷き方固かりしにて卷き方固かりしは、いかに一同が心づくし、注意の上にも、注意して、精神こめしかを知らるゝなり。研究科生は、特に時の短かゝりしを經驗せしならん。元來我國に於ては一般に、研究的頭腦に乏しく、女子に於ては數千年來の遺傳によりて一層この心に乏しきなり。從つて先例なく、經驗なきことなり。されば研究せんとせば、まづ自ら方法を考究するの外なきなり。爲に今こゝに何事をか研究せんとするには、準備の爲、大に時を用ひしならん。その他、國文、英文、家政、三學部の生徒もいかに研究會に力を入れしかは、先き頃催したる各部の研究會を見て知ることを得たるなり。一言もてその特徴を評せば、英文科は感興的にして、國文科は感動的に、家政部は嚴肅なりき。たしかに英文科はこれによりて技術と快樂とを得、國文科は趣味と、教訓

とを與へ、家政部は研究心を鼓舞せしめしならん。二年生もまたその研究會に力を入れし事を知らる。國文科は時代と文學、英文科は女子の職業、家政部は家庭に於ての副業につき研究し、各詳細の報告をなしたり。これその研究心の生産物としていかに發達せしかのあと明らかなり。

櫻楓會に於ては新に、商業部、銀行部、牧蓄部、園藝部、新聞事業を開始せり。斯くの如き事業は男子の手を借らずして、女子自ら着手せることは嘗て例しなきことなり。されば自ら考をあみ出して計畫を立て凡ての事をなさざるべからざるより、思ひの外の時を費したることは止むをえぬことなれど、またこれによりて千幾人よりなれる此の校の機關を運轉せしめ、統一せしめたる効は、蓋し少なからざるなり。

かく全校の生徒は、習ふより慣れよといふ主義をもて、事をなしたるその經驗と勇氣とは、誠に尊ぶべきものなり。この頃麻生學監よりの消息によるに、外國の實業學校に於ては教科書を用ひず、また、たま〳〵用ふる處あれば、己が學校に於て編纂したるものなれば、凡ての事情に適合したるものなりと。今この校に於て、かく經驗なしつゝ何事をもなすは、時の多くと、力の多くと費ゆれども、後に至りては何事もなしうるの力を得たりしを喜ぶ時あらん。

且つやわが國にては學校にてなす事多きに過ぐるなり。然らばこはその課目を減ずるを得べきか。またその分量を減ずるを得べきか。否、凡て今に於てすら半熟にして、時をも分量をも增さんとの要求こそあれ、減ぜんなどの思ひもよらぬことなり。何故にかくわが學校教育は忙殺せらるるか、これには種々の道理と原因とあり。その中最も重なるものは

我國の學校は、家庭、社會にて教ふべき事を、盡く學校にて教育せざるべからざるなり。例へば裁縫、音樂、料理の如き、茶道、生花、造花、刺繍の如き皆家庭教育にて充分なるものなり。その他、常識の教育、社交、良習慣、確信、品性等をさへ悉く學校に於てなさざるべからず。こは重に父母家庭の教育によるべきなり。これ等は外國に於ては家庭教育、社會教育によりて充分にして、料理などは七八歳より自然に覺え、音樂も家庭に於て、自然の遊戯の間に養ふをうるなり。また經濟の頭も子供の中より出來、その得たる金は公共事業、人道の爲に費すなり。家の周圍はガーデン、芋畑等にして後園は牧蓄場なり。さればこゝに養ひたる子供は自ら馬を禦し、園藝を覺え、木をきりて大工をなす。されば已に十六七歳に至れば、人間として、人生として必要なる技能は凡て養はるゝなり。されば萬一不幸の境遇に陷ることありとも、無人島に漂泊することありと

も、自ら保護し、自ら養ふの術を知れるを以て、中途にして主義をまげ企圖を中絶せずして可なるなり。然るにわが國に於ては、これ等すべての教育を學校に求むるをもて、學校は實に繁雑極るなり。

この繁雑、多忙は決して避くべからず、また抛つべからざることなり。これを抛たば、わが國の教育はただ教授となるの恐れあるなり。さればまづ我校に於ては、この校を家庭の如く、社會の如く組織して、眞實の品性を養はしめんと欲するなり。この理想に達するまでは、各々更に一致協力して、進歩發達を計つて止まざらんことを希ふなり。

この休暇に於て三年級の三十名は模範的の家庭寮を作らんとす。かゝるものはわれ等の理想に達するの途を早からしむるに與りて力あるを信ず。

然れども郷里に歸るものにもまた同様の事を希望するなり。我國人の避暑旅行は贅澤、遊情の國民をつくる。これ西洋の表面を模倣したるに過ぎざるものにして、實際西洋に於ては決して贅澤を許さざるなり。ただ避暑の目的のみを達せしむるのみにて、勤勉、勞働等はなほすてざるなり。

この二ケ月の貴き光陰を徒らに浪費することなく、家庭に歸りて充分に仕事を助くべきなり。さればこの夏期は最良習慣を養ふ時期に適するならん。諸子よ幸に同心協力して吾人の希望する所に近づかんことを計れ。

（「家庭週報」第四號・終業式講話）明治三十七年七月

我國の教育に於ける一大缺點

生物を愛さゞる事

我國の教育は家庭に於て、兒童に玩具を與へ、お伽譚を示し、學校に於ても、模造、標本、繪畫を供ふれども、その實物なる動植物を以て實際を觀察せしめ愛玩せしむることなし。即ち兒童をして自然界に接せしめて、生物とともに活動せしむるを缺きたり。されば被教育者は自ら實際に迂く觀察力乏しく、詩趣に貧しくして、常識を缺くに至る。これ我國現時教育の一大缺點ならずや。これを歐米の教育に比して益々その缺點の大なるを覺ゆるなり。歐米に於ては當時彌々、この弊を矯めんとして、或は山野、深林を教場とし、甚しきは大洋に航して、天地を逍遙するに至りたり。これ成可、生ける動植物に接して、その無限の變化に注意せしめ、有情の生物と交るによりて、種々の觀察、研究心を起さしめんとの企てなり。その結果として歐米の動植物に對する感情、義務心は、我國民に比して甚し

く異れるなり、余、嘗て外國へ遊べる時この事に關して珍らしく感じたる點、四あり。

一、動物の蕃殖を助くる心強きこと

少しの水澤あれば、直ちに龜、魚卵等を孵へすことを樂しみとするなり。勿論一方には、經濟的の考を以てなせども、これによりて卵を研究する便をうること大なり。これ獨り學者間に行はるゝのみならず、國民は一般にこの趣味を有し、子供に至る迄、遊戯の中に加ふるなり。一日農家に宿れることあり。その農家の娘は十二三歳の少女なるが、日々山中に分け入りて、種々の卵を集むるを樂しみとし、その色、形によりて分類するをまた樂しみとせり。これによりて、觀察分類等科學的精神を養ふこと大なり。その弟はまた、種々の貝を集むるを以て樂しみとせるなどいかに暗々裏に自然の趣味觀察、研究を與ふるかに驚かざるをえざるなり。

二、動物の教育に注意すること

ただ動物の繁殖に注意するのみならず、また樂しんでこれを教養するなり。その教養の祕訣は動物を愛するなり。即ち動物を物とせずして有情なる生き物として取扱ひ、常に親切、丁寧をもて接するなり。こは道德上動物に對する義務とし、家庭に於ては、小兒が徒らに動物を虐待すれば、親はその罪をせむるなり。わが親しくせし家の十二三になる少女は、家に養へる馬を友の如くに愛せり、されば少しの危險なきのみか馬もまた少女になづき、互の間にうるはしき情あり。馬は主人の從順なる僕となりて、凡てその命令に服するなり。これ一例にすぎざれども、凡ての動物をも、かく育つるをもて、決して人に害を及ぼさざるなり。

三、動物の治療術發達せること

嘗て我國には例しなきは勿論、外國にも未だその例少きことはミス、ボイジニヤ、ホープといへる婦人によりて建てられたる鳥の病院と寄宿舍なり。常に凡そ六百の病める鳥と五千の鳥を寄宿せしめ、驚くべき成効を見るに至りたれど、これただ一つの同情の生める仕事なり。即ち從來鳥の病に關しては、一人の專門に研究したるものなく、いかに愛憐するも、一朝病にかゝりては只死を待たしむるの外なかりしなり。ミスホープハ幼時より鳥を愛したるより、終に一身を鳥の病を癒さん爲の研究にそゝぎたり、さればその研究の結果は、鳥の醫術、教育として面白き言葉あるのみならず、修養の言葉として面白きもの

あり。凡てとるべき業は、殊更につくるべきものにあらずして、世の需要に喜びて應ずるにあり。又心なき鳥を治療するにも教育するにもまづこれを愛してその信用をうる事に、半ばの力を注ぐべきなりと。往々その診察する鳥の淋しげに愛に餓えたる嘆息をもらすを見れば、また鳥も人と同じき情をもつを知らるゝなり。その病の如きも人の病む病は大方ありて、從つて藥もまた人と同等のものを用ふるなりと、其の他寄宿舍にある鳥を教育するなど、幾多の興味ある研究はとげられたり。鳥もし言葉あらば、ミス、ホープに感謝する所大ならん。

四、動物の死後をも葬ふこと

もとよりこは一般のことにはあらざるべけれど、倫敦のケンスイングトンガーデンは特に貴族富有の愛犬の墓地に畫せられる。こゝに示せるは、その寫眞にして（寫眞略）殆んど二百にも近き御影石の石碑は、草花の間に建てられ、その碑銘は、生前の遺功をかたり、その死せる日と、名とを明らかに示せり。その碑銘の一二をあぐれば "My darling" "loving friend" 等を以てせり。かゝる事によりても、動物に對する趣味、あはれみを鼓舞することに、蓋し與りて力あるなり。

以上述べたる西洋の風は、或は極端に過ぐるものなきにあらねど、我國の如く、動物を殆ど心なきものゝ如く、愛情なく、虐待する事は道德教育に於て已に大に缺けたることなるのみならず觀察力を養ふ上よりも、大缺點といふべきなり。この一大缺點を補ふには、教育者は如何なる方針によらざるべからざるかといふに

一、學校家庭の周圍を改良すること

この頃文部大臣は訓令して植樹を奬勵せり。これ誠に必要のことなりとすれど、一層進めて學校家庭の周圍はガーデンとすること大切なり。かくして、或は密蜂、鳥獸の類を飼ひ、ただ玩具をもて教ふるにあらず、生物をもて教へ、これを愛する念と、觀察、研究の念とを養ふべし。

二、動物を愛する事を教ふべし

動物もまた、感情、衝動、記憶を持てる事をわきまへしめ、これを愛する事を教ふる事大切なり。凡て同情を以てこれに對はざれば養ふ事をえざるなり。

三、天然を觀察する力を養ふべし

凡て模型を示すを以て足れりとするは誤りなり。模型は死せ

るものなれば、生物の活動變化を知るをえず、只天然を觀察するによりて眞の觀察を遂ぐるをうべし。

（「家庭週報」第五號）

新人生觀

我々は今容易ならぬ、卽ち千歲一遇の秋に立つて居ります。

我々は、目下、單に、露西亞を征服するばかりに奮鬪して居るのではないです、日露戰爭の幕は、乃ち日本が自己を世界的一强國に其身を固むる世界的奮鬪の序幕に過ぎないです、否、やがて我々は日露戰爭より、より大いなる戰爭をせねばならぬのであります。

然るに、近頃の我國民の有樣は如何です、眞に如何です、一ツ勝つたといへば、もうそれで戰爭が終結したかの如く喜び、浦鹽艦隊が二三の商船を傷めるといへば忽ち此先が如何なるだろうかと危ぶむ、泣いたり笑つたり、一喜一憂、掌を繇すが如きものであります、斯る優しい、淺い國民で、以て、露西亞に勝ち、更に此先世界に勝つて往かねばならぬ大なる幕が打てましいようか、實に慨嘆に堪んです。

元來、女子は國の根でなければならぬ、而して新教育に爲人るものは、別してであります、若し夫れ、近頃の女子の如くに、男子を慰藉することは忘れて、男子を哀しましむる、國の根或は母となるではなくして、國の面の白粉であるといふやうでは甚だ不可んです、私は、今先づ我國民が如何なる主義を有して居る國民なるかを研究し、次いで、三四の所感を陳べましよう。

我國民と二主義

我國民の人生觀はこれ迄、已に二つの主義を現はして居ります、一は厭世主義で、一は樂天主義です、而して、此二主義は、共に以て此國民をして、大國民たらしむる所以のものでないです。

昔一休和尙は、正月元旦といふ極く御目出い日の朝、墓場から骸骨を堀出して、之を自分の杖先に衝掛けて、さうして年始回はりを仕たのです、他は皆喫驚して見て居りまするとと、坊樣仕濟したりといふ風に徐ろに說教なすつて、謂はれるに『アナタ方は、今日は、元旦だ、重歲だといつて、欣びなさるが甚だ可笑しいです、何故かといふに、今日は我々が、一番嫌つて居るところの死地に近く一里塚であるのではないか』と斯ういつたのでありました。

一休のいはれた、この思想は、卽ちこれ英語でペシミスズム、譯して厭世主義となります。

此厭世主義は、何處から發生して來たかといふと、無論印度であります、印度には、如何してこの思想が發生しました乎といふと、それには、三の原因があります、卽はち第一は無智――此萬有に通じて居る所の天地の大法則を知らなかつたといふことから、斯くの如き迷信が起つたのであります、第二は印度の社會の狀態から起つたのです、印度の社會は、四ツの階級、僧侶、武士、商人、勞役者――此階級は、上と下とでは、甚だ遠く懸隔して、且つ又非常に軋轢し、嫉妬心が深いものであります、實に、印度といふ國は、今に社會を成さないです、今に統一を成さないのです、誠に狹い考へを以て、互に嫉み合つて、居ります、此印度の社會制度が、終に印度國民を斯の如き氣の毒なる狀態に陷れて、數千年間、國を成すことが出來ず、國の獨立を奪はれても其羈絆を脫することが出來ないといふ慘狀を來して居るのであります、此社會觀が、漸々とペシミスズムといふものを起したのです、今日と雖ども、此厭世主義を奉ずる所の者は、社會の不平から起つて來る、社會の罪惡から出來て居るのであります、第三は宗教から起つたのです、卽ち佛教の寂滅、或は涅槃といふ所の言葉は、此思想を言ひ現はして居ます、この人生の罪業、或は社會の罪惡、人生の苦患といふものを救ふ方法は、只寂滅に入り涅槃に入るの外は無い、只死ぬるといふことに依つて初めて救はれるのである、空漠に入るといふことに依つて初めて救はれるといふ考へであります、この印度から起つた厭世主義が、段々と東洋に波及し、終には我日本も、同化するやうになつて來ました、卽ち印度のこのペシミスズムが、日本に這入つて來たゝめ、一休和尙のいひし如き思想が、我國にあるのであります。

而して、此思想が我國に如何なる力を有する乎といふと、これは、根深く這入つて居て永い間何事にも我國民の頭腦を支配して、直ぐ悲しみ直ぐ嘆息する、或は此世を味氣無く感ぜしめるのです、我國民は、全く一方ペシミスズムの國民となつて居るのです。

尤もこの思想は、西洋にも無いではなかつたです、例へば、近來の詩人で、セイリーの如き、バイロンの如き、又昔時の希臘の詩人にも、この主義を奉じて居つた者がありました、ソフホクリスの曲中に、人生の至幸は人生を味はざるにあり、卽ち產れなかつたのが一番人の幸福である、第二の幸福は、產まるゝや――此世に出づるや、否、元來し所に歸るにあり、產れたかと思へば、直に死ぬのが一番人間の幸福である、卽ち寂滅

に入るのが人間の至幸であるとして居るです、又シヨツペンハウエルの如きは、人の一生は苦しさ辛さの間に往復して居るものとし、ハルトマンといふ人は、人間の一生は、畢竟一長病に外ならず、卽ち我々の一生涯は唯一の長い病氣であるとして居るのです、斯の如く西洋にも悲觀的思想が、發生しなかつたではなかつたです、けれども西洋の天地には、此主義が發達しなかつたのであります。

而して日本人は全然厭世主義の國民であるかと云ふと仲々そうでない、厭世主義の反對に乃ち樂天主義の國民であります、これは、佛教渡來以前のことを調べると、澤山に、其證據が出て來るのです。否惟りこればかりでは無い、其後今日に至るまで其現象を觀ることが容易に出來るのです。マア、づゝと、一年中の節句とか、季節とかいふものを御覽なさい、お正月の飾は如何です、三月の雛祭五月の幟節句は如何です、春は花見、秋は月見、冬は雪見といふて、暑い時も寒い時も、瓢簞を提げ、重箱を携へてこの天然を、樂天的に觀察して、欣び娛しんで居るといふ國民であるのです、日本人ほど喜んで笑ひ、踊つて暮す國民は世界に餘り無いかも知れませぬ、又日本人ほど、能く飲み喰ひをする國民は無いです、確かに無いです、他の國民、殊に西洋の國民は、飲食は自分の健康の爲にするということが主になつて居るが、我國では快樂の爲に飲食をするやうに考えて居るから、芝居を觀る時でも又相談をする時でも、イヤお祭りがあるからといつても、人が死んだといつても、何でも可でも飲食ひをするのみならず、其飲色は娛みが主となつて、健康を害しやうとか、身體の爲にならぬとかいふやうな考は、餘り無いで、唯娛しく日を暮すが爲に、飲食をするのであります。

我日本は、從來、斯の如く、樂天的と悲觀的との極端なる二方面を有して居るのです、故に、一家内に往つて見ると、一方に神棚が祀つてあり、又同じ家に佛壇が飾つてあるのです、死んだ時には佛樣に賴り產れるといへば、神樣に祈るのです、お正月とお祭とかお祝とかいふときは樂天主義であるし、死んだとか、法事とか盆とかいふ時は、厭世主義であるのです、我日本の風俗は、全く此兩極端の分子で、組織されて居る樣に思はれます、故に個人に付て觀ても、此兩極端に陷り易い弊を以て居る所の國民の如く觀察せらるゝのであります。

現今の人氣は如何

我國民の人生觀は斯の如く厭世的と樂天的とであります、而して、現今、我國の人氣は如何です、是は果して樂天主義であ

るか、又厭世主義であるかと考へて見ると、矢張り現今も亦從來と同じく此二の異分子を以て混成されて居るのです。

今や日露戰爭は漸く歩を進めて、皇軍は破竹の勢を以て、露西亞を征服しつゝあるのです、けれども、一般の空氣は、如何です、日本國民の人氣は如何です、これ又泣いたり笑つたりして些ともドツシリとした點が無いです、旅順がもう陷るといへば、提灯行列に狂噪し、浦鹽艦隊が長門沖に現はれるといへば殆んど失心し、此分では何年かゝつて戰爭が了ふか困つたものだと頭痛鉢卷の人もあるのです、又一方にはナアニ日本は、神國だ、朝鮮征伐、蒙古退治、日清戰爭、皆大勝利の歴史を有して居る、這回はモスコウを屠つて、露西亞に城下の盟を爲さしむべしと力むものあれば、或は又取越苦勞をして、斯う不景氣では此分で、二三年も續かれては戰爭には勝つても後で國力を耗らして了ふから、二度の立勝負には負けねばなるまい、商工業は沈衰して了ふ、外交が失敗せねば可いが、果ては黄禍論などに驚かされて白人聯合に對して日本が一手にそれを引受けるやうになつては、と杞憂を抱いて居るものもあるのです。

其處で、現今も亦厭世かと思へば、樂天、樂天かと思へば、厭世であるのです、笑つて踊つて居るかと思へば、泣いて悲しんで居るのです、而して、甚だ厭ふ可きは目今は此兩分子の中稍々もすれば厭世主義の方が其量を多く有して居ることであります、我心に之ありて此影ありで、自分の心が悲哀で充さるればその反映を殘します、私は去年近衞公爵の訃音に接して急にペスミスチツクになりました、行く〳〵この日本は何故斯うだろうと考へて公爵邸に到つた所が、益々此感を深くし公爵邸を出でゝ其裏を回はりました所が御邸宅の近傍は非常の霜であつて、霜柱が立つて居る、恰も天は、近衞公の邸を溫めない如くでありました、近衞公爵の邸は、外の天地と異つて澄み凍つて居るが如く感ぜられた、又段々歩いて行つて空に鳥が歌ひ或は鳥が啼くといふと、何鳥も皆悲しんで居るが如く聞える、又音樂が響いて居る、其音樂は悲哀の情を添へるが如く聞える、何を見ても何を聞いても、此天地は洵にたゞ悲しい寂しいのでありました、これは、先づ第一に私の心がペスミスチツクであるから凡てが斯う見えたのであります、さて又我國の文學は何故アンナに悲哀の文字に富んで居るかといふことも、亦克く考ふれば我國民の心がペスミスチツクであるからであります。這回の事件に國民が戰勝の割合に世間の不景氣を呈せしめて居るのは、全く國民の心にペシミズムが潜んで居るためであります。

新人生觀を造れ

直ぐ笑ひ、直ぐ泣くが如きは、未だ決して堂々たる大國民の大國民たる態度ではないです、これは、野蠻時代、未開時代、小兒時代の迷信に外ならんのであります、我國民は、如斯、幼稚性を脱却して、容易には笑はぬ、容易に泣かぬ國民とならなければ、決して這回の如き大事件に成功し、次いで來る世界的の大戰局（兵力其他）に一等國の旗を立つることは出來ないです、若し然らずして、彼のペシミスズムを發すること從來より更に一歩を加ふるが如きことゝならば、我國は到底此厭世主義の唱える寂滅往生に歸する外は無い、涅槃に入るを以て滿足する外は無いのです、我國民が輕薄、浮華、虚僞、怠慢に陷り易いのは凡べて此爲であるのです、私は信じます、今日の我國は、恰も起るか仆るゝかの秋であります、此戰場に泣いたり笑つたり、或は浮いたり沈んだりは大禁物であります、然らば即ち知る、我々は此從來の二主義を根底より覆して、更に新らしく雄渾なる一大主義を立てゝ進まねばならぬのであります。

元來、樂天主義といふは、果報は寢て待て、ナアニ六かしいことを爲す必要は無い、如何か成るであろうといひ、又厭世主義の方は、社會の現象に不滿を懷いて、慨嘆悲哀に堪えない、けれども、如何ともすべからず、如何に我々が悶掻いたつて、如何に奮戰したつて、人力を以て如何ともす可らず、諦めるより外仕方が無い、成行きに任せる外途はないといふのであつて、即此二ツは共に困難に出逢ふても又喜びに出逢ふても、直きに自暴自棄に陷るものであります、即ち此樂天主義と、厭世主義とは、人間が「ラレル」「セラレル」苦められるのです、壓迫せられるのです、或は惠まれる、或は救はれるのです、イツモ外から來る、自分はジツとして居るけれども、外から「ラレル」此「ラレル」主義であります、此兩主義は即ち「ラレル」主義であります。

果して、此人生は、斯の如きものである歟、我々は唯パツシーブに働いて外のものから「セラレル」ものであるが、或は四圍の境遇が我々をスル儘にして「セラレ」て働いて居れば宜いものであるかといふと、決してそうでは無いです、支那人のいふ天道是乎非乎は是でも無い非でも無いのです、又萬有は、人間を可愛がりも憎みもせぬ、決して此萬有は、東洋を繼兒にし、西洋を愛子にすると云ふやうな不公平のものでは無い、誠に公平無私であるのです、此萬有は、自働的であつて、萬有が此四圍の境遇を作り、又人間の頭を作るのでは無い、矢張り、此萬有の靈長たる人間は、自働的でなければならぬ、さうして

此萬有を自働的に使はぬければならぬのであります。然るに、今申す樂天主義と、厭世主義と此萬有を自働的にして、人類を受働的にするのであります、我々の執るべき主義、我々の執るべき態度は、この樂天主義と、厭世主義の反對の主義であります、即ち自働的態度であります、詰り萬有をして、我が意思に服從せしむる、此社會をして、我が理想我目的我經綸に服從せしむる、改善して進んで行く、即ち此社會といふものは仕方がないものでは無い、仕方があるのである、我意思を以て、之を改善し進歩して行くことが出來るものである、果報は寢て待つても役に立たぬ、我から立つて働いて我から計畫を立てゝ我意思を以て、我目的を以て、進まぬければならぬといふ主義であります、之を私は自働的改善主義と申します。

然らば、我々は、此積極的主義を持ちまして今後彌々奮進せんければなりませぬ、否已に我々は日露戰爭を始めて、而して、見事に勝利を得つゝありますが、此戰爭は尚多くの未決問題を前途にかけ居り、且つ此戰爭と同時に我々の感ずるのは、我々も亦軍人と同じく此國家の或る方面の戰士でありまして、闔國皆これ兵で、世界の大舞臺に此國を立てゝ第一と稱せんければなりませんことであります。此時に方り我々は決して直ぐ泣いたり直ぐ笑つたりするやうな國民では不可です、而して我々は我々國民が今後奮鬪す可き要點を次に數へます。

第一　露國征服

露國は東洋の仇であり、彼は又世界ヒユマニーチーの敵であり、正義公道の敵であります、而して前にいふが如く我國家は今應に此露國を征服しつゝあります、これ非常なる意思と非常なる決心と勇氣との要ることであります。

然るに、幸ひなる哉、皇軍の力克く彼を壓迫し、不日目出度戰局を告げやうとして居るのであります、けれども露西亞人は最とも根氣强き國民であります、執拗頑冥の國民であります、實にこれが征服を了る迄には幾多の困難を覺悟して居らねばなりませぬ、然るに、目下、我國民は、動ともすれば一喜一憂といふ狀態であります、これ甚だ不可ないです、一旦已に露國征服の大目的を立てたる以上は、元より、幾程の日子を費すも、亦何事が湧き起つても、平然として其本分を守るの大襟度がありたいものであります、況んや我皇軍の連勝彼が如きをやであります、いよ〳〵非常の大決心を以て、世界人道の敵、東洋平和の仇、露國を最後迄征服せんければなりませぬ。

第二　世界商工業の戰爭

露國を征服すると同時に、世界商工業上に我國勢を伸ばして、其競爭者を征服せぬければなりませぬ、今此最近十年間の我國貿易の發達を御覽なさい、まだ中々幼稚なものです、第三は智力的戰爭です、第四は天然を征伏する戰爭です、第五は社會の罪惡並に吾人の惡習慣と戰ふ戰爭であります、而して、此最後のものが、一番骨が折れるのです、此戰爭に負けることが、一番怖いのです、昔からいひまする我々の外寇——外敵は恐るゝに足らぬが、心中の蟲が怖ろしいと、近衞公爵は、嘗つて東洋の山河を跋涉して少しも恐れなかつた、露西亞も亦更に恐れなかつた、けれども、其心中に這入つた一疋の蟲です、實に小さな一疋の蟲です、肺臟を侵し內藏を腐らした一疋の蟲は、恐るべきものでありまして、實に公は其蟲に其前途多望の生命を奪はれたです、最早我國は、其勁敵露國も見事に征服しつゝありまして、戰の上には格別恐る可きものがないやうですけれども、尙其最後迄には仲々安心が出來ないです、今後我々は克く此戰局を收めねばなりませぬのみならず、更に進んで外交に商工業に、社會に打勝たねばなりませぬ、而して凡べてこれが動力となるものは、實に此社會の體力です精神です、吾人は今日外日露の一大事件に成功すると、同時に內一疋の蟲の無いやうに、此國の躰を健全にせねばなりませぬ、然し我々は此無形の戰に、大に成功せぬければなりませぬです。

此戰は、勿論受働的ではなくして、自働的でなければならぬ、自働的に發展して、以て露國征服の目的を達して朝鮮支那を改善して、彼等に一の生命を與へ、尙且つ進んで、世界の舞臺に新進强者として、卽ち世界的に戰鬪して凡てに打勝ねばなりませぬ、然れども斯ることは勿論非常なる企であるから、勿論二十年五十年とかでも構はぬでなければならぬ、而して斯くなるには、先づ各個人が克く力ある人格を有せねばならぬ、各個人の力大となり、此力相集りて、國力偉大となるにあらざれば不可ないのであります。

軍隊力、經濟力、智力、其他あらゆる方面の力が一國に充滿し、五十年、乃至百年戰つてもビクとも仕ないようにならねばならぬのであります、而して、斯くなるのも一に我々自己が、自己の爲すべきを爲すより外に途は無いです、貿易が失敗に終ると嘆いても仕方がない、公德が薄いといつて嘆いても仕方がない、矢張り我々は子供に至る迄、一錢一厘を儉約せぬければならぬ、我々は子供に至る迄公德を重んぜぬければならぬ、時間を違えぬやうに、嘘を言はぬやうに、人の物を取らぬやうに、自分の爲すべきことは決して怠らぬやうにするのは、亦これ戰であります、外は軍隊が連戰連勝し、內は社會が其害惡に

連戰連勝す、此に至つて、始めて我々は大國民となる可きものであります。

今や我日本國民は正に其前途の運命に向つて一大開拓の端緒を開いたのであります、今日は宜しく舊來の陋習に泣いたり笑つたり、浮々とすることを止めて、自働改善の方針を探つて奮進奮闘すべき時であります、而して此社會の戰士中最も重大なる責任を負へるものは實に女子であります、何となれば社會は凡べて其根源を家に置く、家の根は母にあり、母は女子であります、卽ち女子は社會の根源であります、日本女子たるもの、幸に其人生觀に、一新面目を開かれたいのであります。

（文責記者）

（「女鑑」第十四年第十號）明治三十七年九月

米國の教育英國を醒まさんとす

英米教育の比較

もと同根より生じたるも英國人は常に米國人に對しては「ナニアメリカン」といふ調子にて、殆ど齒牙にかけざりしも、その子供視したる米國は近來長足の進歩をなして、當に世界を凌駕し萬民をして驚嘆せしむるに至らしめたり。抑その原因何れに潜めるかを尋ねて以て文明に資せんとするもの英國の識者中に輩出するに至れり。

英國實業家モスレー氏の發起により、英の學者教育家二十六名を米國教育調査委員として米國に派遣し、親しくその教育を視察研究せしめて、今や精密なる報告成れり。余これを一讀して如何にこの調査の結果が英國民を醒まさんとすると同時に我國教育に資すべき材料を含有せるかを感ぜり、故に大要を述べて、諸子の參考に供せんとす。

その發起人モスリー氏の企圖を畫したりし由來及び氏自ら觀察せし結果の要點を摘し、併せて二十六人の調査をも總合して、英米教育差異の點及び米國教育の英國教育者に與へたる感動の何れにありやを明らかにせんとす。

この調査委員の成立は、僅かに二年前にありと雖も、モスリー氏のこの企を起せしは實に今より十七年前の事にて、氏が亞米利加トランスバールに於て、金剛石鑛、金鑛採掘の事業を開始せし際、英米兩國の工學士等を併用して、大に米國技師の技倆の卓越せるを看破し、到底英國仕込みの技師の及ぶ處にあらざるを思惟するに至れり。故にその後は比較的多く米國人を採用して自說の確實なるを信ぜり。されば益々その原因を探らんとの念盛んとなり、遂に氏は米に渡りて、その商工業の實際を

調べ、驚嘆措く能はざりしのみならず、將來の雄飛、實に驚くべきもあるを發見せり。その土地財源に富み、人民、非常の勢を以て進歩發達し豊富なる財源を利用するの力、莫大なるを見たり。この調査終りて、氏は英に歸るや否や、政事家、實業家、教育家の有力家を勸めて、米國實業調査委員會、同教育調査委員會の二團體を組織して、氏の說の如何を確かめんとせり。その調査委員としての二十六名は卽ち哲學博士、法學博士アームストロング教授、哲學博士ジョージ、ホスター教授、法學博士ガアスケル教授、ノールスウエー大學總理レッチエル博士等を始めとして、悉く經驗と、學識とに富み、社會の各方面に於ける勢力家なり。

氏この二十六名の調査委員を率ゐて、再び渡航し、更に精密なる調査を遂ぐるに至れり。その報告及びモスレー氏個人の調査に就きては漸次掲ぐる處あらんとす。モスレー氏自らの觀察要點を報じて曰く

北米合衆國に於て、最も驚嘆すべきことは、教育事業の爲めに莫大の資を投じ、その規模、設備實に善美を盡したることなり。卽ち此の國に於ては國費の半ば以上は、教育費に投じ、且つ資產家も、競うてこの事業を助くるなり。

次に英米教育の相異の大なる點は、英は文學的の教育を以てその大部分を占むれども、米にては主として活用的の教育を授くるなり。活用的、專門的、實業的教育はその特色とも見るべし。且つ英の大學教育は少數の學者を造るを目的とするに反し、米國に於ては一般に高等教育を授け、一般人民を高むるを以てその目的とす。而して其の學校教育を去りて後直に人世の競爭場裏に出でゝ差支へなからしむるなり。

米國の學生生活時代は往々英國のそれを越ゆれども、しかもその費用は却つて多額を要せざるなり。

余これにつきて深く感ずる所あり。米國は地方の狀況に從つてその學期配當を斟酌せり、卽ち田舍に於ては農民の最多忙なる收穫時期を休業とし、一方に於ては假令學生時代の靑年と雖も、よく實際の仕事に慣れしめ、且つ新鮮なる空氣を呼吸せしめて、他日有爲の身體を大に養はしめんとし、一方に於ては、親の仕事を助け、自ら働らくにより資をえて、以て學事の費用を助くる樣なる仕組となせり、而して之を償ふには冬期休暇の如きを大に減縮せり、されば余が比較によりて證するも明らかに米國學生は英國學生より、比較的少量の學資を以て、長く學生生活を續くるを得而もその學生生活は社會生活の充分なる準備となり得べきものなるを信ずるを得るなり。

この一般に實用教育を重んずる結果として、貧人、廢人、罪

人等社會を蠹食する無用の長物を見ることまた少しといふべし。

一言以てこれを評せば米の教育は、人たる以上は其の天與の職を發揮せしめ、何をか爲す所あらしむるなり。

余の經驗によるに、假令、その大部分は大成功、大學者、聖哲、賢者の域に達すること能はずと雖も、もし適當に教育されたらんには、凡ての青年は、必ずや、何れの社會の仕事をか充たすに足るものとならん。

我教育界に於ては、かゝる事をなし能はずと信ずるが如きも、余はこの教育の施し能ふべきを期して疑はざるなり。卽ち乞食となり、廢人となりて社會の重荷を多からしめんよりは、寧ろ社會を助くるものとなり、正直に勤勉に世に處せしむるを教ふべきならずや。

土着の米國人はこの點に最その特徵ありて、決して社會の無用の長物たるに安んぜずして、公民として、その位置を得、眞面目に、正直にその生活をなしつゝあるなり。

かくの如くその教育に相異あるより、各々その教育によりて作りたる人物に大に差異あるを認むるなり。その例證として擧ぐべき人物尠なからざれど、今

米國教育界の產出せる二三の人物

を擧ぐれば、コロンビヤ大學總長バットラー博士の如きは、ただに、該博なる學識を有し、卓越せる意見を有する學者たるのみならず、また偉大なる創始力と、組織力とに長じ、ある鐵道會社の社長に適するの大才能を有する人也。ハーバート大學總長エリオツド氏もまた宏大なる大學の總理を司るのみならず、常に公共事業に關して、その偉大なる學識と經驗とを一般の社會に分ちつゝあるなり。實に博士は國民聯合會の原動力にして能く勞働者を助け、最適當の方法をもて之を導き、勞働者の紛擾を裁判するの勞を取るのみならず、よくその紛擾を未發に防ぎいさゝかなりともその徵候あらはるゝ時は、兩者の間を斡旋して、これを和解せしむることに務むるなどまたその社會的才能の如何に長ぜるかを注意すべきなり。

シカゴ大學のハーバード教授の如きは、ヒブリユー語、セミチツク語の如き死語を專攻せし學者にも關らず、また創業の才能に長じたり。たゞ總理としてかゝる宏大驚く可き大學を指揮する力あるのみならず、實に博士は大學設立に必要なる基金を募集し、之を創立したるの人也。卽ち實業家として有力なるロツク、フエロー氏を說きて巨額を寄附せしめたり。

ブラット氏兄弟の如きは、ブラット學院（四千の學生を有す）に資を投じたるのみならず、また之を支配する能力を有するの人也。蓋し米國の學者はまた社會的方面にも興味あり、實力あるの人たるを知るべきなり。

今日迄高等の教育あり、品性あるものが、一方にかく社會的に、創始の才、組織の力ある人を出したる米國に、我國の大學教授、總長を比較せば果して如何なるべき。

余はたゞ人々の自問、自答に訴へんとす。

庶民教育を重んず

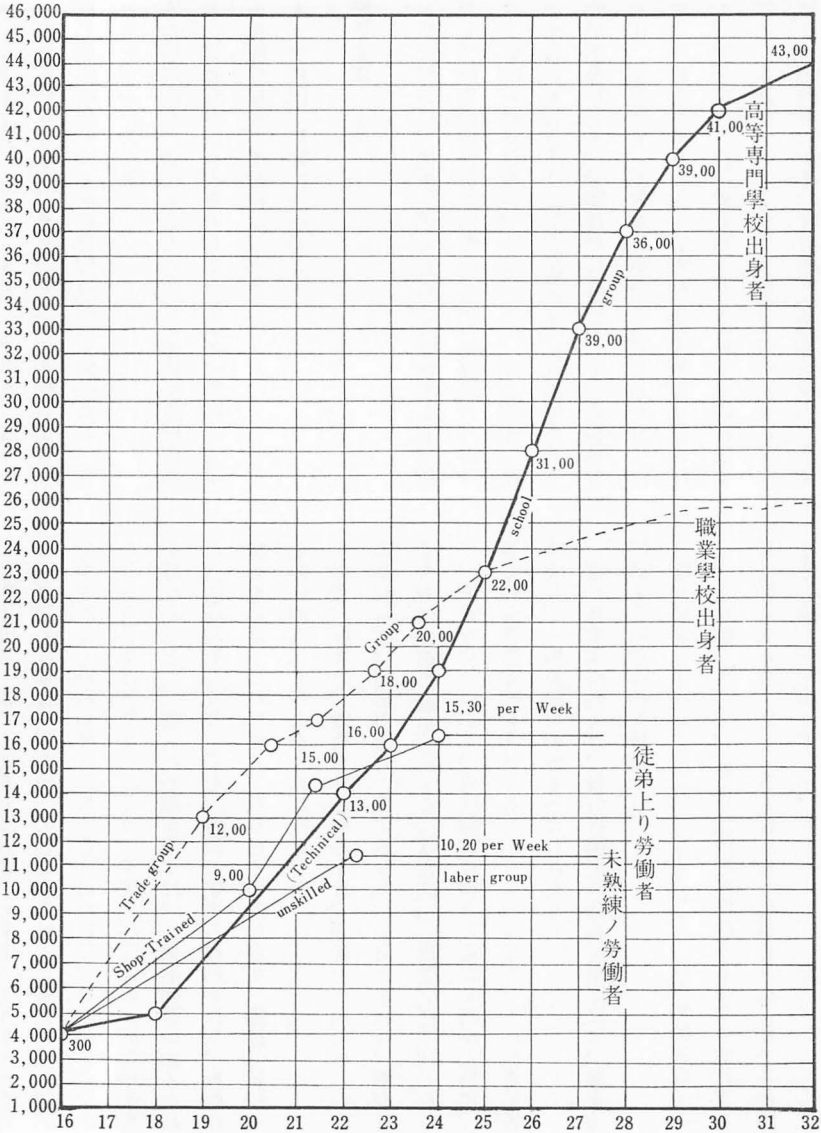
米國教育の庶民教育に、重きを置くことの深厚なること、實に感嘆の外なし。彼等は國の進歩繁榮は、教育の外求むべからずと確信せり。英國の教育は如何、少數のもの、卽ち貴族、金持、學者等の專有にあらずや。但し英國にも、庶民教育として、國民教育の制あれども、米國は單に庶民をして、義務教育に止まらしめず、高等教育、高等專門教育をも授くるなり。所謂高等教育を、一般庶民に普ねからしめんとの主義なり。されば インデアン、移住民等、最下層に屬するものは、他國は敢て顧みざるに反し、米國はかゝるものをも教育するのみならず、假令、白痴にても不具者にても、凡て教育の恩惠を與へんとするに熱心なり。誠にこの點は米國教育の特色として仰ぐべきなり。米國人は教育を呼んで、心の巡査といふ。巡査は人の犯罪を少なからしめんが爲に護衛するものなれば、心の惡を少なからしむる巡査は教育なればなり。米國人が庶民に迄高等の教育を授けんとして、莫大の金圓を費すは、一見不利益の如くなれど、結局は利益なり。巡査、監獄に要する費用を以て、教育に投ぜんには、これを辯じて餘りあるのみならず、國民の罪惡を未發に消滅せしむるをうればなり。

畢竟、彼等は、教育を庶民に施すは、國民を高尙ならしむるのみならず、國家の經濟と考ふるなり。如何となれば、教育なきものは自活の道を知らざれば感化院、監獄の御厄介となりて、國費を食ひつぶし、或は國家は種々の犯罪を防がん爲に、多くの巡査に俸給を拂はざるべからざればなり。これ教育に費すより、一層巨額にのぼるべければなり。

實に合衆國に於ては、教育は國家の基礎を鞏固にし、國家の經濟力を增すものと思惟せり。

現大統領ルーズベルト氏、モースレー一行の視察者會するや、之に臨みて曰く、「教育は國民を作れりとはなす能はざるやも知る可らずと雖も、若し國民にして教育をかゝば、その國は終に滅亡を免かれず」と。

(Potential Values) = すは表を異差の宛磅千は線横すは表を齢年は線縦
力産財其のてしと額金るす當相に利の朱五を給俸



教育の價値

米國人は全然、實業上より見ても、教育の爲に金を用ふるは、恰かも國家の將來の爲に、もといれをなすもの也と考ふ。之につきて、ミスター、ドージーが、千九百三年十二月に、米國機械工學會に於て、專門教育の價値につき演說したるものは、よくこの點を證明して餘りあり。氏は各種の職業者を大別して四種となし、

一、習練なき勞働者（The unskilled labor group）
二、徒弟上りの勞働者（Shop-Trained group）
三、職業學校出身者（Trade school group）
四、高等專門學校の出身者（Technical school group）

とす。

こゝに掲げたる表（前頁表參照）は、四種の職業者の進步の程度を示し、各種最高の進步の平均と、可能力の進步の有樣をあらはしたるものなり。

この表に示すが如く、第一種の習練なき勞働者はその最高の度最低く、これに達することも最早くして、その進步の止まることも、最早し。第二の徒弟上りの勞働者は、年齡十六歲に達する時、平均、一週間に三弗を取る。一年を凡そ五十週とすれば、その總額百五十弗にして、これを財產の利子、五朱と見積れば、かれの財產力は三千弗となる。故に第一種のものに比するに、その賃錢の最高の點、稍高く、また進步はやゝ早し。第三の職業學校出身者は、三ケ年の職業教育をうけ、十九歲の年卒業し、直に職につき、始めより一週十二弗、卽ち徒弟上りの勞働者が二十一歲の時にうるものと同じ。而して二十五歲に達しては一週間に二十二弗に增加する割合なり。

第四種に屬するものは、十八歲迄は普通教育をうけ二十二歲迄高等專門教育をうけ、卒業後直ちに職業につき、始めの俸給は一週間十三弗にして、これを同年輩の、職業學校出身者に比較すればより少きこと五弗なり。然りと雖も、二十五歲（三ケ年後）に達すれば兩者の收入相等しくその後は兩者の間非常に相懸隔す。卽ち職業學校出身者は、間もなく進步止り、高等專門學校出身の者はその後の進步著しく、常に昇進して止まず。

英米富豪の金錢使用法

こゝに留意すべきことは、英米富豪の金錢使用法なり。見よ英の富豪は、種々の遊興に莫大の金錢を費すとも雖も、米の富豪は教育事業に資金を捧ぐる事を最尊き事と考へ、また或は全身全力を費して、土地を開發し產業を起し、人類事業の原野を

開拓するを、無上の價値あることゝなせる事なり。

物質的(Materialistic)と大望(Ambition)の差

人、米國人を呼んで、物質的國民といへども、こは皮相の觀察を免かれず、かゝる批評は物質的と大望との區別を辨へざるより起るにあらざるか。物質的と大望とは一見相似たるが如くにして、實は地球の兩極の相離れたるが如し、一つは惡にして、一つは德なり。即ち米國人は大望の人にして物質的の人にあらず、その大望とは、熱心、個人を向上せんとの大望を抱くのみならず、また國民を高め、文明を增進せんが爲には、凡ての努力を惜しまざる者なりと斷言して可なり。

米國の貴族

また米國人は金の外には貴族なしといふ事を聞けり。これまた皮相の觀たるを免かれず、一層深くその眞相をさぐり見よ。米國に於ける富豪、即ち貴族は、腦力の貴族なることを發見す。米國の富豪の大部分は、己れの手腕、腦力を以て成効したるものにして、親の財產を相續したるものは少し。

敢て英人に告ぐ

モースレー氏、英人を戒めて曰く、我英國の將來を慮れば、過去の政治は如何に成効したるものと雖も、これまた陳腐に屬す。成程、英人は正直にして、執念强く、剛膽に事を處するの美德を有すと雖も、もしこれに米の教育制度の如き教育法によりて得らるゝ科學的知識件はざれば、英人の誇る多々の美質も何の役にもたゝず、余は信ず。我英國をして、今日世界に有する地位を永久に保たしめんと欲せば我教育をして、米、獨のそれに瞠着たらしむる勿れ。實に余をして慨嘆措く能はざらしむるものは、米國は下、小學より、上、大學に至る迄、學生をして自營的ならしむるにあり。自ら思考し、自ら論斷することを教へ、各自の適合性を開發するに最成効せり。米の學生は一旦校門を出づるや、己れの行くべき道を知り、またこれに行くべき適合性を有し、その方向に迷ふもの稀れなり。

醒めよ！

我英國人よ、舊式の教育と、陳腐なる工藝法とを改めよ、見よ、米國は前述の如き長足の進步をなし、また一方には、獨國は科學研究と、國民教育によりて長大の進步をなせるのみならず、隣國スコットランドは教育に於ては、遙かに我イングランドに勝る。吾人、豈、覺醒せずして可ならんや。余はブリトン

の腦力及び、その堂固を強く信ずと雖も、今日の陳腐の武器を以て、世界の競爭場裏に向ふの難きを思ふや切なり、ウエレス公の曰へるが如く、吾人は眠りより醒むべきなり。

醒めよ！　起てよ！　進めよ！

あゝ英國民！

實業社會的教育

實業社會的教育は、從來の教育が、形式的、抽象的に傾ける弊を改めん爲に、學校教育に、實業的、社會的の要素を加へ、以て今日の社會に、充分活動しうるの人物を養成するを目的とするなり。その教育としては手工教育（Manual training）を大に奬勵するものなり。

手工教育と云へば、只單に手業のみを云ふが如く聞こゆれど、實は然らずして、その範圍、非常に廣く、技術、美術、或は文學をも含むものなり。これ等は手指によつて、道具を用ひ、筆を用ひてあらはるゝものなれど、その源は腦髓の働きに外ならざるなり、卽ちその思想を發表するに當り複雜なる方法によるものにして、手工教育とは畢竟、頭（brain）と心（heart）と手（hand）とがよく調和し、平均して發達する教育を意味するものなり。この手工教育は、今日の教育中、最進步、發達したるものにして、その結果、良好なり。形式的、抽象的教育は、已に獨米等に於て、陳腐として捨てられたるものなるを、我日本に於ては、尙この教育法を見る、我國の教育界が諸强國のそれに達せんとするには更に一番の奮勵を要するなり。

かの米國教育調査委員の手工教育につきての報告によれば

ノースウエルスの大學校長、法學博士デーチヤー氏は曰く

手工教育は、現今米國の教育界に於て、最も顯著なる傾向にして、殊に英國教育界を動かさんとするものなり。その手工教育には二つの目的あり。

（一）教育的目的

此の種の教育の職責とする所は、之迄放擲せられたる心身の一方面を開發し、圓滿の發育を遂げしめんとするにあり。

（二）職業的目的

凡て青年、十八才頃迄學校教育をうけ、後社會に入りて、實際の職業をとるに當り、必要なる能力を與ふるものなり。

米國に於て、實際その教育如何に發達せるかは同調査委員、ロツクテール專門學校々長、ヒーブ氏をして云はしめんとす。

女子教育の中に裁縫、並に割烹を奬勵することは、英國は敢へて劣らざれども、男子の教育に至りては、英の手工教育は到底、米に及ばざるなり。卽ち、英國に於ては、幼稚園に於て少

しく手工教育を與ふれども、こゝを辭して年齡十二歲に至る迄は、全く間絕するなり。然るにこの間は、實に兒童手工教育の爲めには、黃金時代とも云ふべきなり。米國に於ては、これに反し、幼稚園の時より、非常の注意を以て、手工教育を與へ、その任に當らしむものは、充分の知識と經驗ある人とを選ぶ。されば兒童をしてその觀察力と實地に事に當らしむる力とを養ふに足るものなり。卽ち米國に於ては、師範教育に於て、手工教育と社會生活との關係及び手工教育と子供の性質との關係を研究せしめ、またその手工教育の教案順序、並に其の問題等を定め且つこれを教ふる教授法をも授くるを以て、こゝより出づる教師なれば、充分その目的を達しうるが如く見ゆるなり。

一般の學校に於ては、幼稚園にて爲せる仕事をつゞく、而してその最も勝れたる教育の方法、多くの學校に採用せらるゝを見る。

多くの學校を觀察せしに、教師はこの方法によつて教ふるを以て、兒童は非常なる興味をもちて、業を取れるのみならず、創始力、獨立力及び勞働を喜ぶの習慣を養成す。この教育主義の先驅者二つあり、一つはニューヨークの師範大學にして一つはシカゴの教育學校なり。

右の二つの學校は、米國に於て、最も進步したる教育の方法をとれるものにして、この教育法は重に大部分、手工の上に基するものなり。然れども獨り手の業を基として、教育するのみならず、兒童の心の發達順序に從つて、進む方法なり。その順序としては、一つの人種の發達する順序に準ず。兒童は或意味に於て野蠻人なれば、その取る所もまたこれに準じて、最單純なる、織物、編物、木製の道具を作ること等を授く。而して年とともに次第に複雜の方法に進ましむるなり。

斯くするときは自ら、社會發達の順序をその所作の間に見出すをうるなり。

ニューヨークに於ける師範大學は、如何にしてこれを導けるかといふに、リチヤード教授の言ふ所をからんに

先づ兒童をして、原人の有樣に於ける術より始む、卽ちその時の衣食住は如何になしゝかを知りて、これに準じて導くにあり。されば

第一學年では、原人時代の山獵、漁業等の方法より始め、

第二學年に移りては、稍々發達したる牧畜、農業等の業に移り、

第三學年に於ては、貿易、商業、運輸等の事に進むの方法を採る。右の如く、各時代に分ちてその時代〳〵に用ひたる道具、武器、建築法、運輸の方法を教ふ。卽ち今日の美術、技術

は、過ぎし野蠻人の始めたる方法の發達したるに外ならざればなり。而して重にその祖先なるアリアン人種の原人時代より始め、其の發達の順序に從うて進ましむるなり。

最よくこの方法を實驗せしはシカゴ大學の、デユエー博士なり。博士は獨り、この方法を學理的に發表せるのみならず、自らの學校に於て、盡く試驗し、實行して、以てその結果をあらはして、一般社會に證明せり。

デューエー氏曰く、教育に、歴史、科學並に技術、美術、建築等の材料をいるゝことによりて吾人の爲し得るものは何なるや。兒童の生活を實際的價値ある樣に進め、またその生活に實行しうべきものにして、眞に兒童の藝能となり知識と成る樣に教育するを得るなり。

今日の教育科學は、傳說的なり。されば最進步したる教授法と雖も、この頃統計に表はれたる所によれば兒童の爲には黃金時代とも云ふべき最發達を要する三年間の時間の百分の七十五乃至八十は實質なき式、或は記號を覺えしむる事卽ち、讀書き算術等の爲時間を消費し、眞に兒童の能力を養ふべき滋養質を備へざるなり。故にその教科目も兒童の知力或は道德的經驗には無益なるものを以て其の大部分を占め、歴史にあらはれたる實際の眞理、或は萬有にあらはれたる事實、或は美、實體等の眞相を知ることは出來ざるものなり。

吾人の問題は、兒童に吾人を圍める世界の知識、並に世界に籠れる勢力、及び歴史的、並に社會的の成長より、眞に兒童に有益なるものを、如何なる程度迄、與ふるをうるか。また兒童は自らの腦力を、如何なる程度迄、發現しうるかを知るが最大切なり。

此の教育法を學校に於て行ふに三樣の法あり。

（イ）木と道具とを以て作る工場仕事

（ロ）割烹

（ハ）織物卽ち、紡ぎ、縫ひ、編む事

之等の大工、料理、織物等を、殊に科目に選みしは、之等の中には最も種々異りたる技術を教育する要素を含み、且つ兒童の知力に適當したるものなればなり。

かゝる仕事は、兒童自らも、樂しみ、喜びてなす事にして、且つ日々衣食する個人の生活に關係あり。またこゝに產出したる品物を交換しうるものなれば、社會に關係あること大なり。されば之等は兒童の五感を教育し、頭をも心をも手をも共に〳〵働かしむるをうるの能力を與ふ。且つ兒童は健康を保つに必要なる運動を爲すをうるを見れば、從來の教科目より、凡ての點に於て必要なる活動をなさしむるを知らる。またこの方法によ

る時は、兒童をして目的を達するに最も適當なる方法を選ぶの判斷力を養ひ、秩序を保ち、勞働を尊び、整頓を喜ぶの良習を與ふるのみならず、組織的頭腦を與ふ。之等の實際的仕事が成長の後、よく學び、よく行ひ、よく耐ゆるをうるの潜勢力となり、又成人の後最も困難なる研究を遂ぐるの基礎を作らしむるものなり。卽ち以上の學科に於て、料理に關聯して科學を教へ、大工によりて幾何學を應用し、織物を爲す際に地理を悟り、且つ人種の進むに準じたるものなれば、これによりて歴史的知識を得、其の發明、發見が如何に社會に影響せしかまた其の社會の組織卽ち政黨等の由來を教ふるに足る。

以上述べたるが如く手工教育は兒童の精神を養ふの實質を與へ凡ての知識、觀察力、思想を養ひて圓滿なる發達を遂げしむるのみならず、兒童はまた喜びて之をなすものなり。

（「家庭週報」第六、八、九號）

誰れか賢婦に會ひしか

という言葉は、西洋の古書の屢々載する所にして、古へのヒブリユー、グリーキの聖賢も發したる言葉なり。婦人に對する嘆聲なり。失望落膽、極まつての言なり。グリーキのソクラテスの如きは、實際これを經驗し、東洋に於ても孔子は云へり。

「女子と小人とは養ひ難し」

と。然れどもこれ決して輕蔑の意にあらず。女子を養ひ、悟道を教へたれども、終に失望落膽に終るの己むを得ざるに發したる嘆聲に外ならず。こは獨り昔のみにあらずして、今日文明の中心たる英、米、獨の國々の學者、教育者、宗教家、政治家の中にも、往々類したる言葉を吐くものなきにしもあらず。否其の事實の極めて多きは歎ずべきことならずや。余西洋にありて名高き人の獨身生活するに會ひて、親しく其の經驗談を聞けり。誰れか賢婦に會ひしかとて、婦人を語るに足らざるものとし、婦人に死したるものは不幸なり、或は婦人に死して再び婦人に蘇るものあり。その一例はコントなり。コントは自らその經驗を語りて、余の婦人よりうけたる感化力はその說をさへ變化せしむるに至れりと。卽ちコントは嘗て年若き婦人と結婚して、十八年間同棲せりと雖も、終に團欒を知らずして、別居の慘狀をなし、僅に文通、往復せり。コントの心には聊かの光明なく、聊かの愛情なかりき。然るに圖らずも晩年に及びて一賢婦人に遇ひ、二年の交際をなしゝのみなれど、その感化を蒙りし事、實に大にして、妻ありて、妻なかりしコント姉妹、子供を欲したれど未だ嘗て斯くの如きものに遇はざりしコントは、

この婦人をたゝへて曰く、

The changeless friend : my saint Celotilda ! thou who art to me in the stead of wife, of sister, of child ! farewell, loved pupil, true fellow-woker.

その天使の如き感化は、わが終生を支配せん。わが子よ、わが愛する生徒よ、わが共の働らき人よ、とは此の婦人の臨終に於けるコントの言葉なりき。實にコントの生涯は二大別するを得るなり。初めは學理研究の時代にして、終りは宗教の生涯なりき。これは賢婦人にあふに及びて、この心情に少なからぬ光明感化をえ、宇宙に横はるヒューマニテイーを見出しゝなり。コントのヒューマニテイーは卽ち宗教なり。コントは實理的哲學を發見したる位にて、その說く所決して空論ならず。初めて賢婦人に會ひて宇宙の大眞理を知るに至りたりと叫びたる豈偶然ならんや。

かゝる賢婦に會ひたる男子は幸なり。その新生命を開拓するを得ればなり。然れども賢婦は稀にして賢婦に遇ひたる男子も亦少きは、人々の經驗に徵して明らかなり。

然れども賢婦はこの世にあり得べきものにして、また爲りうべきものなり。たゞ人々のならざるにあり。たゞこれを稀れならしむる原因は

女子の弱點

あるによる。その弱點とは何ぞ。耳に馴れて、しかも行ふに難き三あるによる。(一)己れを解せず。(二)人を解せず。(三)社會の實際を解せざる。これなり。

何故に女子、殊に我國女子は教育あるものさへ、己れを解せざるか、人を解せざるか、社會を解せざるかにつきては、屢々我國女子の現狀を見て驚く所なり。現にこの休暇中に於てさへ之を社會に實驗するに及び、杞憂のそしりはあるべけれど、またわが諸子に向ひて憂ひを抱かざるをえざるなり。見よ、健氣に、確固と決心したる如く見ゆる女子にして、この決心を貫くもの幾人かある。聊かの障害横はり、困難迫れば、忽ちにしてきのふの人ならず。よるべなき夫の遺子をさへ、打捨てゝ、その身の樂を得んが爲に再緣するものあるにあらずや。只我身の樂を得んが爲には耻を忘れ、人情を擲つ言語同斷なる所爲は、畢竟、己れを知らず、人を知らず、社會を知らざるが爲なり。己れを知らば何故一旦負ひたる其の責任を盡さざる。人を知らば何故斯かる人非人の所行に出でらるべきぞ。社會を知らば何故次代の國民ともいふべきその愛子を打捨てらるべき。嗚呼、己れ一身の區々たる樂を求めて、この大罪を犯すを知らざる

か。今の多くの我國婦人、この傾きを持てるは嘆ずべくおそるべきことならずや、然れどもこは必ず、救ひうべきものにして、その道を講ぜずして、徒らに悲觀するは愚の極なり。

眞の價値ある教育は婦人の弱點を救ふに足る

ものなり。神學的、形而上學的教育は過去に屬するものにして、最近文明國に價値ある教育として認めらるゝは實際的教育、卽ち生活と教育とを結び付けたるものなり。徒らに讀書し、聽講し空想、空論に耽る輩の、いかで實際を知り、眞相を穿つをえん。もし農學の著書はなせども、演說はなせども、嘗て一粒の米をだに作りたる事なき農學博士、學士の橫行する世ならば、その國の農業の運命思ふべし。獨り農業のみならず、社會百般の事業、說くは安くして、行ふは難し。孔子も我れ田畝の事は農夫に及ばずとて、いかに經驗は貴重なる眞理を教ふるかを說きたり。この貴き經驗は學術の指導あるによりて、始めて長足の進步、繁榮をなす。長足の進步、繁榮は欲せざる人あらざるべけれど、蓋し從來の教育が人をしてかゝる迂遠なる空理空論家となしたる罪あるなり。明かに弊を知り、之を矯むるの道を知つて、尙人々は行はざらんと欲するものありや。

（「家庭週報」第七號）

女子大學生の眞價

休暇中に開かれし前回櫻楓會には、不快にて就床せる爲臨席せず、誠に殘念なりき。然れども後に其の親睦の有樣を聞きて非常に滿足せり。今日諸子は大勢集りたり、希くは其の時の如くあらんことを望む。

余は今日初めに當りて、赤堀峰吉氏のことに關し、諸子一同と共に弔詞を述べんとす。余が峰吉氏との最後の面會は輕井澤に出立する前卽ち相談會の時なりき。諸子の知れる如く、氏は甚だ料理に熱心なりき。父君は最早九十にして出でゝ教ふる能はず、床の中に居らるゝが、今斯の如き不幸に遭遇せり。峰吉氏は未だ年齡壯にして、且つ力ありし人なり。女子教育の爲に諸學校に行きて、熱心に教へられたり。先頃岡部子爵が高野山に行かれ、精進料理を味ひ、非常に美味なりしと云はるゝや、峰吉氏は自ら高野山に行きて、之を研究せんとせられしも、家に老人ある爲に、思ひ止まられたり。此の事に就ては余等常に感服する所なり。諸子が赤堀氏の志をつがれ、日本料理を研究し改良し、ひいては、支那西洋もの等をも併せて研究し、日本料理を以て食物研究改良の中心たるべく、女子に、家庭に、一

般普及せられんことを赤堀氏を弔ふと共に切望する所なり。

悲しむと同時に諸子と共に戒しむべき事あり。人の過失は多くは境遇によりて造らるゝものなり。團體的精神を以て、互に相扶け、相救ふの考なかるべからず。何會によらず、其の會の分子の腐散せるは、人體の一部が腫物又は負傷し、次第に腐敗し來るに等し。斯の如き所は之を切斷し、人命を完ふするの不得止に至らん。然れども切斷して病根を除去せられぬ場合もあらん。何故ならば、餘り深く切斷すれば却て人命を損ふの恐れある故なり。會の事亦然り、餘りに清潔ならんとすれば、全體を破るの危險に陷ることなしとせず、故に會員たるものは、常に之に注意して放任せず、共々に扶け、過ちを未然に防ぐの意なかるべからず。

次には喜ばしきことを述べんとす。本會員の在京者は、月一回の會合あるも、地方の人はさることを得ず、然れども、文通によりて相知ることを得るなり。隨分病氣にかゝれる人もある如くなれども、其の爲に會員としての責任を空しくすることなくよく務め居らるゝことゝ、今一つは批評多き社會の一方に、女子教育の必要を認めたるものあるが如きことなり。殊に喜ばしきは有力なる男子が此の櫻楓會に向つて非常に熱心に盡力せらるゝ事なり。岡部子爵の如き、森村市左衞門氏の如き方が出られて、廣く國の爲、社會のためを思はれて、此の會に盡力せらる。男子には、斯の如き同情家あるも、女性になきは何故ならん。婦人は取りわけ、諸子の仕事を扶け、深き同情を持つべき筈であるのに、本校已に、一回の卒業生百餘人あり、近きに二百人餘を出さんとす。卒業生の大多數は家庭に在りて家庭の要素となるなり。其の間に相互の連絡を計る必要なきか。岡部、森村兩夫人の如きは御良人に劣らぬ熱心を以て盡力し居らる。之に尙多數の婦人が奮起して力を合せたならば、母の會、主婦の同盟等成立して學校、家庭、社會の連絡つくならん。女子大學の卒業生は、只人に物を敎ふるのみを以て目的とすべきものにあらず。種々の組織をなし、建設をなし、學校と結び付きて社會の改良に務むるなど、かくして始めて、本校卒業生たる價値ありと云ひ得べきなり。斯の如き言をなせば、諸子は、余が諸子に對して責任を負はしむることの過大なるを感じ、又社會は余を以て山師なりと評せん。之等は皆日本人が膽の小さき故なり。余が此の大學を計畫して募集金額三十萬圓を唱へ出でしときは誰れも彼も喫驚せり。今日の此學校の如く規模大にして種々の方面を備ふる所はあらざらん。此の頃麻生學監より文通あり、ロツクフエローが、シカゴ大學の爲に三百幾萬圓の金を集めて居るが、未だ纏らずして毎年三十一萬圓の不足を來

しつゝあり。之をロックフエローが一人にて出金し、不足を補ひ居るとの事なるが、實に驚くべきにあらずや。之に反して本邦人を見よ、己れ一身の名譽に汲々として、決して人心の統一をなす能はず、殊に婦人の小心なること驚くの外なし。日本有力の婦人にして共力して事を擧げたるものありや、皆己れ一個にのみ汲々として、個々の小さきものを作り、同僚間に於て競爭あり、總て消極的にして、一致團結の心なし。斯の如くにして戰後の將來を如何にすべきか。余が常に述ぶる如く、諸子大學生は、決して人の地位を奪ひ、名譽を競ひなどすべきものにあらず、新しき事業を見出だし、社會の必要に應ずるを以て、目的とすべきものなり。諸子の知らぬ間に、諸子の後援は來れり、努力奮起して時機を失することなく、着々進歩せんことを切望す。

（「花紅葉」第一號・櫻楓會第五回例會）明治三十七年九月

喜ぶべき多忙

開會に當りて一言の希望を述べん。

運動會、卒業論文其の他種々多忙の業務あるにも拘はらず、會員のかく集合せるは誠に感ずべき次第なり。余も此の頃は非常に多忙を感ず、諸子も亦同感ならん。時の足らぬ歡聲を絶えず耳にするなり。如何に勘定し、如何に鞭ちても時に間にあふやうに心の駒が進まぬ。併しながら、此の忙しいせわしいと云ふ事は一方より見れば非常に愉快なることと信ず。机上の事務は山なす程あり、考ふべきことは腦中に溢るゝ程あり。誠に堪へ難き心地もすれど、それだけに又愉快に活動し得らる。諸子の此の頃の多忙は試驗に間に合はせる勉强などの爲でなく、實際自分で手を下さねばならぬ仕事の增加したる爲、又其の仕事を喜んで各自力一杯に爲して見んとする氣象の出でしによるなり。余の喜びは卽ち此の故なり。余の經驗によれば、予が他人に對して責任を持たねばならず、勉强せねばならぬやうになれるは、十三歲の時なり。今日に至る迄、其の間一日も樂だ、緩りしたと思ひしことなし。學校を敎へ會を有し、其の傍ら學問をもなせり。友人或は知人などより、閑散の職につきて、御氣樂ならんとの挨拶を受け、又羨まれし事もありたれど、凡そ人の有樣を見渡すに、閑日月を送り居る如きものと、多忙に働き居る如くに見ゆるものとあり。故に時々、商人、學者、敎育家、政治家、是等の中で、何れか最も長命するならんとの問題出づることあれど之は道理のなき問題なり。予の考を云へばたとひ其の職務は何なりとも、其の人が忠實に眞面目に事を務む

るならば、又自分の責任を重んじ、義務を全ふせんと勉むる人ならば、皆同様に苦心して働かねばならぬと思ふ、決して閑日月の得らるゝ筈なし。眞面目に己れの信ずる天職を全ふせんと思へば、何事をなしても時が足らぬ、忙しい爲に殆んど健康をも害する如きに至らん。予が健康を害せるは、十七八歳の時なり。今廣岡氏の話を聞くに、奥村五百子氏は、非常に健康を損して居らるゝ由なり。そは奥村氏は、愛國婦人會を以て、眞に自分の天職と信じ、その會の爲に、無報酬にて働き、本氣になりて國家の爲に盡し居らるゝ故なり。併し人は養はずして活動の永續すべきものならず、能く心身を榮養して其の活動を永續せしむるのが、國のため會のため一身のための利益なり。これは今廣岡氏とも語れり。獨り奥村氏のみならず學生なり、妻君なり、天職の爲、國家の爲にと考へたならば、如何に勉めても、充分なりとは安心せられまじ、健康をも害するに至らん。茲に於て始めて體力の必要生じ、其爲に衣食住の變換を要するなり。予が居室の有様を常々變化させるも此の故にして、かくして精神及び身體の休養を得居れり。諸子につきて此の頃喜ばしき事を二つ見出したと云ふのは、一つは諸子が多忙なること即ち眞面目に職に盡す考への出でたること、他の一つは、諸子の多忙は、只讀書の爲のみにあらずして、當然なすべき義務の爲に、繁忙を極むることとである。經驗、實驗、研究、女性の進歩學問なども、皆此の眞面目と勇氣とによりて得らるゝなり。自ら考へ自ら工夫し、自ら進むやう奮發せざれば學問は只空理となりて、生命がなく、進歩すること能はず。予は年々に多忙を感ずるが、それだけに、益々喜ばしく希望に滿ち來るなり。

（「花紅葉」第一號・櫻楓會第六回例會）明治三十七年十月

第二維新を論じて我國教育の宿弊に及ぶ

謹んで惟みるに、我叡聖文武なる　明治天皇陛下が、維新の宏業を創始し給ひしより以來、茲に三十有七年、我が日本民族は今や東洋の運命を支配すべき使命を擔ひ、極東の舞臺に立ち、振古未曾有の大飛躍を試むべき一大時期に逢着し、端なくも世界に於ける最大强國と稱せられたる露西亞帝國と戰を開き、我民族大活動の序幕は茲に開かるゝに至れり。而して、外は我義烈なる海陸軍將卒の勇敢なる、戰へば必ず勝ち、攻むれば必ず取り一日として捷報の到らざるなく、内は忠誠なる國民が、上下力を戮せて、皇軍の後援となり、老若心を一にして、愛國の熱誠旺溢せるを見る嗚呼旺んなる哉。國民元氣の振興せ

る千古未だ曾て見ざる所誰か感奮勇躍せざらんや。然りと雖も、一歩を進めて熟々我國運の將來を鑑み、深く國民使命の係はる所を考ふれば、此の空前の大戰我が皇軍の勝利を以て其の終局を結ぶことを期し得べしとするも、是を以て未だ頓かに安んずる能はざるものあり。

抑も今回の戰爭たる、日本帝國が、世界的强國の列に加はるべき序幕にして、我民族大飛躍の第一歩たるに過ぎず。更に進んで、强大なる敵手に對し、奮鬪を繼續せざる可らざるなり。既に近く我前面に迫れる第二の敵は、

世界的商工業の戰爭　なりとす。歐米列國相競うて或は海軍を興し、或は遠征を企て、或は巨資を投じて軍備を張り、時に砲火を辭せざるが如き、悉く商工業の發達の爲にあらざるはなし。見よ對岸の北米合衆國が布哇を併せ、比律賓を取り、或はパナマの運河を開鑿し、莫大の資本を擲つて海軍の擴張を計るを。皆是れ來らんとする商工業戰爭準備に外ならずして、其の活動の手は漸く四方に伸ばされ、我東洋殊に淸國の如きは、既に其の戰鬪の線域に組入れられ、非常なる膨脹をなしつゝあるにあらずや。又獨逸は近來非常に進歩したる科學的知識を商工業の上に應用し、之を基礎として確實なる經綸を立て、豊富なる資本を利用して、工業の勃興、産業の發達實に驚くべきものあり。殊に諸種の工藝品の如き、所謂「メード、イン、ゼルマニー」の銘の下に、世界の市場に横行し列國の製品を壓倒せんとするの勢ひあり、英國の商工業的作戰計畫も亦以て米獨のそれに讓らず、世界海運の覇主として、列國をして一指を之に加ふるを容さゞるの概あり。其の商工業の勢力は印度に、支那に、南洋に、既に深き根底を据え、近くは巨億の資を擲ち、幾多の血を流すを辭せずして、南亞の二國を征服したるが如き、其の目的とする所、實に商工業の發達にあり。彼等が内政、外交、教育等の方針を定むるにも、或は一兵を增し、一艦を加ふるにも、商工業發達の目的を外にして他に理由あるを見ざるなり。歐米列强が商工業的戰爭に對する準備に汲々たる夫れ斯くの如し、今や其の國運を賭して露國と戰ひつつある我國民は、更に此の强大なる敵あるを忘る可らず。而も此の强敵に對する第二戰爭にして失敗するが如きことあらば、其の結果や露國に敗らるゝよりも更に恐るべき悲運に陷るを思はざる可らず。此の戰爭に相次で來るべき第三の戰は、

知力的戰爭　なり。抑も近世の戰爭に於ては、武器の精粗と、火藥の强弱とが、其の勝敗の分るゝ一大要素たるは、進歩したる兵事家の一致せる定論にして、歐米諸國軍事の當局者が互に新規を競ひ、精巧を爭ひ、發明改良に熱中して苦心、慘憺惟れ

日も足らざるの觀あり。是を今回の日露戰爭に徵するも、皇軍の連戰連勝は固より其の將卒の熱誠なる義膽と、旺熾なる元氣に基くものなりと雖も、其の精鋭なる武器と、强烈なる火藥の力、與つて大なるは疑ふ可らざる事實にして、之れが改良發明の爲めに、幾多專門の當事者が腦漿を涸らし、身血を絞りて、鋭意專心研鑽を重ねたる功績に至りては、戰列に立てる勇士の殊勳に比し、其の優劣遽かに判じ難きものあり。夫れ知力の優劣が砲火の戰爭に及ぼす影響の大なること斯の如し、況んや世界的商工業の大戰に至りては、知力は是れ唯一の武器たるに於てをや、其の優劣の影響する所更に多大なるべきは言を俟たず、其の之を啓發すべき國民教育の緊切なる、思ひ半ばに過ぐるものあり。英國著名の鑛業家モーズレーは其の新領土トランスヴアールに於ける自家の鑛業に自國の工學士に加ふるに米國の工學士を併使せり。而して米國工學士の技能、遙かに自國の學士に優れたるを發見し、憂國の情禁ずる能はず、俄かに著名の教育家廿六名を伴ひて、米國に渡航し、具さに知力的進歩の實況を視察し、而して米國が獨り工業的知力に於て卓絶せるのみならず、商業に於ても農業に於ても、或は婦人の教育に於ても、其の企畫の壯大にして、其の設備の整然たるを見、歸りて其の調査の結果を發表するや、英國民をして恰かも夜半の警鐘を聞くが如く、愕然として其の惰眠より覺醒せしめんとせり。嗚呼將來の競爭場裡に立ち、世界を支配すべき覇權は、知力に於て卓絶せる國民の手中に收めらるべきは、動かすべからざる事實にあらずや、之に次で戰はざる可らざる第四の戰は、天然を征服する戰爭　なり。此の戰爭に於て優勝なる選手の地位を占めんとしつゝあるは米國民なりとす。其の廣大なる國土は、恰かも天然の寶庫の如く、彼等は此の天然を征服せんが爲に全歐洲の總ての鐵道を合するも及ばざる二十餘萬哩の鐵道を敷設し、或はナイヤガラの大瀑布を捉へて動力に利用せんとす。彼等は實に總ての人力を聚めて、宇宙を研究し、科學應用の力を以て總ての天然力を使用せずんば已まざるの勢あり。其の計畫の大膽なる其の規模の雄壯なる、驚嘆に堪へざるなり。翻て僅かに四千餘哩の鐵道を有し天然の山林を年々赤山と化し、二百十日に怖れ、洪水に苦しみ、旱魃に憂ひ、天然をして其の威力を逞しふせしめて顧みざる我が國民の現狀を見て、慷慨禁じ難きものあり。然りと雖も更に眼を轉じて我が國の天然を觀れば、山川秀麗、土壤豊沃なり。風光明眉、氣候溫和なり。吾人此れ等天賦特殊の恩寵の淺からざるを想ひ、感激、奮勵、盛んに教育を興し、知力を養ひ、科學應用の研究を怠るなくんば、此の怖るべき天然の威力を征服して、其の無盡藏なる

寶庫の鎖鑰を握り、之を使役し、之を利用するの桂冠は、豈に我が國民の頭上に之を戴くのが希望なからずとせんや。而して更に戰ふべき第五の戰は、

精神的社會的戰爭　なりとす。是れ實に我國民の最後の決戰にして、先づ自己と戰うて其のあらゆる惡習を革新し、之を及ぼして、家庭、國家、社會を革新し、以て第一維新によりて創始せられたる、偉大なる皇謨を完全に大成すべきなり。嗚呼我が日本民族は此の廣義に於ける五大戰爭に對し、假令百年の歲月を費すも、戰うて倦まず、進んで休まず、戮力奮鬪、最後の勝利を占むるに及んで、茲に始めて東洋の運命を支配すべき使命を全ふしたりといふべく、又列强と併立して世界の舞臺に馳騁すべき國民的大偉業を成就し、此の百年戰爭に堪ふる戰士を養成すべき最大急務たる國民教育の現狀を觀て轉た慨嘆に堪へざるものあり。

惟ふに、我國維新に際し、泰西文物の燦然として其の教育の旺盛なるを見、國民教育の振興の必須なるを感じ、以來朝となく、夜となく、教育の發達をはかり、其の普及に努むるもの茲に年あり。今や東西兩都の帝國大學を始めとし、各種の專門學校より中小學に至るまで、其の機關具らざるにあらず。其の設備整はざるにあらず。宏壯なる校舍到る處に建てられ、整然たる法令全國に布かれ、一見泰西文明の諸國に讓らざるが如しと雖も、深く其の眞相を察すれば、多くは其の形式を模倣せるに過ぎずして、其の實質に至りては依然として、太古の農業時代、封建時代たるを免かれざるなり。斯くの如き農業時代、封建時代の教育法を以て、安んぞ今日の所謂世界的商工業時代に於て、來らんとする五大戰爭の陣頭に立ち、勝を列强と爭ふべき選手を出すを得んや。今や世界的大工業國民を養成すべき教育を起すは、我國刻下の最大急務にして、是れ吾人が不肖を顧みずして、此の大時期に際し、工業時代、科學應用時代、商業時代に適應する教育の必要を唱ふる所以なり。抑も我國現時の狀態に就て、憂ふべきもの多しと雖も、教育の病弊の如く大なるを見ず。吾人は茲に其の教育の病弊を論じ、識者と共に之が匡正の途を講ぜんことを望んで已まざるなり。

第一、我が國今日の教育は一方に偏せり。凡て一方面に偏して他を顧みざるの傾向は、個人としても、一國としても遂に滅亡を免かれず。之を例せば希伯來人の如き、善惡の觀念に偏して、其の實行に重きを置き、他の科學及び美術等を以て調和するの道を知らず、其の結果は僞善となり、偏狹となり、終に亡國となれり。又希臘人は美術に偏して、善良なる法律、有効なる倫理の觀念を缺きしが爲に、其の國民は神經過敏となり、其

の燦然たる文明も一時的のものとなり、是れ亡國の悲運に陷れり。羅馬帝國の如き、强大なる國民と雖も、其の長所とする法律の整備に偏して、仁愛、生命を顧みざりし結果は、國民は冷酷となり、無趣味となり、一時の光榮も漸く衰頽を極むるに至れり。斯くの如く國民の教育一方に偏する時は、假令其の長とする所に依りて光榮を極め、繁盛を來すも、其の光榮其の繁盛は一時的にして、遂に滅亡を免かれざるなり。今や我が國振古の大戰に際し、時局の大勢は國民をして軍事に熱中せしめ、尙武の氣風未だ曾て今日の如く旺盛なるはあらず。日本武士道の精華の發する所、皇軍の連勝寔に所因あるなり。來らんとする五大戰爭に於ても、亦此の精神に待つもの多く、之が振興を計らざるべからざるなり。然りと雖も、若し教育にして尙武力の一方をのみ之を重んじ、一面工業的教育の之に伴ふにあらざれば、決して圓滿なる教育と稱する可らず。此の弊を避けんと欲せば、實業的社會教育を起すにあり、卽ち學校に工業的、社會的、家庭的要素を加ふるにあり、語を換へて之を云へば、學校を以て小社會となし、小工場となし、模範的家庭となし、生徒をして讀書にも、遊戯にも、運動にも、親睦にも、又一級の研究會にも、團體的精神を鼓舞し、國民としての義務を覺らしめ、秩序を重んずるの習慣、勞働を尊ぶの精神、個人の責任を守る義務的觀念、何ものか國家に貢献せんとする奉公の精神、家庭の爲め、學校の爲め、國家社會の爲めに盡すの公共的精神、事物の原因を探求する究理の心、及び自活、自營等の精神を養成するにあり。斯の如くして學校は小社會となり、小國家となり、生徒をして直接に社會に交り、人生生活に對する經驗を養ひ、直接に天然に觸れしむるに至り、記憶に依賴する試驗的學問の弊を去り、觀察力、思考力を養ひ、又共同生活により て思想の交換、知識經驗の貸借をなし、今後の國民として勢力集中、戮力共同等の資質を養はしむるを得べきなり。第二、我が國今日の教養は餘りに形式的、抽象的に流れて學理應用の力を養成するに適せず、卽ち小學時代より大學時代に至るまで、多くの時間を死文字、若くは形式の學問に費消し、教育の目的たる人間固有の能力を發育せしめずして、却て其の自然の發達を妨ぐるの觀あり。元來教育は兒童の性情に從ひ、自然の衝動を利用せざるべからず。例せば兒童には第一、人と交り、人と語り、人の談を喜ぶ社會的本能あり、第二に己れの見聞したる事物に對し、美術的表現を喜ぶ美術的本能あり、第三に組織的本能あり、第四に建設的本能あり、卽ち自然に事物を組立て、或は破り或は建設し、或は物の起りを探索するを悅ぶの性あり、然るに是れ等自然の能力を働かしめずして、暗記的に文字

を教へ、學者の究めたる原理を記憶せしむるに力むる等凡て規則に束縛せられて其の發達を妨ぐる事多し。故に將來日本の教育を有効なるものと爲さんと欲せば、今日に於ける教育の方法、及び設備を根本より改革し、學校を以て兒童の活動場となし、凡て人より習ひ、人より教へらるゝに非ずして、教師は唯其の材料を與へ其の思考を興すべき暗示を與ふるに止まり、兒童をして自から考へ、自ら悟らしめざるべからず。即ち生徒の力に應じて園藝、料理、工匠、編物を課し、其の他或は煉瓦を用ひて高粱墜道等を造らしめ、或は砂を以て山川の地理を學ぶが如き、其の性情に從ひて之に適應する教育を施さゞるべからざるなり。

第三、今日の教育は學生をして無益に時間と能力とを消費せしむる弊あり。是れ家庭生活、社會生活、及び學校生活が區々相孤立して連絡を有せざるが故にして、之れが爲め教育の効果を有効ならしむる能はず。人間の生涯に於て最も貴重すべき又最も其發達の旺盛なる學生の能力と時間を無益に費やさしむるに至るなり。由來教育は第二の國民を造るにありて、常に其の時代より一歩を進めざるべからず、然るに今日の教育は已に陳腐に屬する傳說的教育を施せり。是れ豈に第二の國民を養成するの道ならんや。故に吾人は此の弊を改め、社會、家庭、學校を連絡し、其の渾一を保たざるべからず。學校生活は家庭生活に通じ、家庭生活は社會生活に通じ、此の三者互に相扶け、相通ずべき教育制度を興さゞるべからず。

第四、今日の教育は機械的にして生命を失へり。我が國初等教育の源泉たる師範學校の如き、又其の弊あるを免れず。即ち彼等は稍もすれば煩瑣なる規則に束縛せられ偏狹なる模型に閉ぢ込められて、選擇の自由、研究の自由を抑壓せられ、試驗を通過せんが爲に、戰々競々として義務的に教科書を暗記するなり。而して其の寄宿生活又極めて殺風景、無趣味にして、之れが爲めに不知不識の間に進取の氣象、活動の元氣を失ひ、狹隘なる競爭心、卑屈なる嫉妬心、及び冷淡陰鬱なる氣風を生ずるに至るなり。嗚呼斯の如き器械的にして精神なき教育家に日本將來の國民教育を托す、其の結果を知るべきのみ。故に之れを矯正せんと欲すれば、給費制度を廢し、選擇の自由、研究の自由を與へ、其の長ずる所を發揮すると共に、品性を養ひ、人格を高め、兒童に對して感化の力を有する生命ある教育家を養成せざるべからず。

第五、現時の教育界は教育家の意見を實驗するの機關を有せず、我が國の教育界に於て學制の調査教授の方法を研究するや、多くは紙上の議論若くは一場の討論に止まり、實際に其の

意見を施行し、若くは實驗を試むること、殆んど稀なり。是れ今日の教育制度が自由研究を許さゞるに基くものにして、公私の教育界素より深遠なる意見を持し、嶄新なる考案を有するものなきにあらずと雖も、其の意見を實行し、其の考案を試驗すべき機關を有せざるが爲めに、事の玆に至りしや疑を容れず。吾人は是れ等の缺點を補ひ、嶄新なる方法を自由に施行し、實驗によりて之れを研究すべき機關として、研究的私立學校を組織するの急務なるを信ずるものなり。

第六、我が國民は教育を輕視するの風あり。今や我が國民は戰時の經營に熱中し、義勇艦隊の編制に、國債の應募に、軍人遺族の扶助に、日夜奔走日も維れ足らず。此れ等の事業、素より刻下の重要のものにして、決して等閑に附すべきものにあらずと雖も、亦一方には戰後の經綸を立て大に教育を興さゞるべからず。米國の現大統領ルーズベルト氏曰く「教育は國民を作れりとは云ふ能はざるやも知るべからずと雖も、もし國民にして教育を缺かば、其の國は遂に滅亡を免かれず」と。今日我が國が露國の强と戰へるは、抑も何の爲ぞ、我が日本民族が將來雄飛の第一歩にあらずや、此の大時期に際し、將來の日本を相續する第二の國民を養成すべき教育の事業は、實に今日に於ける急務中の最大急務なりと云はざるべからず。我國民は須らく今世紀に於て壯大なる活動をなさんとしつつある米國が、如何に其の教育を重じ又其の富豪が如何に教育の爲に巨萬の資金を投ずるかを顧みざるべからず。富豪の多くが遊興の爲めに、驕奢の爲めに、莫大の金錢を費やし、之れを以て誇りとなすは各國の通弊なりと雖も、米國の富豪は教育に資金を投ずるを以て第一の事業となせり。ロックフエラーのシカゴ大學に於ける、スタンフオードのスタンフオード大學に於ける、バーサーのバーサー女子大學に於ける米國に於て有力なる大學は多く富豪の義捐によりて建設せられたるものなり。是れを以て其の教育は長足の進歩をなし、國力膨脹の旺盛なる、歐洲の諸國をして後へに瞠着たらしめんとする、誠に所因ありと云ふべし。玆に於て吾人は我が國富豪が此の大時期に於て、教育の爲めに資金を投ずるは、迂遠なるが如くして、而かも刻下の最大急務なるを思ひ、率先して之れが實行の端を啓かんことを望むや切なり。

第七、日本の教育は未だ充分に女子の價値を認めず。我が國は吾人が前に述べたるが如く、全國幾千の小學教育を不適當にして、且つ不熱心なる男子の手に委して、而かも天性の良教師たる女子あるを忘れたるが如し。吾人は啻に事業の適否を以て之れを言ふのみならず、戰後に於ける內政、外交、財政、貿易、工業、或は滿韓經營の如き男子の手を要すべき事業枚擧に

（「學報」第四號）明治三十七年十月

實業社會的教育

實業社會的教育は從來の教育が形式的、抽象的に傾ける弊を改める爲めに、學校教育に、實業的、社會的の要素を加へて、今日の社會に充分活動することの出來る人物を養成するのを目的とするのである。其の教育としては手工教育を大に奬勵するのである。

手工教育と云ふと、只單に手藝ばかりを云ふ樣に聞えるが、實はそうではなくて其の範圍は非常に廣くて、技術、美術、或は文學をも含むものである。この樣なものは手指によつて、道具を使つて、出來るものであるけれども、其の源は腦髓の働きによるのである。卽ち其の思想を發表するに當つては、複雜なる方法によつてするのであつて、手工教育とは畢竟、頭と心と手とがよく調和して、平均して發達する教育を云ふのである。

此の手工教育は今日の教育の中で最も進步、發達したもので、其の結果が非常に良好である。形式的抽象的教育は、已に獨、米等で陳腐なるものとして捨てられたのを、我が日本では尙此の教育法を見るのである。我が國の教育界が諸强國の教育

皇あらざるが故に、人物經濟の點よりして啻に小學教育に於てのみならず、家庭に於ても、社會に於ても善良にして熱心なる天然の良教師たる女子の教育家を輩出せしめざるべからずと信ずるなり。

之を要するに、我が帝國は其の國運の消長民族の興敗の決せらるべき世界的商工業時代、科學應用時代の競爭場裡に立ち、其の戰列に臨んで、今や既に第一步を擧げ、時運は國民をして逸すべからざる機會に投ぜり。卽ち、其の國運を賭して從事せる戰爭は國民をして眞面目の態度を發揮せしめ、其の連戰連勝は大に自重の心を加へ、更に帝國が將來に擔ふべき重大なる使命は國民をして莊重の觀念を起さしめたり。又我が國民が世界的雄飛を試むべき將來の經綸を確立せんが爲めに政治、外交、財政、教育、社會、有ゆる方面に於て改革の心要を感じ、新らしき思想、勃如として內に燃ゆるを覺ゆ、嗚呼今や實に根本的革新を企つべき千歲一偶の最好機に際會せり。我が日本民族が眠より醒めて其の使命を全ふし、國民的偉業を成就し、以て第二の維新を完成すべき百年の大計を確立するの時機は今日を措いて亦他日を期すべからず。此の機一たび去らんか我が國運の將來を奈何せん。庶幾くは憂國の志士此の好機を逸せず、決然として立ち國民教育の振興を計られん事を。

界と同じやうになるには、更に一番の奮勵を要するのである。

前回に述べたモスレー氏の米國教育調査委員の手工教育についての報告によるとノースウエルスの大學校長法學博士デーチヤー氏の云ふには、手工教育は、現今米國の教育界で、最も著しき傾向であつて、殊に英國の教育界を動かさんとするものである。其の手工教育には二の目的がある。

㈠教育的目的

此の種の教育が職責として居る所は、之れ迄放拋せられた心身の一方面を開發して圓滿の發育を遂げさせやうとするのである。

㈡職業的目的

凡て青年、十八歳頃迄學校教育をうけて、其の後社會に入つて實際の職業を取るに當つて、必要な能力を與ふるものである。

米國で實際其の教育がどれほど發達して居るかと云ふことは、同調査委員、ロツクテール專門學校校長、ヒープ氏の言を借らんと欲するのである。

女子教育の中に、裁縫、割烹を奬勵することは、英國も劣つて居らぬが、男子の教育になつては、英の手工教育は到底、米國に及ばないのである。即ち、英國では幼稚園で、少し手工教育を與ふるけれども、こゝを出てから年齢が十二歳になる迄は、全く間絶するのである。故に此の間は實に兒童の手工教育の爲めには、黄金時代とも云ふべき時である。米國では之れに反して、幼稚園の時から非常な注意で、手工教育を與へて、其の教育の任に當らせるものは充分の智識と經驗のある人を選ぶのである。故に兒童に其の觀察力と、實地に事に當らせる力を養ふことが出來るのである。

即ち米國では、師範教育で、手工教育の科があつて、こゝで手工教育と社會生活の關係や手工教育と子供の性質の關係を研究させ、また其の手工教育の教案順序並に其の問題等を定め、また之れを教ゆる教授法をも授けるから、こゝから出る教師ならば充分其の目的を達することが出來る樣に見えるのである。

一般の學校では、幼稚園でして居る仕事をつゞけて居る。そうして、其の最も勝れた教育の方法が、多くの學校に採用せられて居る。

多くの學校を觀察したのに、教師は此の方法に依て教ふるから、兒童は非常な興味をもつて業をして居るばかりでなく、創始力、獨立力、及び勞働を喜ぶ習慣を養成することが出來るのである。この教育主義の先驅者が二つあつて、一つはニーヨークの師範大學であつて、一つはシカゴの教育學校である。

右の二つの學校は米國で、最も進歩した教育の方法を取れる

ものであつて、此の教育法は重に大部分手工の上に基するものである。然し只手の業を基として教育するだけでなく、兒童の心の發達の順序に從つて、進む方法である。其の順序としては、一つの人種の發達する順序に準じて居る。卽ち兒童は或る意味に於て未開人であるから、其の爲す所もまだ最も單純な、織物、編物、木製の道具等を作ること等を授けるのである。而して年と共に次第に複雜の方法に進ませるのである。このやうにすると、自然に社會發達の順序を其の所作の間に見出すことが出來るのである。

ニーヨークのコロンビヤの師範大學は、どうしてこれを導いて居るかといふことは、リチヤード教授の云ふ所を聞けば、先づ兒童を原人の有樣であるところから始めるのである。卽ち其の衣食住は如何にしたかを知つて、これに準じて導くのである。故に

第一學年では、原人時代の山獵、漁業等の方法から始め、

第二學年に移つては、稍々發達した牧畜、農業等の業に移り、

第三學年では、貿易、商業、運輸等の事に進むのである。右のやうに、各時代に分つて、其の時代〳〵に用ひた道具、武器、建築法、運輸の方法等を教へるのである。卽ち今日の美術、技術は、昔時野蠻人の始めた方法の、發達したのであるからである。而して、重に其の祖先のアリアン人種の原人時代から始めて、其の發達の順序を從つて進ませるのである。

最もよくこの方法を實驗したのは、シカゴ大學のデューエー博士である。博士はたゞ此の方法を學理的に發表したゞけでなく、自らの學校で、盡く試驗をして實行して、其の結果をあらはして、一般社會に證明したのである。

デューエー氏が云ふには、教育に、歴史、科學、並に技術、美術、建築等の材料をいれることによつて、我れ〳〵の爲し得るものは何であらうか、兒童の生活を實際的價値ある樣に進めて、また其の生活に實行することの出來るもので、眞に兒童の藝能となり、智識となる樣に教育することが出來るのである。

今日の教育科目は、傳說的である。故に最も進步した教授法でも、此の頃の統計によつて見ると、兒童の爲めには黃金時代とでもいふやうな、最も發達に必要な三年間の時間の百分の七十五乃至八十は實質のない形式とか、または記號を覺えさせる事。卽ち讀み書き算術等のため、時間を費して、眞に兒童の腦力を養ふところの滋養質を備へないのである。故に其教科目が兒童の智力、或は道德的經驗には無益なものを以て、其の大部分を占めて、歴史にあらはれた實際の眞理、又は萬有にあらは

れた美、實體等の眞相を知ることは出來ないものである。

我れ〳〵の問題とするところは、兒童に吾人を圍んで居る世界の智識、または世界に籠れる勢力、及び歷史的並に社會的の成長から、眞に兒童に有益なるものを、どの程度迄、與へることが出來るか。また兒童は自分の腦力をどの程度迄、發現することが出來るかを知ることが最も大切である。此の教育法を學校に就て行ふに三の方法がある。

(イ) 木と道具とで作る工場仕事

(ロ) 割烹

(ハ) 織物卽ち、紡ぎ、縫ひ、編む事等

大工、料理、織物等を、殊に科目としたのは、之れ等の中には最も異つた技術を教育する要素を含んで、且つ兒童の智力に適當したものであるからである。このやうな仕事は、兒童自らも、樂しみ、喜んでする事であつて、其の上每日衣食する個人の生活に關係があつて、またこゝに產出した品物を交換することが出來るものであるから、社會に關係すること非常なるものである。故に之等は兒童の五感を教育して、頭をも、心をも、手をも、共に働かすことの出來る能力を與へるのである。また兒童は健康を保つに必要な運動を爲ることが出來るのを見れば、從來の教科目から、凡ての點に於て、必要な活動をさせることを知ることが出來るのである。また此の方法によると、兒童が目的を達するのに最も適當な方法を撰ぶところの判斷力を養つて秩序を保つて、勞働を尊んで、整頓を喜ぶところの良習を與へるだけでなく、組織的の頭腦を與へるのである。之れ等の實際的仕事が成長の後に、よく學び、よく行ひ、よく耐ゆることの出來る潛勢力となつて、又成人の後、最も困難な研究を遂げるところの基礎を作らせるものである。卽ち以上の學科で、料理に關聯して科學を教へ、大工によつて幾何學を應用して、織物をなすのに地理を悟つて、且つ人類の進むに準じたものであるから、これによつて歷史的智識を得ることが出來る。其の發明、發見が、どれだけ社會に影響したか、また其の社會の組織卽ち政黨等の由來等をも教ゆることが出來るのである。

以上述べた樣に、手工教育は兒童の精神を養ふところの實質を與へて、凡ての智識、觀察力、思想を養つて、圓滿な發達を遂げさせるだけでなく、兒童はまた喜んで之れをするものである。米國教育家の、主張する所によると、手工教育は獨り、幼年時代の教育に必要なだけでなく、青年時代、卽ち中等教育でも、缺くことの出來ないものである。而して此の種の教育が、北米合衆國で、どんな比例で實行せられつゝあるかといふのに、未だ學校の百分の廿五よりないのである。併し新たに設立

される學校では、悉くこの手工教育を加へることは既に輿論となつて、また實際となつて居る。これ學校の舊設備は不完全であつて、手工教育を施さんと欲しても出來ないからである。

手工と云ふ事は、普通の意味で云へば、材木を以て腰掛を作るといふ事であつた。此の手工教育の先導者は米國のセントルイのワシントン大學のウードワーズ博士であつて、同博士が一八七二年該大學に於てを之れを施行して以來成績良好なりしが爲め、終に世人の輿論を換起して、凡ての大都會に行はれる樣になつたのである。即ち一八八四年、シカゴ、バルチモーアー、トーリドーの三大都會で同種類の學校が起つて、一八八五年には、フイラデルフイヤにこの種類の學校が立てられる樣になつたのである。手工教育を猶一層發達させた一原因は、マサチューセツの立法院に於て、一八九五年、成立したところの法律である。それに云ふには、三萬以上の人口を有して居る都會では、必ず手工教育を中學校に入れねばならぬといふことであつた。

此の法律は即ち、教育を實用的ならしむる爲めであつた。此の實用的價値に相反した考へを以て、手工教育を中學に加へたものがある。これは即ちフレーベル氏の稱へたところの教育的價値であつて、手工教育を幼稚園に限らず、凡ての學校に置くべきであるといつて、此の教育が智育、德育、體育の上に缺くことの出來ないものとしたのである。けれども今日稱へて居る手工教育といふのは、實用的でもなくて、教育的でもなくて、眞に兩者の必要を兼ねたものと云つてよいのである。現今米國は手工教育が最も盛んであつて、其の中でもシカゴ、コロンビヤ兩大學で著しく行はれて居る。其の率先者とも云うべき人はデューエー博士であつて、英國調査委員の報告も、多くは同博士より得たる材料より成るものである。故に同博士の手工教育に關する意見を充分に理解せんとするにはまづデュエー氏の教育主義とするところを知らなければならぬ。

デューエー博士の教育主義

其の著された『學校と社會』の第二章に、學校と兒童生活に就て論じた一節は、よく其の主義を知ることが出來るのである。即ち此の章は學校と兒童の自然の性情、及び發達の關係を論じて居る。それにいつてあるには、數年前兒童の性質に最も適つて居る、美術的、衛生的、教育的の學校器具を求めやうとして、一學校器具屋の店頭に行つたのである。あれ、これと尋ねたけれども、終に氣に適つたものを見出し兼ねて、歸らうとするとき、番頭は氏に面白い言葉を與へたのである。「今需められる道具といふのは、其の道具を以て、兒童をして何か働か

さうとするものであらう。然るにこゝのものは凡て兒童が何事をか聽く爲めに出來たものであるといつた。氏は考へるに、此の言葉は實に現今の傳說的教育を穿つて居るものである。教育はもと、現社會よりも一段進步したものでなければ、到底次代の國民を養成することが出來ないのである。然るに現今の教育は却つて現社會よりも退步の位置にあるのである。故に其の器具は聽く爲めのものであつて、教室は成く可く狹い場所に多人數を入れることを計つて居り、机は幾何學的に並べて、四方の壁は無一物であり、物を置くことが出來ない。其の教場内のもの一つとして聽く爲めのものでないものはないのである。讀書といつても、聽くことの一種である。此の聽くことによる教育法の態度は、比較的に談話的であつて、また受動的である。故に傳說的教室では、兒童自ら働く場所が至つて少ないのである。元來教育で最も大切なのは仕事場、實驗室、材料、機械等のある場所で、其の材料を持つて其の機械によつて兒童自分から建設し、また創作し、活潑に質問する所が必要である筈なるに、傳說的教場では、其の大部分を缺くものである。旦傳說的基礎の上に建てられた學校は、教授法も、教科目も、凡て一律である。若し教育が單に聽くことのみであるならば、同じ教科目を、同じ教授法のもとに授けるのもよいであらうが、各々異つて居る腦力に適當して、其の需要に應じて、各學生に適切な、有効な、教育を施さうとするならば、千遍一律の教授法、教科目によることが出來るであらうか。これら傳說的教育の準據とするところは、

(一)受動的態度である事、

(二)機械的に兒童を服從させること、

この弊に二つある。一つは個人性を滅却し、一つは社會的精神、所謂團體心を傷つけることが大きいものである。

(三)教科目と教授法の一律であること。

等であつて、要するに此の教育では、學校の中心を兒童の上に置かないで、却つて教師、若しくば教科書、學校の規則等の上におくのである。故に此の基礎の上に建つて居る教育は、あまり兒童の生活に重きをおかないのである。然し兒童研究の必要を叫ぶことは頻りであるが、其の學校を見ると、少しも兒童の生活を見ることが出來ないのである。

然らば私共が云ふところの模範的學校とはどんなものであらうか。畢竟、模範的家庭に類似のものであらうと思ふ。其の模範的家庭といふのは工場がなければならず、實驗室もなければならないのである。兒童は工場に入つて、建設的本能を活動させ、實驗室に入つて、其の抱くところの疑問を指導されるので

ある。

更らに兒童の生活は決して家の中にばかり限られるべきものではなく、一度戸を押せば花園があり、森があり、野原があり、河があつて、成る可く多くの觀察をさせる樣に計り、其の觀察によつて、得たことを互に話し合ふことが必要である。若し此の樣な模範的家庭があるとするならば、玆に於ての兒童の生活をよく組織し、綜合したならば、模範的學校となるのである。第一模範的家庭とするには、今少し範圍が廣まらねばならぬのである。而して兒童を今少し多くの大人と交際させ、今少し多くの兒童と共同生活をさせ最も自由な最も豊富な社會生活をさせる必要があるのである。此の頃の學者は教育の定義を下して、「引き延すと云ふけれども、もし注入的教育に比較したならば、千萬尤もであるが、私共の教育の主義とするには、未だ物足らないのである。何故ならば、若し三才、四才、或は、七才、八才、位の兒童が、實地活動して居る有樣と、引き延ばすことを一致させるには、困難なことゝ云つてよいのである。兒童は已に自ら走り廻り、飛び廻りながら、種々の活動をして居るものである。決して教育家が非常な思慮と熟練とを以てして、始めて現はれる潜伏力を持つものではなくて、兒童は天性活動せるものである。抑へても、抑へても、抑へきれぬものである。故に教育は、已に現はれた力を、或は溢れた力を、指導するに過ぎないのである。此の指導の多くの方向によつて、最も價値あるところの結果を作ることが出來るのである。故に教育者は此の教育の方法に就て、多くの疑問を持つて居るのである。其のよく問はれる疑問といふのは、若し兒童の衝動のまゝに從ひ、其の興味のまゝに任せたならば、未熟な、粗野な、輕卒なものが、どうして教育の目的とする訓練、教授を全うすることが出來やうか、といふことである。誠にそうである。若し此教授法が、只兒童の衝動を刺戟して是れを自由にする外、途がないとするならば、此の疑問は尤も至極の事である。而して私共は兒童の活動を壓迫するか、又は看過するかの外はないであらう。然し若し我れ／＼が適當の裝置をして、適當の材料を備へておくには、其の衝動、興味は最も適當な方法に向はせることが出來るである。云ひ換へて見れば、我れ／＼は兒童の活動を最もよい方向に導くことが出來るのである。即ち教育の眞の目的に達せさせることが出來るのである。假令、乞食でも、もし馬を欲したならば、遂には乘ることが出來ると云ふ諺がある。未熟であつても、粗野であつても、輕卒であつても、衝動または願望と云ふならば、欲することを努力すると云ふ意味である。其の努力は如何なる困難にても戰つて、進んで其の事に

當り、之れをなすに當つては必ず自分の工夫を加へて、材料を撰み、方法を考へて、堅忍、不拔、油斷なく働いて、其の目的物に達しなければ止まない決心を似て、德育、智育等、の教育の目的を達せさせることが出來るのである。例へばこゝに一人の兒童があつて、小箱を作らうと思つても、若し其の箱を想像して、希望するのに止まつたならば、あまり薫陶する事が出來ないけれども、若し其の衝動を實現せうと企てゝ、どんな箱を作らうかと云ふ考へを定め、之れを作るのに適當した材木を持つて來て、長さ、厚さ、廣さの寸法を計り、之れを切り、之れを組立てさせたならば、どうであらうか、必ず其の道具についての智識、其の方法についての智識を得ることは離れることが出來ないのである。また其の兒童の作らんとする本能を實現させて、箱を作るに當つては、必ず教育の目的とするところの訓練、奮鬪の精神等、德育に大切なものを必ず伴ふことが出來るものである。

デューエー博士の實驗學校

デューエー博士の實驗學校はシカゴ大學の教育部で、同博士の教育主義を實行して居るところである。かのリッチエル教授が親しく之れを觀察して、其の實況を報告するのによると、余の參觀した學級は、年齡十一才から十二才迄の兒童であつた、教課は丁度博物を教ふる所であつて、其の教授法の、理想的方法であるのには、深く感じたのである。問題として居る所は砂丘の出來た原因に就てであつたが、其問題の出た譯を尋ねたのに、數日前、生徒を連れて、ミシガン湖の海岸に行つて、湖邊を觀察した結果であると云ふことである。卽ち湖岸の松の木が砂にまみれ、或は砂で土手の出來た事について、生徒は種々の質問を出した。卽ち

第一、踏む所によりて、音の異るは如何なる故か。

第二、如何にして砂丘は出來たるか。

第三、砂堤は水によりて作られたるか。

これらの問題について、頻りに問答が開かれて居つた。次の日にまた生徒を連れて、かの湖岸に行つたところが新らしい砂丘、砂堤が出來、また新らたに、松の木が砂で埋れて居るのを見た。そこで、生徒等は自らこれらの種々異つた有樣を觀察して、高さ、幅などを測量した。そして終りに此の砂堤は水の力ではすることが出來ないと云ふことを發見した。次に砂堤の平面から上れる角度を測量器で量つて、角度三十二度よりも大きな度合には、砂が盛り上ることを得ないのを見出した。そこで學校に歸つて、種々色の異つた白墨で今日見た山の有樣を成る可く正確に想像畫を畫かして、互いに疑問を起して、波の働き

であらうか、風の働きであらうかを問ふて、暫らく問答を戰はせ、遂に其の一致した結果は水の働らきではなくして風の働きであるとした。そうならば、果して風がしたところの働きであるか、否かを確める爲めに、教師は實驗させた。卽ち風を起す機械で風を吹かせて、これを遮る障碍物をおいて、人工的試驗を試みたところが、果して砂堤が出來たから、始めて得心をしたと云ふことである。またその湖岸に行つて石を拾つたり、また路傍にある植物を摘んで、拾つた石や、摘んだ草木について問答を始めて、鑛物學、植物學をさとらせた。其の石の中に、矢尻の形にみがかれたものがあつたところが、生徒等は已に亞米利加インデアンの生活に就て、石の矢尻の由來を學んだことがあるから、非常な喜びを以て話し合つた。此の樣に博物を教ゆるのに、少しの教科書も用ひず、講義を聞かせることもなく、實物によつて、實際に就いての活動によつて學ばせた。

右はデューエー實驗學校を、リチャード博士の觀察の結果を報告したものであるが、同じ其の學校をロンドン專門教育會長シイフアード氏が觀察したものを擧ぐると、同氏は六才より八才位迄の兒童であるところの第二年生の授業を參觀した。其の問題は背の高さ六尺四寸の人が、曠原に只一人住ひたりと想像せよと云つて先づ各自の想像を喚起して、如何なるものが其の生活に必要であるかを考へさせ、第一衣服、第二家屋、第三河を渡る獨木舟、第四其の曠原を耕す鋤、鍬などに就て問答して、まづ其の人の必要な家を作つて見よ。其の家の高さと云へば一丈と答へた。さらば其の人の爲めに必要なる住居をかたどれと云ふに、兒童等は極めて單純な家を作つた。そこで家には壁、屋根、窓、戸の必要なことを說いて、且つ其の家を支ふべき重量、及び高さをはかつた。そして各自の意匠に從つて、圖を引かせ、一丈の十分の一と縮めて、一尺の十分の一と縮めて、又之を折半するといふ風に、數理に適つた一の意匠畫を作つた。そこで仕事場へ行つて、其の圖面の樣に實際に家の雛形を作つた。然るに其の雛形は年齡に比べて巧みなものがあるから、シイフアード氏は其の一つをもらつて、標本に齎したといふことである。氏が云ふには、之れは手工教育といふけれども、獨り手工だけでなく、實に理化學、地質學、數學、生理學、繪畫、運輸學、歷史等を教へて、誠によく理解させることの出來る方法であると。

次は獨逸語を教へる教授法であつたが、これもまた動作で教ゆる方法によつて居つた。

リツチエル博士は更にインデイアナ公立學校を參觀した。その校長は婦人であつて、凡て其の監督の許に整頓して居る。

こゝでも亦、手工教育によつて、諸學科を平易に有効、正確に、教授して、殊に數學を巧みに教ゆるのを見た。又手工教育によつて、一般に勞働を重んずるの風を作つて居るのを見た。こゝの手工教育の教授は、コロンビヤ大學の師範部を卒業した若い婦人であつたが、極めて教育熱心家で、教授法また見るべきものがあつた。無論まづ全體の課目を定めておくのであるが、其の一部分を行ふには特別の計畫をたて其の計畫は生徒各自に考へさせ之れを提出するのを許して、其の提出した題について評議をさせ、衆議稍一致するに及んで、投票數を以てこれを定めるのである。其の働くには一定の制限があるが、其の制限内で各生自由に製作させる。この手工教育の利益は、先づ其の仕事にかゝる前充分によく考へさせ、知らしめるのを以て、興味と熱心とを以て、爲し遂げさせることが出來るばかりでなく、正確に理解させることが出來るのである。然しまたこれに件ふ缺點がないことはない。卽ち多くの子供に、同じ仕事をさせる爲めに、凡ての生徒の進歩の程度に適合させることが困難である。

ニーヨーク、コロンビヤ大學に屬する師範大學で、手工教育を擔當する教育家を養成した。其の一は初等教育に屬するもの、其の二は中等教育に屬するものであるが、入學の資格は、四ケ年の中學を卒へて、大學を二年修業したものでなければならぬ。其の修業年限は二ケ年であつて、第一學年に學ぶ課目は、手工十二時間、機械畫二時間、美術二時間、教育に關する講義六時間で、第二學年では、手工十時間、機械畫二時間、美術六時間乃至十二時間、教育に關する講義五時間である。教育に關する講義のみは、初等教育中等教育各科、通じて行ひ、その異るは手工である。卽ち初等教育では、極めて平易な手工、例へば紡績、粘土細工、紙細工、木材を以てするもの等であつて、中等教育では、全く木材、金屬を以て手工を營むのである。此の外に種々科外講演があつて、隨意科もあるが、其の主眼とする手工は、常に美術的のものと、機械的のものと、相並行して居る。

手工教育の價値

ハーバート大學の教育部長をして居る、ハーナス氏が述べた手工教育の價値につきて云ふて見ると、第一其の教育的價値は、兒童の時より青年時代、凡そ十八歳頃まで有効の働らきをして、智育は勿論、品性を高尚にするに非常な利益がある。第二職業的價値としては、都會に住んで居るものゝ爲めには、この教育法が手工教育の恩澤を蒙る唯一の機會である。田舍の生活では、其の職業的價値は生涯續く者である。第三社會的價値

として、此の社會の實業的生活の眞相を味ふやうに、第四適性、即ち個人性を見出す効力がある。過去二十年間世界文明國の教育が、著しき進歩をしたと云ふのは、實に此の個人性を見出して教育を個人化する、換言すれば、各個人の發育の程度に從つて、その能力を有効に發達せしむることによるものであつて、これ手工教育と實驗教育の他には求めることの出來ないものである。

次に專門學校長ヒープ氏の觀察によつて得たところの、手工教育の價値について結論を擧ぐれば、第一智育、體育、德育の三方面の品性を養ふ効力があり、第二創始力を衝動させ、第三個人性を發達させる者である。そして人間を最も眞面目に、正確に爲すには手工教育によることを、最もよいとするのである。即ち至誠を以てしなければ、一事も成就することが出來ない、もし過ちがあるときには其產物が直言するから、更らに教師に叱責せられ、同輩より忠告される必要はないのである、故に最も眞面目に、最も熱心に、且つ非常な興味と、活氣に充ちて、新らしい刺戟を得るのである。且つ各自に經驗するから、兒童は各自の長所を見出して、失望落膽することなく、自重心を强むることが出來る、そればかりでなく、常に具體的のものに接せしむるので、數理、重量、廣狹、大小等學理では明瞭に說明することの出來ないものをも、解させることが出來るのである。

此の樣に生徒に活動させることは、熱心を增させ新らたに問題を研究させる心を起させ、次第に考へ深くなつて、行ひを高くなることが出來るのである、然し此の結果を得ることは、死んだ舊教育法を墨守するばかりでは出來ないのであつて、熱心な教育家が導くのでなければ、到底其の目的を達することが出來ないのである。

（「講演集」第一）明治三十七年十月

個人性と社會性

諸子は今日の質疑の問題として、個人性と社會性との關係に就き、先刻から種々の意見を發表されたが、此の問題は決して簡單なものではないのであるから、なほ一層の研究あらんことを望むのである。

抑も此の問題が諸子の心中に起るのは、第一團體の爲に盡さうとすれば、個人の修養に缺くる事を免れず、又個人の爲に盡さうとすれば勢ひ團體の爲に盡されぬ事となるによつてゞあらう。第二は此の學校にては頻りに個人の修養、又は自奮、自修

と云ふ事を奬勵すると共に、團體心を養ふ事を奬勵するので、此の處でわからなくなると云ふ事、第三は諸子が今日學者の說をきけば個人主義、社會主義、自愛主義、他愛主義或は無政府主義、帝國主義等いろ〳〵反對の考えがあつて、どれが道理であるか分らなくなるのである。實に十九世紀は個人主義と社會主義との衝突の時代である。之は政治家にも、宗教家にも、教育家にも皆ある事である。十八世記の終りに於て極端なる個人主義、卽ち專制主義に反對し「アメリカ」などは獨立主義を主張して立憲政體となり、個人の權利を重んずる樣になつた。然るに十九世紀となりて、政治の競爭、個人の權利と云ふもの益々盛んになり、又社會の努力は薄らいで個人が權利を得る事となつた。此を以て我權利我自由並に獨立自營、獨立自尊等の思想が「アングロサキソン」の間に盛んに行はれた。此の結果として、學理の應用と云ふ事が非常なる勢を以て起り、次第に大製造場、大資本家等少數の個人が權利を恣にする事となり、政府も社會も此の跋扈を抑へる事が出來ず、個人個人の競爭の結果、社會は非常に苦しむ樣になり、其の反動として社會主義と云ふものが盛んに起つた。其の最も極端なものを共產主義と稱へる、この主義者の主張する所によれば、個人が財產をもつは惡しき事であるから是非之を奪ひ取つて全く政府のものとし、鐵道も鑛山も皆政府の事業とし、個人の活動を許さない樣にと云ふ主義で、つまり平等論であるから、金持を拵へる事を忌み之になると殆んど個人性を埋沒するのである。卽ち個人と社會との關係は、恰かも水の上の泡の如く、或は大洋の波の如きもので、結局彼等は個人が財產を持ち、土地を私有することを許さないのである。そこでずつと人間の歷史を考えて見ると、いつも個人と社會との間に衝突が起り、いろ〳〵なる變遷がある。故に歷史は社會と個人との衝突、及び調和の變化であると云つても宜しいのである。政治界、經濟界に於ても、個人主義と社會主義とは、何時も調和せず、衝突して居るかの如き有樣である。さうして個人の弱き國は、國民が何もかも政府に依賴する者である。露西亞では團體が個人を支配し、團體が個人を左右して居る。之に反して「アメリカ」の如く個人の强き所は、個人の弱き國よりも多くの部分に於て、自ら自分の事をして行くのである。それで非常に個人の權利の發達したる國もあれば、團體の盛んな國もありて、其に爲にいろ〳〵の騷動も出來て居るのである、是れ等の事實から考へても個人性と社會性との問題の容易ならぬ事がわかるであらう。然し我れ〳〵の主義を定むる上には是非とも先づ之を研究するの必要があるのである。

此の問題につきて先づ第一誤解を招く事は、個人と社會と云ふものが別々に相離れて存在するものと考へることである。併し全然社會を離れた個人、全然個人を離れた社會と云うものがありうべきものであらうか、否、斯くの如きは到底我々の經驗する事は出來ない問題である。我々が個人とか社會とか云ふは畢竟一つものを內外から見た相違に外ならぬので、外から見れば個人とか社會とかいふが、內から見れば個人も社會的關係によつて存在し、社會は畢竟一つの大なる個人に外ならぬのである。卽ち我々の如何なる發明、如何なる說、如何なる主義と雖も、一つとして自身一個のものと云ふべきものはない。其の幾部分は祖先以來の遺傳により、他の幾部分は師より或は友より授けられ、若くは社會の暗示によりて得たるものに過ぎないので、おしつめて見れば、我々の考、我々の道德、我々の身體は、一として社會より與へられぬものはない。また社會は個人個人が各々其の處を保つて、各種の機關を備へて居る一つの有機體に外ならぬので、個人なくして社會は出來ず、個人發達せずして到底社會の進步を望む事は出來ない、故に健全なる個人主義と云ふものは、やはり健全なる社會主義と同一轍に歸するものである。これを以て今云ふ、個人の修養を勉めると云ふ事、又眞に偉大なるものになると云ふ意味に於て社會の爲國の爲と云ふ事に關係せずして爲さんとするは到底望んで得可らざる事である、かたはなる事である。併し其の社會とか他人とか云ふ事を考ふると同時に其の社會の爲、人の爲にすると云ふ事の中には自分の爲にすることとなるので、人の爲に爲すべき事をして我が爲にならぬ、個人主義と社會主義と云ふものが、昔から衝突して居るのは、考へが一方に偏して全體を見ることの出來ぬ弊である。社會主義と個人主義に就き、古來如何なる學者の說があつたであらうか。

一、純正個人主義

此の主義は殆んど全く個人を基とする說であつて社會を第二に置き又社會を偶然の結果と見なすのである。故に個人を全然離れたるものとして考へ、社會現象も個人の活動に外ならぬのである。凡て人生に於ける出來事は悉く個人から出たもの、又個人は全く不羈獨立のものであると考へて卽ち個人を人事の泉源とし、社會の唯一の基礎とするのである。つまり此の說によれば、社會と云ふものが個人より別にあるのではなくて、悉く個人から來て居るのである。故に個人が最大切なるものであると云ふ論である。此の說は今日の進化論にも適合せず、又近世哲學の思想にも合はないものであるけれども、今日思想界から

全く跡を絶つたものとは云へぬ、併し此の説の批判は社會性と個人性の緒論によつて、自ら明かであらうと思ふ。

二、二元論

是は社會と個人との間に區劃を立てるのである。卽ち是れは個人の勢力彼れは社會の勢力と云ふべき二つの力であるものとする説である。此の説もやはり社會とは全然個人と相離れて居るものと見、又社會を組織して居る所の個人を孤立して居るものとする考へであるが、是れも哲學的に考へて見ますると前の説よりも餘り進歩したものとは云へぬ。併し此の説によると、不明瞭ながらも社會の力と云ふものを認めて居る。之が第一の純正個人主義と違ふ所である。さて此の説を起こす原因は、自分を自分の原因と考へ、又自分を自分と云ふ小世界の創造者と考へる事である。そこで此の説によると人生には二つの異りたる力、卽ち社會的勢力と個人的勢力との二勢力が常に戰つて居るものとし、個人に重きを置くものはなるべく社會の力の少なからんことを願ひ、或は社會の力を破壞せんことを希望して居るのである。又社會を信ずるものは、個人の力を減じ、社會の力を得んと勉むるのである。思ふに我日本の今日の狀態も亦斯かる考へを抱いて居る人が多い樣に見うけらるゝ。日露戰爭開始以前の社會狀態は如何であつたかと云ふに、人民は頻りに個人の力を擴張せんとし、如何にもして現內閣を倒し、政府の力を抑へて見ようと企て、政府側の人はなるべく個人を壓して、我儘を云ふ力を散ぜしめんと勉めたのである、然るに日露戰爭となつて始めて國力を一致することの必要を認めた。國家と云ふ社會の力でなくては、到底露國に勝つ事は出來ぬと云ふ事がわかつたのである。夫れで今日は如何に租稅をかけられても人民は喜んで之れを捧げんとし、たとへ自身の着用して居る衣服を脫ぎても、其の義務を怠らぬのである。此に於てか擧國一致の實はあがり、個人も國家と云ふ社會も共に進歩を見るに至つた。然るに二元論と云ふものは、個人と社會とは相容れぬもの、始終相爭へるものと云ふ風に、社會的勢力と個人的勢力との間に、區劃を立てようとする説である。

三、原人個人主義

此の説によれば、時に於て卽ち歷史的に云へば、社會は個人の次に續きて成立したるもの、換言すれば社會は個人が發達して出來たるものである。是れは一見進化論に似て居る樣であるので往々人の迷はさるゝ説であるが、似て非なるもので稍々深く研究すれば極めて未熟なる、又曖昧なる説と云はねばなら

ぬ。今一つの特色は、個人主義は社會主義よりも低く、劣等なるものである。又道德上より云ふも、個人主義は社會主義よりも價値の低きものとし、從つて社會の發達せぬ間は個人あれども、社會主義の發達するときは、個人主義は壓倒せらるゝもので、社會主義は卽ち個人の完成したものであるとする事であつて、之は一應尤もな事の樣であるが、やはり淺學なる議論たるを免れない。例へば小兒を觀察して見れば直ぐにわかる。小兒の時には社會性はなくて個人性のみの者であるが、或は自己的感情と社會的感情とは孰れが先きに起るものであるかと云ふに、先づ小兒の働きを調べて見ると、坐るや否や乳を求む。また顏色によつて何事かあることを示すのである。生後幾何も經たぬ嬰兒ですらも、母を見れば嬉しさうな笑顏をなし、我と云ふ自覺が出來る位になれば、多人數にあやさるゝことを喜ぶのである。之に反して一人置かるれば淋しがりて泣き出すのである。如何なる惡人と雖も必ず良心の責に勝つことは出來ずして、生前之を懺悔して然る後永眠しないものはあらぬ。又野蠻人につきて調ぶるも、猶野蠻人相應の社會性はあるのである。故に之等の諸方面より考へて見れば、どうしても個人性が充分發達して然る後に初めて社會性が發達するのではなく、生れながら其の萠芽はあると云はねばならない。卽ち本能的に社會性を有する、併し文明人の社會と野蠻人の社會とは實に雲泥の違ひがあるが、文明社會は社會と共に個人も發達して居り、野蠻人の社會は社會も遲れて居れば個人も不完全なので畢竟社會と個人とは同一程度を保つて並び進むものである。故に社會的敎育は個人性に最も重きを置くのである、此の個人性を發達せしむるには、是非社會的生活をさせねばならぬ。凡て人間は社會ある爲めに我を知り、他人ある故に己れを見出すことを得るのである。

四、社會的能力說

之は我々の諸能力中の一部分に社會的能力と云ふものがあり、又他の部分に個人的能力と云ふものがある。故に我々一身に二つの傾向を有して居るのである。卽ち一は社會的、一は個人的の傾向である。例へば愛の如き情緒は社會的であつて、恐れるとか怒るとか云ふ樣な感情は非社會的卽ち個人的のものであるのである。又或る學者は知力は個人的能力であつて、情緒は社會的能力であると分つ者すらある。併し此の社會的能力を社會的本能と云ふ意味に用ふれば、さほど誤つたものではない。さうして愛情と云ふものが怒ると云ふ事よりも一層社會的であると云ふ風に用ふれば敢て誤まりではない。併し或情緒は

社會的であつて或ものは個人的であるとすれば大變な問題である。又個人的感情は社會的感情よりも低きものであると云ふ風に考ふるならば夫れも誤りである。我々の心理をよく考へて見ると之は社會的、之は個人的と違つたものが二つはあらぬ。廣き意味で云へば我々の能力は凡て社會的である。そこで個人と社會とは別々のものでなく共に相並んで人生に缺く可らざるものである。故に健全なる個人主義は、健全なる社會主義であり、健全なる社會主義は健全なる個人主義であると云ふ事がおわかりであらうと思ふ。故に孰れ先き孰れを後にすると云ふ事もなく又孰れを捨てゝ孰れを取ると云ふ事もないのである、我々は同時に此の兩方面を考へて人生（Human life）を完全にしなければならない。以上は個人主義と社會主義との理論を說いたので、之がわかつて後始めてあなた方が實現しようと云ふ考が起るのである。然らば如何にして之を實行すべきかと云ふ事が問題となるのである。これを述ぶるに先ちて、社會が個人に對する本務を如何にすべきか、卽ち、社會が如何に個人を教育すべきものなるか、社會に連なる我々個人は社會に對して如何にすべきものなるかを究めねばなるまい。此の主意より云へば社會は個人の爲、個人は社會の爲である。社會は人の自由を保護し個人の發達を助くべきものである。又社會を組み立てる爲に、完全なる個人の發達を得なければならぬのである。で、社會を主にして考ふる時も、個人の人格と云ふ事が大切である。個人に人格を缺き、個人性を缺きたる時は、到底完全なる社會は成り立たないのである。何となれば、社會は千種萬別なる機關を備へて居るが、之は千種萬樣な個人性に依つて組み立てられて居るのである。卽ち人格は夫れ〳〵違つて居る事が必要である。故に社會教育は千篇一律にする事は好ましき事でない。各自の傾向本能に從つて、各特色を有する所の品性を養ふといふ事が、社會の一員として教育するといふ教育者の主張する所である。此の目的を達するには自由といふ事が必要である。國家を立つる上に民權の自由を尊ぶと同じく、生徒にも此の自由を與へて、個人の發達、個人の安寧、個人の幸福といふものを計らねばそは到底發達しないのである。諸子が櫻楓會を組織して櫻楓會をよくせねばならぬといふ事は卽ち個人をよくするといふ事に、歸着するのである。

故に社會をよくするには是非とも先ず個人性を發達させねばならぬ。併しすべてのものは偏つてはならぬ。一例を擧ぐれば、昔盛大を極めたる國の歷史を考へてもわかる。ヒブライは實行を尊び、グリーキは美術を、ローマは眞理を非常に重んじたが、餘り一方に傾きて調和は得なかつた爲に、人心が冷却し

て遂に滅亡の悲運に遇うたのである。人間社會がかたはになれば矢張り亡びるのである。

我櫻楓會に於ても、同型の人許り出づるは喜ぶべき事ではない、或は事務家もよし、思想家もよし、詩人もよし、音樂家もよし、教育家もよい、各方面にて其の天賦の才能を發揮して各自特色あるものとなり、此所に始めて、多方面を備へたる完全なる櫻楓會が成立するのである。又社會も櫻楓會から種々悉く違つた者の出る事を切望するのである。若し自らが社會の一員として本務を盡さんがため、其の適性を發見し、目的を確定したならば、其の日から自重心が強くなり氣品が高尚になり、力は二倍し、人格は高まるのである。之に反して心身の適性を發見し得ない人は目的を定むる時に常に迷ひ、世の風浪に動かされ、片時も心が定まる時がないのである。故に個人性を發見して、自分の社會に於る職分を確定する事は最も大切なる事である。然るに此の個人性を發見するは、容易ならぬ事である。昔は四民と云て人々の職分は士農工商に分たるゝのみであつた。然るに今日の社會を見れば、文明とともに愈々分業行はれ非常に複雜なものになつたのである。例へば、昔は草履を作るにしても、百姓がほんの雨降り仕事に、日に五六足づゝ拵へたものであるが、今日は只靴を拵へるといふ一事のみでも、廿七八の分業となり、其の結果として一日に何萬足も出來る樣になつた。又一家の内にしても昔は生れた家の職業をつげば宜しかつたのであるが、今日は何にても自分に適した事が出來る自由があると共に、之を創始する責任もある。扨て健全なる個人は如何なるものかを明かにする爲此所に其の反對なる不健全なる個人に就て述べて見よう。不健全なる個人とは英語の所謂 Selfish であつて、日本語に譯すれは利己主義である。さてこの不健全なる個人といへば、卽ち病的の者或は不具なる者である。

不健全なる個人第一の特色は、心の狹き事である。又他の詞でいへば頑固、卑劣等である。今少し具體的の言葉を以て云へば、傲慢、虛榮、嫉妬心、競爭心、嫌惡心、忿怒心、敵慨心等であつて是れ等の劣情を以て充たされて居るものが、卽ち不健全なる病的の個人主義である。斯かるものは道德上非社會的といはねばならぬが、然らば社會といふ事を全く離れて起る現象であるかといふに矢張離れる事の出來ぬものである。例へば高慢といふ事なども一人では起らない、他人と己れとを比較して他人よりも自分が勝れて居ると感ずる情で之は他人と不健全なる關係を持ちたるものと云ふべき人である。虛榮心も競爭心も嫉妬心も皆他人あつての問題である。益軒先生の云はれた女の五病の如きも他人に對する不健全なる關係である。故に不健全

な個人によつて成立して居る社會は不健全である。

不健全な個人第二の特色は弱く、輕く、又動き易き事である。利己的の人は誠に頑固なものである。頑固といへば強い樣であるけれども、實は甚だ弱いもので、己れの勝手、卽ち欲望のまにまにその主義を更へて行くのである。故に局部からいへば狹いといふ事、力よりいへば弱いといふ事である。卽ち自分の意志で自ら抑制して行く事が出來ぬより、今日は親しきかと見れば、明日は疎く、朝には熱して居るかと見れば、夕べには冷却するといふ風で、到底永久不變の關係を保つ事が出來ない。故に友と交つて親友なく、又團體に加はつても、全體の人心を指揮して行く事が出來ぬ、人々はかゝるものを喜ばない。卽ち夫れは實は病的の心であるからである。

第三の特色は、利己心である。自分の利益自分の慾を主とするものであつて、何事をするにも利害によつて動く人であらう、俗にいふ貪欲な人です。此の種の人は利己主義が最自分の爲に善き事と考ふるなるも、我々の目より見れば是れぞ自分を殺す最憫むべきものといはねばならぬ。

第四は利己主義の人は他人の善を喜ばぬ事である。人に幸なる事があれば我心これを淡みて穩かならず、又樂しまず、甚しきは自分の學校のこと、會のことに就きても、その喜びをともにせぬものあり、又頻りに人の事を聞くけれども、實は惡しき音信を探がして居るのである。自分の企てたる事、自分の名譽の揚る事、自分の善き位置を占める事の出來る樣な事柄の外は一切冷淡なのである。かゝる人の澤山居る社會ほど不健全な社會である。

然らば健全なる個人がよりさへすれば、健全なる社會は自然によくなるかといふに、私の考では、矢張一方では社會といふものを認め愛國心、團結心を養ひ立てずば決して社會は發達せぬものである。モーズレー氏の報告（米國の教育英國を醒さんとすの項參照）の如きは愛校心を以て愛國心を養はしむるといふ教育の仕方である。是れは至極尤の事で若しも我々が個人丈をよくすれば、社會は自然に善くなるといふ考で愛國心を養はぬ時は、忽ち支那や朝鮮の樣になり行く事は明白である。我々が社會を組織して居る以上は其の社會の一員として、何か世の爲に又人の爲に盡して居るといふ確信がなくては無意味なる生涯を送る事となるのである。我々がこれをなすのに最大切なる事は己れの適性を發見して、其の本分を完ふする事である。さて此の己れの適性を見出す事は自分と云ふものと、社會といふものとの兩方面がわからねば出來ないのである。次には既に個人性を發見し、天職を見出だした以上、其の我を修養すること

が必要である。諸子の中に自分の個人性を修養する爲に時を費し、力を集むるのは社會に對して義務を怠る事になりはせぬかといふ心配をして居られる方がある樣である。然し社會から孤立したる一個人の名譽を揚げ自分の爲めに金を儲け、己れ一人樂しまうといふ事ならば惡事であるが、社會に關係した個人の修養をする事は社會に對して有益なばかりでなく、我々が社會に對する義務である。修養といふ事は種々の意味を有する事であるが、先づ己れの能力、卽ち潛伏力を貯へるのである。又自分の品性を高め、自分の理想を作るのである。斯くの如くして得たる我々の潛伏力、高尙なる理想、遠大なる經綸はとりも直さず、社會の勢力、社會の輿論、社會の風俗となるもので、斯くなる時は社會的といふのである。例へばアメリカの南北戰爭を起したるリンコンが永き間修養して社會の輿論を起し、奴隷を解放せし事は、氏の心の中に胚胎せる間は、個人的と云ふべきものであるが、既に宣言書となつて現はれたる時は、社會的といふのである。扨て社會的となりたる時は、個人性はなくなりたるかといふに決してさうではない。リンコンが自分の主義を主張して、社會の輿論となり、法律となりたる後も矢張り是れは自分の考となつて存して居るのである。また釋尊が幸福なる家に生れながら、山に籠りて修養し、天地の道理、人間の性質をふかく考へ、身を殺し己れを捨てゝ研究せられたのは何の爲かといふに、如何にすれば人間を救ふことが出來るか、如何にすれば、此の世を濟度する事が出來るかと云ふ事であつた。又キリストが四十日間山の上に上られて種々の誘惑と戰ひ、遂に世に打ち勝つことを得られたのは何故であらうか。キリストは十二歲の頃から深く感ずる所があつて、一日も之を忘るゝ事能はず、遂に其の念を生涯一貫せられた所以は、どうかして世の中の人を救はねばならぬと云ふ事である。又近くはコントの如き人が哲學の研究に犧牲となつたことも、是非哲學を組織しなければ世を救ふことは出來ぬと云ふ確信によつて成し遂げられたのである。これらの人々の自分を修養する事は、やはり社會的である。社會に盡す爲に、自分を修養するといふ事は缺く可らざる事である。決して充分に必要なる知識を積み、確かなる理想が出來ぬならば、將來社會の爲になるといふ事は望むべからぬ事である。ウヰリアムピットが、レモンヂ公爵に向つて「閣下よ、予は此の英國を救ふ者なり、予をおきて是れを爲すものなし」といふ詞はいかにして云ひ得たであらうか。彼は自ら修め、自ら貯へ自ら經綸する所があつたからである。是れを以て彼は生涯、其の目的の半ばを達し得たのである。其の他シヤフツベリー伯、ワシントンの如き、皆同じ事である。我々の

會、我々の學校にして之を隆盛に赴かしめんとならば、先づ諸子の充分なる修養に須たなければならぬ。

今後十年の間は諸子の潛伏力を養ふべき時である。物事をする前に充分の用意、調査、經綸をなして後着手すること、所謂注意周到でなければならぬ。今日迄私は此の主義をとつて居るが、間違つては居ないつもりである。一つ事をするにも、必ず遠大なる計畫を立てゝしなければならぬ。或人は私を評して云はれるに「君は實に物をするに遲くて仕方がない、然し一旦物事を決定する時は實に疾風の勢ひをもつてせらるゝ」と云はれた。過賞敢て當らずと雖も、我々は十分なる支度をなして着手しなければ眞に物は出來ないのである。また充分の用意をする事が遲い樣で實は早いのである。

次に今一つ考ふべき事は、自分を大切にし自分を修養するといふ事は、利己の樣に思はるゝより、粗食をなし健康を顧みずして盡すことは非常なる間違ひである。滋養も充分にとり身體をも厭ひ自愛して社會に盡すのが眞に國を愛する所以であることを忘れてはならぬ。此の己れをすてて己れを善くするといふことは中々爲しがたきものである。どうも自分の力が足りない、瘦せ馬に鞭つてなりと進んで行かうか知らむ。身體は衰へても死ぬ迄しようか知らむと思ふは大なる間違ひである。かゝる事計りをして居ては、決して完全な者とはなれぬ。諸子は、毎日進んで居るといふ確信がなければ決して人を率ゐて行くことは出來ぬ。從つて立派なる團體を造る事は出來ないのである。斯ういふ己れを社會の爲に捧ぐるといふ非常な決心をした時には益々獨り靜に修養して、己れを高めねばならぬ。非常に活動するには獨居の時が必要である。社會の爲團體の爲に大に盡さうとするものは、時として閑靜なる山の中に入らねばならぬ。夫れは非常に盡さんとする者は非常に考へることを要するからである。

諸子は高等教育を受けた甲斐には、一般婦人の進歩の爲め、一身を捧げて家庭に、教育に、また社會の事に盡さねばならぬ。任重うして、力未だ之れに伴はぬ者である。幸に自愛自重して、其の目的に向つて徐ろに進み行かれん事を切望するのである。

（「講演集」第一・櫻楓會第七回例會）明治三十七年十一月

日本女子大學校設立披露式に於て

今日の設立式の意義

今日はかゝる天氣にも拘らず、遠方の所をお出で下さいまして、深く感謝いたします。皆さんの御助けによりまして、本校も年と共に段々成長發達して參りましたが、今日迄は未だ創立の時代でありました。今日漸く本校の基礎が固まりまして愈々日本女子大學校といふものが設立されたといふ事になつたのであります。故に今日の此の式を本當の意味で申しますると、設立式と考へてもよからうと思ふ。就きましては、本校の創立員諸君並に本校創立以來同情を以て、常に言論の上で本校の發達を助けられた新聞雜誌記者諸君をお招き申して、本校教職員生徒一同此處に會して、今日設立に至りました所の其の披露を致したいと考へるのであります。今簡單に何故に今日の式が設立式であるかと申す事を述べまして、終りに一言生徒諸子に申しておきたいと思ふ事があります。

第一本校は、今日迄創立委員といふ團體に依つて、維持されて來ました。今日は財團法人と變りまして、其の創立委員の中から、理事といふ樣な役員が選擧さるゝ事になつたのであります。

第二の點は本校の創立費として、當初三十萬圓を募集して、本校を開設する目的でありましたが、其の準備よりも時機が先きに來りまして、充分に設備をする暇がなくて、創立委員で相談をして、不取敢開校をしたのである。故に本校の資金は、今日迄漸く十九萬圓に達したのであります。然るに此の二週間の中に十二萬圓の募集金が出來ました。故に本校の資金が三十二三萬圓といふ額に達したのである。故に最初の目的通りに、其の内二十二三萬圓が設備費となり、十萬圓ばかりの基金が出來たといふ事になるのであります。

第三には、此の千載一遇の大時機に於きまして、國家百年の計といたして、新たに一の新事業を開設する事になつたのであります。

森村市左衛門君の義擧

今日此の國事多難の時に當りまして、斯かる結果を得たといふ事は誠に驚くべき現象であらうと考へる。如何なる動機に依つて、斯かる結果が生じましたかと申しますと、此の動機を拵へた處のものは、本校創立委員である森村市左衛門君の行爲であるのでございます。其の譯を一言述べたいと思ふのであります。

此の夏休みの前に一日私は森村君を木挽町の御宅に尋ねました。用談が濟みましてから、君は何か大いに感ずる處があつて、改めて、私に話さるゝに、實は私から少し御相談したい事

があつたのである。他の譯ではないが、私の既に此の世を去つた弟並に忰が今日迄存命致して居つたならば、何か御國のために盡す處があるであらうと考へるにつきまして、其の記念として立てゝある處の豊明會に或る財産を有して居るが、何か國家の急務ともいふべき處の事業の爲に、此の資を投じたいが、之に就て、何かよい考はあるまいか、願くば、お前に立案をして貰ひたいものであるといふお話でございました。私は充分に熟考し、且つ調査研究した後に、御答へしませうと申してお別れを申したのである。所が當時非常に多忙で御座いまして直樣其の調べにかゝる事が出來ずして、遂に夏休みに這入りました。少しく暇を得ましたから、此の問題について、一日深く考へて見ました。其の時に私の最注意をしたのは、我田引水にならぬ樣に、又獨斷的、主觀的の判斷に陷らぬ樣に注意せねばならぬと思ひまして、色々考へて居りました。或日一つのインスピレーションを受けまして、私は、其の時に、自分の意を決したのである。それから及ばずながら色々調査致しまして、私の信ずる處の案を立てゝ見たのである。是れが卽ち、今日事實となつて現はれて來たのであります。其の立案と申すのは、此の頃出來ました本校の學報の初め、「第二維新を論じて我國教育の宿弊に及ぶ」といふ論文であります。是は、私の意見書を、モウ少し圓滿に書きまして、世間に發表しても宜い樣に直したのである。又其の中の一二節を除いたのでありますが、大體に於ては、其の通りであつて、卽ち此の事業の主義方針は、其の論文の中に現はれて居る積りであります。併しながら獨斷的になる事を恐れまして、先づ私は大隈伯爵に其の案をお目にかけ、且つ森村君の志をもお話して、伯の御意見を伺つた。所が私の考へたよりも尙以上の事をお考へになつて、深く同情を表されたのであります。是は後に、多分伯爵御自身でお話になる事であらうと考へるから、私は其の意味はこゝに申しませぬ。次に澁澤男爵に謀りました。男爵は御病中大變に委しく御覽下さつて、暫く首を傾けて居られた。御同感である。併し我邦にロックフエローの無いことは遺憾である。若し私が資産があつたならば、喜んで資を投じたいが、自分は其の樣な資産を持つものでない。若し森村君が奮發さるゝならば實に國家の爲に必要な事であると自分は認める。又自分も力はないが、力相當な事は盡したい。又本校の基金といふものが出來て居らぬから、森村君が奮發さるゝならば、此處に我々發起人が申合せて、五、七萬の基金を作らんければならぬと自分は考へる、といふやうな御話がありました。それから、我邦の教育の弊を改むるといふ事は御同感であるが、此の意見を實行するに當つて、或は大

學、文部省等より反對をうけるといふ事が無きにしもあるまじ。願くば文部大臣にこの事業に就て、妨げをしない丈けの態度をもつてもらひたいと云ふ樣な御希望でありました。それから私は直樣其の足で文部大臣を訪ねて、何も話さずに其の意見書をお目にかけました。大に賛成の意を表せられた。其の時に、私は澁澤男爵のお言葉を話したところが、私は矢張り今日の教育の改革意見を有して居る一人ではないかと申されました。次に三井三郎助君、岩崎男爵にお謀り申して、又丁度西園寺候爵が歸朝せられましたから、最本校に關係の深い候爵に此の考をお話し申し、且つ此の意見書を調べて頂きました。候爵は、此の考は、今日歐米に於て、最進んだ教育社會の傾向である。東西自然に、此の考が合して來たのである。西洋が先きに手をつけるか、日本が先きに手をつけるか、一日も怠るべからざるものである。若し森村君が斯の如く奮發さるゝならば、誠に結構な事である。斯の如く私の信ずる先輩の諸君が大に同意を表されましたから、稍々意を強くいたしまして私は森村君に腹藏なく自分の考をお話し申し上げたのである。其の間に屢々森村君とも會合いたした。又森村豊明會を組織せらるゝ會員方にも私の考をお話した事がありましたが、遂に其の結果は、此の實に經濟界の困難な場合に、速に御決心になつて、私の方に今から凡そ二週間ばかり前に此の書面が參りましたのであります。それを今からチョツト朗讀いたします。

拜　啓

森村豊明會員なる下名等は兼て貴校の教育事業に同情し、曩に多少の資を致して、賛助の意を表し候處、刻下我邦前未曾有の時局に際し深く國運の將來を慮かり候時は、我等國民が講究經營すべき幾多の事業前途に横はり候得共、就中國民教育の基礎たるべき女子教育の今一層有效切實ならん事を望むものに有之、且つ過ぐる日、帝國大學に於て、文部大臣に賜はりたる御沙汰を拜して轉た感激の至りに不堪、此の際聊か國民の本分を盡し度思考罷在候折柄貴校に於て教育學部開設の計畫あり其の主義方針とせらるる所に關し下名等に示されたる貴下の意見書は大に下名等の感を同じふする所に有之國家百年の大計に裨補あるべきを信じ玆に別紙目錄の通り（一金五萬五千圓也）貴校に寄附し教育學部の費途に供し度、幸に貴校計畫實施の一助と相成候はゞ下名等の深く滿足する所に御座候。右得貴意度如斯御座候。

敬具

明治三十七年十一月廿八日

森村豊明會

森村市左衞門　森村　勇

大倉孫兵衛　村井保固
新井領一郎　廣瀬實榮
永井義三郎　諸葛小彌太

日本女子大學校々長　成瀬仁藏殿

それで此の五萬五千圓を御寄附になりましたのは、今度教育部を置きまして、師範大學といふものを起し、之に附屬いたしまして、幼稚園、小學校を設けるに就ては、其の建築に五萬圓、器具に五千圓合せて五萬五千圓を要する、此の五萬五千圓を御寄附になつたのである。併し、其の他に尙さう云ふ事の御考で森村さんは本校の爲に地面を御買ひになつたり又書籍を御寄附になつたこともある。又學監の洋行費に御寄附なつたりして略々それを合せますと六萬圓になるのであります。

それから第一回の基金として寄附なされた三萬圓を加ふれば、九萬圓といふものになる。此の九萬圓といふことは亞米利加等の大學の事から比較して見ますと、先づ百萬弗の價値に相當するものである。百萬弗の寄附金といふものは今日は亞米利加に於ては左程珍しくないけれども大學の起るに當り、殊に女子大學、ヴアーサーの如き、スミスの如き、ウエルスレーの如き、或はヴアーサー、或はスミスとかいふやうな人の手に依つて成りました。其の寄附金といふものは凡百萬弗である。我國に於きましては誠に之までは餘り例のない所のことであるのです。併しながら森村君の斯の如き寄附を、此の學校になされた行爲は、獨り巨額の金といふ事ばかりではない、金を只出されたといふものでは無い、實に森村君の精神を出されたのである。五十年間辛苦經營された其の結果を出されたのである。卽ち此の金を出されたといふ事は森村君が心を捧げられたといふものであります。私が此の御手紙を貰ふた翌日に御尋ねをしました處が、森村さんは誠に謙遜に挨拶をなさるには、昨夜以來私は非常に心に喜びを持つて居る。假令粟一粒のやうな誠に小さい物と雖も國家の爲に種を蒔いたと思ひましたから誠に安心を致します。是れで先づ死んでも餘り遺憾はない。私が五十年間刻苦辛勞して働いたのは何の爲であるか、國家の爲である。如何にして此の金を國家の爲に用ひるかといふ事は長く心に問題として居たが今日其の問題を解決し其の目的を達する事が出來た事は私の爲に嬉しい事であります。大に私はアナタにお禮を申さなければならぬと言うて、森村さんが私に向つてお禮を仰しやるのであります。私は日頃御交際を致して居りますが、森村さんは誠に粗服を被、粗食を食ひ、質素な家屋に住はれ卽ち自分の衣食住を節約して、頻りに貯蓄に力めて居られるといふ其の目的は、何か國家のために盡したい、何か人の爲に盡し

たいといふ御精神に外ならぬのである。私共はこれは、唯金を受けたのでは無いのである。森村君の精神、森村君の目的、森村君の志を了解せねばならぬ事であらうと考へる。

確き基礎の上に

それから先づ私は、此の事を大隈委員長、並に澁澤會計監督に、御報道いたしまして、兩君共深く感ぜられまして、兎も角も、至急に建築委員並に教務委員會を開いて是れを受けるに就ての協議會を開かうといふ事になりました。其の節西園寺侯爵、大隈伯爵、澁澤男爵、三井三郎助君、兒島惟謙君、廣岡淺子さん、土倉庄三郎君等、御會合になりまして、此の際に此の森村君の寄附金を受けて新事業に着手するに當つて、先づ本校の基金を募集せなければなるまいが、斯ういふ時局に當つて、到底望む可らざる事であるから、我々發起人が申し合せて、もう一奮發せねばならぬではないかといふ事を主張なされて、悉くこれに御賛成になつて立どころに其の議が纏つたのであります。それから此の一週間中に、私はチヨツト大阪へ行つて來ましたが、此の時局の困難な場合に、立所に六萬千六百圓といふ基金が出來た。まだもう二萬圓ばかりは出來る見込みがあるが御返事を聞く暇がない。昨夜私は遲くまで、方々を廻つて居りました。夜遲くまで廻つて、まだ其のお返事を聞きとる暇がない位である。是れは金ではありませぬ。今度の寄附金は一回の寄附金の出來た事と大に違つて居る。今度の基金の出來ましたのは本校の基礎となるべきものであるが之は單り、金の力で無い、金と共に最貴き所の精神の力が加はつて居るのであります。此の日に書記の務をして居られた本校の塘君は落涙して感激して居つた。私は其の會を終日外出して遲くなつて歸りましたが、もう待つことが出來ぬから手紙をのこして歸り掛けて居つた。其の手紙に其の感情が現はれて居る。私に逢うて實に涙を流して居る。男が泣くと云ふ事は滅多に無い、非常に感じたのである。その手紙に是は實に宗教のリバイバルのやうであつたと申してあつた。大隈伯爵は其の後西園寺侯爵のことを評されて西園寺侯が實に本校の爲に初めから熱心にして常に變られぬことは驚歎の外はない、否予は敬服して居ると云ふことを仰せられた。大隈伯爵、廣岡夫人、土倉庄三郎君等の熱心に本校の爲に盡されるといふことは、又其の日に大喜びをなされたといふことは申す必要はない。又三井三郎助君は平素から種々の助力を與へて下さつて居りましたが、此の日にも實に言葉に現はされない誠に感ずべき決心を表されたのである。是も今日發表するところの自由を有せぬのであります。兎も角も此の委員

會は心から出で、今日の六萬圓の基金は心から出たところの寄附金であります。是は斯う云ふ時局に咄嗟の間に出來た金でありますから、チヨツト此處に極まつて居る丈けの金額を御報告致しませう。

第一が澁澤さんは五千圓寄附され第一回の三千圓を合せて都合八千圓、西園寺侯爵は五百圓、第一回が五百圓都合千圓を出されたのであります。大隈伯爵は千圓、前が二千圓で都合三千圓寄附された。兒島惟謙君が三百圓是も前に三百圓都合六百圓、廣岡淺子君が三千圓是は前に五千圓都合八千圓寄附された。岡部子爵千圓、令夫人三百圓、前に五百圓子爵、奥さんが二百圓都合で二千圓、吉村鐵之助君千圓、第一回が五百圓、山本達雄君五百圓、第一回が千圓奥さんが三百圓都合千八百圓、細川侯爵千圓、服部金太郎君五百圓、第一回五百圓都合千圓、住友吉左衞門君五千圓、第一回一萬圓合計一萬五千圓寄附されまして、此の住友吉左衞門君は五千圓寄附されると同時に此の本校將來の爲に重大な最大切な約束をして下すつた。是は今日發表することは出來ませぬ。岩倉公爵千圓、前に千圓都合二千圓、村井吉兵衞君三千圓、第一回に五千圓都合八千圓、岩崎彌之助男一萬圓、第一回に一萬圓、都合二萬圓、岩崎久彌男は前に五千圓寄附されたが今回も應分の寄附するといふ事は御承諾になつて居るが金額は未だ定らぬ。又一萬五千圓某氏、是は今其の名前は御報告申しませんが、會計督監の御許までは、分つて居ります。伊達公爵一千圓、第一回が五百圓、都合一千五百圓、前田侯爵一千圓、第一回二千圓都合三千圓、秋元子爵二百五十圓、前回が五百圓で七百五十圓、古河潤吉君五千圓、第一回三千五百圓出されました。それから此處に英國のデヴイスといふ紳士が參つて居られます。此の頃漫遊をなさつて丁度此の問委員會のあつた時に此處を參觀されて居りました所で創立委員會の其の日の有樣を御聞きになつて深く感ぜられたと見えて金五百圓を御寄附になつた。夫で私は今度の事につきまして、大變感ずる事がありますが、一々申すといふ時がない、無いけれども、一例を擧げて見まするとと、内海男爵は今非常な御病氣で苦しんで居られる。私が訪ねた時に日本部屋に居つて、火鉢が二つも三つも据えてありまして、部屋は密閉してある、大變に空氣が惡い、あなたの御病氣で何故斯ういふ部屋に居るかストーブを置いて寢臺でも御買ひになつてもつと新鮮の空氣が吸へるやうにせられてはどうであるかといふた處が、いや私も氣がつかぬではないが、今日我邦は毎日何千といふ人が討死をして居るではないか、それに病氣といへども、さういふことにどうも手を附ける氣がしないと云うと居られた。そして私は森村

君の美擧を話した時に落涙して實に國家の爲に謝すべきことである。私が健康であつたならば行つて御禮を云ふ筈だが、どうも仕方がない、どうぞ逢うたら宜しくいうて呉れと。殆んど自分の事でもして貰つたかのやうに眞に國家の爲になる斯ういふ人がよく起つたというて、實に内海君は感謝せられた。内海君に相談した時に、御前の目的はよい、又方法もよい、到底お前の事業は官立學校ぢやいかない。それはよいが到底三十萬圓といふ金は出來ないであらうといふは、我邦の家族制度がいけない。子孫に金を遺す主義だから到底金持が公共の爲に金を投ずることは出來ないことである。然るに今日斯の如く一私人にして資を投ずる所の人が起つたか、國を思ふ人が起つたかといつて肝に徹したやうに見えたのです。さういふ風に自分の病氣でストーブを置かぬやうな病人が今日の會があるにつきて手紙をよこされました。これはどういふ志で皆さんが寄附をなすつたかといふ事をあなた方にお知らせする爲に、讀みませう。

内海男爵の書翰

拜啓愈御清健校務に御盡瘁之段欣賀の至りに御座候。陳れば今回森村豊明會より教育學部新設の爲巨額の資金御寄附に相成候由、眞に感佩の至りに存候、今日本邦非常の時局に方り、此の如く遠大なる事業を經營するは、獨り本校の幸慶に止らず又實に帝國の光榮にして、永く國民の記憶すべき盛事と存候。願くば今後益本校の精神を發揮して寄附者の希望に酬い、延いては國家の進運に貢献せらるゝ様、御奮勵有之度、老生も乍些少金五百圓を寄附し此の盛擧に對して祝意を表し候。尚本日の創立委員會に出席して微衷を披瀝し、且つ森村君へも親しく謝意申述度と存候得共、病痾の爲引籠中にて不果其意貴君より可然御傳聲被下度賴入候。先は右御斷旁得貴意候匆々

敬具

夫で先づ今度六萬一千圓餘の基金が出來ました。前に、皇后陛下より二千圓御下賜金がありまして、是は第一銀行に預けて其の利子も積んであります。それを種として第二に森村君より三萬圓基金を寄附され、今度の六萬圓をよせると九萬三千圓ばかりの基金が出來る譯になる、尚今後もう二萬圓ばかり出來る見込みがありますから、多分本校に十萬圓の基金を持つて其の基礎の上に是れから立つて行くといふ事は遠からず出來る事であらうと思ふ。私はこれを報ずるに當つて色々其の寄附金の出た所の諸君の精神をなるべくあなた方に御紹介したいと思ふたが、是れは決して金ではない、金を出すといふ事は、唯構はずに出せる譯のものではない。金を出すといふ事は、卽ち心を出す、神精を捧げるといふ事である。それで私は此の時に當つて

あなた方に活きたる所の教訓を印して置きたいと考へる、其の時がありませぬから他の時を期して、此の際は唯其の考ふべき箇條だけを此所に擧げて置きませう。

櫻楓會の使命

第一は本校の主義方針として居る所の事實が段々と實現されて居るといふことを考へなければならぬ。卽ち我が校は社會、或は家庭から孤立して居るものではない、社會と結び附き國家と結び附き家庭と聯絡して居る所のものである。本校の創立委員諸君の中には、政治家もあれば、實業家もあり、役人もあり、種々樣々なる違つた方面の人が斯くまで此の學校を起し、此の學校と共に獨り金を出す、ではなくして心までも出して働いて居られるといふ事は如何なるものであるか。如何に我々は社會に對して、國家に對して、家庭に對して、盡すべき義務を負うて居るものであるかといふ事を考へなければならない。決して學校といふものは學校の爲に、立つて居るのではない、國家の爲に社會の爲に、家庭の爲に出來て居るのである。

第二は斯ふいふ折に於きまして、我校風を養ひ、愛國心、愛校心、犧牲の精神を養ふ、先日の會に感涙を流したる事であるが、大隈伯は進歩黨の首領である、西園寺侯爵は政友會の首領である、久保田君は內閣の閣員である、澁澤男は實業家である。種々樣々な人が、或は意見を異にして居る人々が、此の學校の爲に、教育の爲に、少しの私を挾むことなく、斯の如く熱心に、斯の如く一致共同が出來るといふことは、不思議な現象である、何故に今日の社會に、斯の如く美しい團體が成立つて居るのであるかと云ふ事を察して見れば、少しも怪しむに足らない。斯ういふ人々の中に又本校職員となり生徒となつて居るものゝ中に野心を挾み、私心の爲動くといふ人がない。常に思ふ所は國家の爲、學校の爲、人の爲、私でない、野心といふものを以て働かない、是が誠に美はしい眞の團結を作る所以であります。益々かう云ふ折に、此の校風を養ひ立てなければならぬと思ふ。

第三は私はあなた方に責任を感ぜしめたいと思ふ。森村君は私はあなた方の立案に贊成して此の金を出すが、若しもあなたが死んだ時にはどうなるであろう。他の人が替つてやる時に、最早其の教育主義が變つてしまふという樣な事が起るまいか、それが心配じやがどうであらうかといふ御話であります。私は假令、私がこれから三十年生きても、百年生きても、私の力には及ばぬ事である。併し私の學校は斯の如く一人が死んだとか、斃れたとかいふ事によつて、此の學校といふものが、盛衰

を來すやうな仕組になつて居らない、其の時に私は此の本校の生命である所の櫻楓會の此の圖面（口絵参照）を御目にかけた。是れに教育部といふ大きな枝があり、家庭部といふ枝があり、社會部といふ枝がある。此處に大きな幹の本部といふものがある。それから澤山の根があるのである。つまり此の學校といふものは、櫻楓會という處の大きな根をもつて立つてゐるのである。又櫻楓會といふものはこの學校に根を保つてゐるものである。この櫻楓會といふものは決して一人の人が死んだから、全體に影響するといふやうなものではないのである。即ち假令個人が死にましても、其の人の精神其の人の働らき其の人の目的は櫻楓會といふものの身體となり、生命となつて、永久に成長するものである。此の度森村君が資金を投げられたといふ事は、即ち此の櫻楓會の身體を養ひ立てるものである。然るに此の金を出された森村君の犧牲的精神は、國家を思ふ所の一念、森村君が五十年間に養ひ來された經濟的品性は、此の櫻楓會の品性となり、櫻楓會の魂となつて、假令森村君が死んでも、限りなく此の櫻楓會の大きな木と共に身體も精神も發達して行くものである。決して一人の人が死んだからそれで事業が潰れてしまふ、或は精神が變つてしまふといふものではない。故に我々は全力を注いで櫻楓會といふ所の身體又精神を養ひ立てゝ居るのでありますといふ事を申したのです。實に櫻楓會はあなた方の各自に働らき、本校の爲に盡せる教職員、及び本校の創立委員、發起人は悉く此の活きた所の、其の團體の中に生命を共にして居る。故に此の精神は、此の目的は、決して部分の變化に依つて變化すべきものではないと私は信ずる。併しながら此の教育の目的を達するといふ事は、容易な事ではない、如何となれば此の革新をやるといふ事は數十年間の我邦の習慣風俗を改めるといふ事である。我々の長い間の遺傳的弊害を改めるといふ事は、容易に出來るものではない。私は先日も森村君に話した。我邦が今度の戰爭に假令負ける事があつても國は滅びない。萬一將來に於て我日本が滅びることがあるならばこれは、外敵に依つて滅ぼされたのでなくして内患から滅びたのである。私は今度の案に五大戰爭といふ區別を立てた。其の終りに戰ふべき内の敵を征服する戰爭が最困難なことである、旅順の要塞を落すの類ではない。其の大體を思へば實に我々の責任は重いのであります。

今日はあなた方に其の責任を考へて貰つて、此の寄附金を受けて、此の新事業に着手する所の責任は、我々一同が皆々負うて起つといふ所の決心を促したいと切望いたすのであります。

（「家庭週報」第十四號）明治三十七年十二月

この幼童

最もうらゝかなる元旦、しかも我陸海軍、大勝利の時に際せるこの元旦に當り、謹んで我　天皇陛下の萬歳を祈り誠意誠心を以て諸子、日本女子大學校を祝せんとす、卽ち諸子をして、一團の日本女子大學校とし、日本女子大學校を一つの人格としてこの希望の朝に於て祝せんと欲するなり。

日本女子大學校は、未だ滿三年と二期の幼童なり。然れども、その發育の狀態を見れば、身心ともに健全にして、將來偉大なる人物となるの相を備へたり。而して今やこの未曾有の大時機に當りて、一つの齡を重ぬる事を心より喜び、また將來に於て大に望を屬せんとするなり。この幼き童の性質如何といふに所謂 good nature 善良にして、且つその身體すこやかに教育家のいふ種よろしき方なるは、余が今日この校に對して安んずる所なり。然れどもいかに善良なる性質健全なる身體なればとて、無爲にして決して成長、發達するものにあらざるなり。如何にしてこれを導くの方針をとるべきかは、最も考究すべき問題にして、この問題を定めんと欲せば、先づその性質を熟知せざるべからざるなり。故に余は、過ぐる三十七年に於て、極めて注意して、その性質を觀察し、終りに至りて一つの判決を下せり。故にこゝにその現在の生立を述べ、將來に如何なる事を望むかを述べ、諸子の自任心を强ふし、方針を定むる參考に供せんとす。

（一）この幼童の體質は如何

この幼童の體質は健康にして、强大なり、見よ日本女子大學校の、身體ともいふべき經濟上の狀態を考ふれば、年々歳々、よく成長發達し、設備を增加し、改良を施し、僅かの日月に比すれば、實に驚くべき成長をなし、隨分、大いなる身體となりつゝあり。こは本校を時々訪はるゝ人々がいつも驚嘆、措かざる所なり。卽ち本校の身體は高く延び、肉も次第に豐かならんとす。この成長肥滿は決して病的ならずして、健康より來る平均發達なる事は疑ひなき所なり、獨りこれ等の幹枝の生長發達のみにあらずして、これを支ふる根を地中に深くし、また新しき根をもつに至れる事は、云はずして明らかならん。こは學校の身體なる、校舍、設備等、人工的なもののみを云ふにあらずして、諸子の身體も亦然り。卽ち其の健康の增進は實に著しき進歩を來せるも、今細かき統計をいふの暇なし。然れども、始めて飛鳥山に運動會を開きし三年前の諸子の健康は如何、或は

眩暈し、或は卒倒したるもの少からざりき。今日の運動會に於ては如何、或は徹夜、また徹夜を加ふるものあるも、毫も卒倒者なきのみか、眩暈する者をだに聞かざるなり。

其の他、以前に非常に多かりし、器管の病、神經衰弱等も、この頃は一向に聞かず。過日森村氏は式上に列したる諸子を見て、恰も林檎を列べたる如かりきとて、其の强壯なる身體を稱へられたり、人はいさ、余が美の標準より云へば、林檎色なる顏！　燃ゆるが如き紅顏はその健全强壯を證するものにして、無上の美と稱ふべきなり。樺山大將も余を見る度毎に、諸子の姿勢、顏色をたゝへ、活動を賞せらるゝなり。これ卽ち本校幼童の健康は强大なりといふ所以なり。

この身體の健康なるとともに、成長發達する事は本校の將來、發達の上に最も大切なり。卽ち我等が望む所は、第二維新を造るに足る國民卽ち眞の文明の國家を作るに足る國民を養成するに堪ふる母親は、かくの如く丈夫なるべし。多くの子供を養育し、日夜艱難、辛苦にあひ、逆境を忍びて、しかも勇氣充ち〳〵たる强壯たる身體をもつをうるの人たるべし。男子はまた世界の競爭場裏に堪ふるの人たるべし。女子も亦眞の文明を作るに堪ふるの人たらざれば、我等の望は、終に空望となり終らざるべからざるなり。實に本校の健康や室に生ひたつ草木の如からず、風雨にさらされ、霜雪にあひ、酷熱をうくるも、決して萎微せず、山に堪へ、川に堪ふるの身體となるべし。かく身體を鍛へ、力を養ふ事は決して他人に任せたればとて、能ふべきものにあらずして、自ら知りて、自ら行ふにあり。卽ち Self-control Self-suggestion によるにあり。われ等の身體はその面の如く各異る方面あるを以て、その健康を增すも亦、千種萬別の方法によるべし。これ衛生に關する一般の原理を知れりとも、その健康を保ちえられぬ所以にして、たゞ自らの經驗にしくものなきなり、されば幼き時より、自ら、自らの身體を支配し、自ら、自らの心を支配するに適する樣、務めざるべからず。もしこの心得無き時は、今は健康なるべきも、やがて一朝つまづけば、忽ちその身體衰へ、その身を始め、家族、さては子孫に至る迄不幸に陷らざるべからざるなり。この日本女子大學校なる幼童は、幸にして今も健全なれども、益々、自ら活動し、經驗し、自ら學んで、自ら保護し增進する方針をとらざるべからず。

（二）この幼童の意志は如何

この幼童は意志堅固にして、堅忍不拔の精神に富めり。本校は如何なる時に生れ、如何なる境遇に成長せしかといふに、誠

に冬寒き、風雨の劇しき時候に生れいで、最も困難なる境遇に育ちたる兒童なり。漸しく本校生れんとして其の主義を發表するや、恰も日清戰爭後にして、經濟界の困難、社會の反激等、種々の逆風にあひ、多くの疑問、批難の中に本校を開設するに至れり。ただ勇氣、たゞ熱誠とを以て、この逆境に抵抗して、今や日露戰爭に際し、未曾有の經濟切迫の際にも拘らず、本校の基礎は改まり、第二の擴張の必要に應じて、當にその事業に着手せんとするに至れり。かく本校は常に困難なる時に立ち、事をなすをえたりしを思へば順風に向ふの曉は蓋し、非常なる速度を以て、進歩、發達するに至るべし。

次に滿三歲と二期なるこの幼童は、早くも一つの確信を保ち、天職をさとり、將來に於て爲し遂ぐべき一つの目的を確定せり。而して己の名譽、安樂、便利を問わず、一向、國の爲、人の爲、人道の爲、己が天職をして、如何なる困難に逢ふも、成就せずは止まざるの氣慨をもてり。三歲兒の魂、百迄。この幼き童の心に描ける理想、確信は、百年もつゞきて命となり、かれの生涯に於て、必ず一事業をなしとぐるに足るべき人物ならんと豫想するなり。

然れども、意志、强ければ、其の教育に大いに注意を要すべき點あり。卽ちもし一歩誤れば偏屈となり頑迷となり、獨斷的の人となるの恐れあり、故に今この幼童を教育するに當りても、決して一方に偏せず、圓滿に成長發達せしむべきなり。これ意志を養ふとともに、謙遜、柔和、忍耐といふ美德を同時に養ふべきなり。己の信じる所はあく迄貫き、天職をして果さゞれば止まざるの決心を保たしむべし。今日世界の文明を障害するは果して何なるぞ。臆病！　これなり。卽ち己の確信を貫き、これを行ふ勇氣に乏し。世界の文明國を以て誇る、英、獨を始め、その他歐洲の各國にして、眞面目に己が確信を行ふものありや。古陋なる風俗習慣に厭倒せられ、宗教に迷信し、己の確信、信仰に反せる事を甘んじて行へるなり。これに反し、獨り米國のみは、手械、足械よりまぬかれて、比較的自由に活動するをえたるを以て、十九世紀に於て、非常なる進歩發達を遂げしなり。我國は明治の維新に於て、制度、文物、宗教等、凡て破壞せり。これ我國維新の動機を作れるものといふべし。只悲しむべき事には、破壞せるこれ等に、代るべきもの未だ建設せられざる事なり。然れども今や我國は、外國に比して、舊習に束縛せらるゝの困難を脫し、思想の自由、信仰の自由、行動の自由あり。勿論、未だ充分とは云ひがたく、殊に女子に於ては猶更なりと雖も、今こそ、我國に於いては、正直にして、眞面目に、己の確信を貫き、己の目的を達すべき人物、必要な

り。この時に當り幸にも意志堅固にして、確信を保ち、天職を果さんの氣慨ある一幼童をえたるは、國家の爲賀すべき極みならずや。今後ます〳〵其の長所を發展せしめ圓滿なる性格たらしむべきなり。

（三）この幼童の知力はいかに

我國、三千年來の遺傳なる多くの弊習の中に生れたるを以て、この幼童は未だ滿足なる發達をとげず、されど將來發達すべき伏能をもてり、この第四回の新年を迎ふるに際し、來らんとする世紀に必要なる知力の發達すべき伏能をもてるは誠に喜ぶべき事なり。こは過ぐる三十七年、諸子の催したる研究會、文學會、春秋二期の運動會、寮舍の土曜會に於て確かに表はれし所なり。また櫻楓會の開設せられたる事業も、未だ幼稚なれども、研究力、創始力、工夫力の傾向あり。淺薄にして、技術足らず、子供らしき中にも、自然、活動力と、向上心とをたもち、自ら爲すの氣慨あり、今後と雖もこれが成長、發達を計るに當り、餘りに干渉し、手をとるはよろしからず、自動的に活動して、自らの工夫、考に任せ、己の力の限りに於て、能ふだけの範圍に働かしむべし。されば事を研究せしむるにも、空想に走らず、精神なきものをせず、心に熱心おこりたる問題をとりて研究せしむべし。例へばこの度設置せんとする教育部には、類例なき幼稚園、小學校の設備あり。さればこれに要する人工的地理、卽ちガーデン、建築、管理、教授法、道具等、凡て教育部にある人々に任せて、工夫せしめ、實地の研究をなさしめんとす。また各寮監は、寮舍改良を行はんが爲、其の衣食住、運動、文藝等を研究せんとしつゝあり。かく最も我に關係あり、興味ある問題より始めて研究するに至らんには、其の知力は必ずや將來に於て、發達を見るに至るべし。

（四）この幼童の情緒は如何

この幼童の情緒は、極めて柔和、從順にして、同情に富みたる可憐のものなり。國の爲、人の爲等いふ話をきけば、よく注意し、深く感じ、時には同情の涙を流すなり。こは誠に人道に厚き性質といふべし、決して冷淡、死せるが如くあらずして、高尙なる情緒は熱し、また燃ゆるなり。こは昨年の今頃行はれし櫻楓會を某新紙が宗教のリバイバルと冷評したるも、其の時の熱誠の如き或は昨年暮に行はれし委員會の如き、又十五日發表式の如き、たしかに宗教のリバイバルの如き情緒を發揮せるなり。今日我國の男子が國家に一命を捧ぐるを感じ、女子と雖も、必要の爲には喜びて犧牲となりて働かんとする感情は、昨

年の今頃に於て盛に起れり。獨りかゝる抱負を抱くのみならず、力の限り、陽に、陰に、軍國の爲に盡し、人の爲、寮の爲、學校の爲、級の爲に、暖かき同情を有するの念は、たしかに成長發達せり。この同情は人間として、殊に婦人として必要にして、この高尚なる情緒は、たしかにこの幼童の備ふる所なり。

以上の如く觀察すればこの幼童は身體健全に、意志强固にして、知力鋭敏に、人情に最も富みたるものなり。決して病身にも不具者にもあらざれば特別教育を施すの必要なし。今や文明國と誇る國になほ宿弊ある時に當り、後れて文明に走せたる我國が、最も進みたる方法によりて教育改新をなすに堪ふべき、かゝる圓滿なる一女兒を得たるは、國家の爲よろこばしき極みといふべし。諸子よ、願はくば自重、自愛、自奮の決心を以て、明治三十八年を迎へ、その元旦に當りて己の責任を考へ、また今年に於て成就すべき計畫を定め明くる朝より、着々その事始めをなすべきなり。

（「家庭週報」第十五號・元旦祝賀式）明治三十八年一月

我等が捧ぐべき月桂冠

來賓諸君、今日は生徒の希望を御容れ下さいまして御多忙の所を態々御來會下されたことを深く感謝いたします、私は今日の本校始業式に際しまして祝捷會を開くに至りました譯を一言申し上げたいと考へます。

昨年正月の二日、本校の創立委員近衞公爵が薨去になりました、丁度其の頃に當りまして日露の關係は危險に迫つて參りました。問も無く同月の十三日に我邦政府は最後の通版を露西亞に向つて發するに至りました。さうして二月九日に至りまして我艦隊は、仁川沖に於て露西亞の軍艦二隻を擊沈し、續いて旅順口に於ては三隻の露艦を沈沒せしむるといふやうなことが起つて參りました。爾來我國の最も武烈なる陸海軍は殆ど一日の休みなく、奮鬪又奮鬪、遂に其の精神巖をも貫き本年の正月二日、丁度近衞公爵の一年祭の日に當りまして旅順が陷落したといふ大快報に接したのであります。引續いて宮中の御慶事を承り我々は實に欣喜の情を禁ずることが出來なかつたのであります。故に我校に於きましても此の際祝賀の會を催したいといふ聲は期せずして諸處に起りましたが丁度其の當時は休業中であつて、寮生は半ば歸國して居り通學生は無論休んで居ると云ふことでありました故に、殘つてゐる寮生が申し合せて此の始業式の日に當つて祝賀の意を表したいといふ相談を極めましたの

で御座います。それから其の方法に就て、寮監並に主婦等が會合して色々熟議の末に、我校の御隣であるところの小石川區並に高田村の戰死者の御遺族を御招待申して何か我々の同情と感謝の意を現す文藝會を催して聊か慰籍の意を表し且つ之を本校の發刊する家庭週報に載せまして陸海軍の軍人諸君に御贈り申すことに議一決いたしまして、寮監達は生徒を連れて此の小石川區並に高田村の戰死者の御遺族を訪問して、今日どうか御出でになるやようにといふ事を御案内を致しました所が、皆樣大變御喜びで、さう云ふ御志であるならば喜んで出たいといふ御意向でありましたからして、愈々今日此の式を開くといふ事に決定いたしました。

併し前に申し上げたやうに丁度休み中であつて殊に少し殘つた生徒達は此の學期の色々なる支度の爲に非常に多忙な際でございまして、充分なる準備を致すことが出來なかつた。併し此の門に出來て居る綠門其の他此の式場の裝飾又何か文藝をするに就きましての企、或は其の時に謳ふ歌、又御遺族の御方々に御贈り申すに就て其の品に書く所の字なり畫なり總て生徒の考と生徒の手を以て準備をいたしまして唯々其の志を表したいといふ精神でございます。極く手の足らぬ時に急いで支度をしたことであります故誠に不充分でございます。其の段はどうか御宥しを願ひたいと思ふのであります。

さて此の千百餘名の心を以て、同情の手を以て編んで拵へました所の月桂冠は誰方に捧ぐべきものでありませうか。無論全軍決死隊であるところの此の戰傷者に向つて之を捧ぐべきものである。併し此の生徒の志を戰勝者を代表して御受取り下さる方は誰方であらうか、私の考に依れば我軍の先驅者となつて我邦の爲に生命を献げて今日の士氣を振はせて遂に名譽の戰死を遂げられた此の戰死者の靈に向つて之を捧ぐべきものであらうと考へるのであります。此の精神が今日遺族の方々を御招ぎして此の祝捷會を開いた精神であります。

先日寮監達が訪問しました小石川區の戰死者の方が合計三十名であります。それから高田村の戰死者が二名、さうして本校生徒並に教職員の父兄が八名であります。其の中で少將が一名、陸海軍の大佐が三名、陸軍少佐二名、中尉四名、少尉十一名、騎兵一等卒十名、歩兵一等卒十一名、歩兵二等卒二名、歩兵伍長二名、さうして旅順で戰死された方が一番多いのであります。總計で二十二名、其の次が遼陽で四名、南山で戰死された人が三名、常陸丸で戰死された人が三名、常陸丸で戰死された人が三名、其の外七名はチヨツと聞き洩したのであります。少將と申しますのは本校生徒の武島シゲといふ人の嚴父なる山

本少將であります。是は新聞で御承知でありませうが始めに負傷なすつたけれ共、同僚の留めるのも聽かずして益々前進して遂に戰死されたのであります。又今度寮監等が訪問いたしまして色々其の戰死された時の模樣又御家族の御事情等を詳しく聞いて參りました。是は本校生徒皆喜んで聽かんとするところでありますが、唯今時がありませぬから一々御話することは出來ない、けれ共其の中の一大佐は閉塞隊に加はり其の後南山の役に奮戰して最後に彈に中つて仆れられた人であります。決死隊は悉く決死隊であるが中にも特別の任務に就かれて遂に戰死をせられた人もあります。誠に感ずべき美談が澤山にありますが之を一々こゝに御話することは出來ません。又其の家族は色々な種類に分類することが出來ますが其の大多數は妻子を殘されて御出でになつたのである。而して其の子供方は多くは幼少なる方であります。それから此の戰死者の中には華族の方もあります。即ち此の御隣である細川侯爵の御實弟で長岡家を御繼ぎになつて居りました長岡護全少尉、遼陽にて非常に奮闘の末遂に戰死を遂げられたのであります。本校の關係者だけは人數が少うございますからチヨツと其の名前を讀みます。今申しました細川侯爵の御實弟、本校の校醫前田さんの御令弟高村步兵少尉、造花の教授の金子支枝君の御令弟、中尉であつたと思ひます。それから武島さんのお父さん山本少將、酒井輝子さんの御父さんの酒井陸軍砲兵大佐であります。此の方は非常に砲術に熟練して御出でになつて我軍に取つては非常な大切な御方であつた。大野ひで子さんの伯父さん大内陸軍步兵大佐、相原アヤ子さんの御兄さん相原少尉、此の方の御父さんも今戰地に御出でになる。私は御父さんから此の頃アヤ子さんに贈られた手紙を拜見いたしまして、軍人が如何に自分の家族や子供の事を考へて居られるかといふ事を察することが出來ます。それから竹下ウメ子さんの御兄さん竹下少尉、本校の關係者の戰死者は悉く將校でありまして其の數が今申した樣に八名である、此の中に私はモウ一人の名譽の戰死者を加へたいと考へる。それは誰方であるかと申すと今度の日露戰爭に於て殆ど第一の先驅者である即ち此の日露戰爭の動機を惹起したところの義士である。而も一番先頭に立つて戰死を遂げた方である。けれ共今日其の方の戰死は餘り表面に現れずして隱れた所に於ての戰闘であつたからこそ多くの人が氣附かずして居るのでありますが、我々日本國民は今度の戰捷に就て斯くの如き人をも記憶すべきものであらうと感ずるのである。其の方は誰であるか、即ち本校の創立に最も力を致された近衞公爵であります。私は一言此の近衞公爵の功績に就て御話いたして我々の感謝の意を表したいと

思ふのであります。過ぐる北清事變の前後よりいたしまして東洋の形勢漸く不穩の狀を現しますや、此の近衞公爵は早くも日露の關係に就て日夜憂慮をされて居られまして、最も早く此の日露の問の危機を見出され、一日遲れゝば一日を危ふするといふ事を確信して居られたのである。之が爲に其の貴顯の身を以て少しも勞苦を厭はれずして或は滿洲の野を跋涉し或は北海道の野を漫遊されて、益々必要なる材料を蒐集し、我國論を喚起するに努められた。又は其の動機より愛國婦人會の創立を助け、或は國民同盟會を起し多くの有志者を鼓舞して、或時は多くの人からして、壯士の親方である、近衞は氣狂ひであるといふやうな讒謗を受けられるに至つたけれ共少しも意に介せずして、唯々どうか我邦の爲に國民をして眼を覺まさせたいといふ所の熱心を以て活動なされたのである。而して公爵の熱心は遂に多くの人を感動せしめ、或は七博士の意見書といふやうな物が現れて益々國論を喚起いたしまして、遂に昨年の今頃に至つては殆ど國論一致の狀態を呈するやうに至つたのである。其の間近衞公爵は一日として心を休められたことは無い、病に侵されても足の立つ間は病床に臥すことは出來なかつた、病床に臥してからも日夜念頭を離れなかつたものは此の日露の關係である。モウ夢幻となつて分らない時にも始終此の問題を口に唱へられて遂に薨去になつたのであります。それで私共は此の公爵の死は國家の爲に此の日露の戰爭の動機を起す爲に戰はれて眞先に進んで討死をなされた第一に數ふべき所の戰死者と申しても敢て差支ないといふ事を私は其の時深く感じたのである。故に私は此の事を委員達に話して今日御遺族を御招ぎするといふ事になりますとどうしても近衞公爵を第一に之に御招待申し上げなければならぬといふことを申した所が、委員等も皆之に同意したのであります。故近衞公爵御夫人も喜んで今日御出でになりたいのでありましたが其の時に色々承つた御事情に依つて今日御出でになることが出來ないので、此の樣な御手紙が來ました。

拜啓昨日は態々御光駕に與り傷入候其際御示の明九日會合には內情御面語致候次第にて乍遺憾參會致兼候に付御斷迄一書得貴意候敬具

一月八日　　近衞貞子

日本女子大學校長成瀨仁藏殿

誠に遺憾でありますが、併しながら近衞公爵の御實弟の津輕英麿といふ御方が今日御出で下さいましたから誠に私共は光榮に存ずるのであります。それで此の今數へました所の戰死の方々、之に近衞公爵を加へまして丁度其の人數は四十名であり

ます。此の四十名の義烈なる魂に對して我々の同情と感謝と尊敬の心を以て編みました此の月桂冠を捧げたいといふのが今日我々が此の堂に會合したところの精神であります。が唯此の多くの犧牲、我邦の爲に生命を献げられた所の恩人に向つて、我々の感謝する意は之を以て足れりとするものであらうかといふことを此の際に顧みなければなりませぬ。

私は今日の此の祝捷會を開いて又國民が全國祝捷會を開いて感謝の意を表し、又此の月桂冠を勝利者に向つて呈するのみに於て我々の義務は決して盡されたものでは無い、又之を以て此の人々の靈を御慰め申すと云ふ譯にはいかないと考へるのであります。如何となれば此の人々は唯々此の國民の與へるところの其の名譽の爲にのみ戰死されたのでは無いのである。近衞公爵にしても名譽といふことを更に想ひ起されずして御永眠になつたことゝ考へる、此の人々が討死をする時に遺言したいと思うた事は何であるか、我々國民が表彰する所の名譽のみではない。我々生き殘つて居る遺族者は彼等の畢生の目的として、志として日夜心配をして日夜奮激して戰つたところの其の目的、其の志を承け繼いで、其の目的を達せざれば已まざるの精神と、決心を現して、初めて此の戰死者の靈を慰むるに足ると思ふのであります。而して此の人々の志として居らるゝ所は何であつたか、卽ち我邦が終局の勝利を得るといふ事であつた、故に若し此の旅順の陷落を聞かれ、旅順艦隊の全滅を見られ、遼陽に於る大戰爭を知ることが出來たならば迚も此の戰死者達の喜は我々の喜に比すべきものでは無からうと思ふのであります。併しながら我國民の大決戰は決して斯う云ふ干戈の戰のみでは無いといふことは屢々我々の唱へた所であります、我々は將來五大戰爭を五十年の間續けなければなりませぬ（五大戰爭の解は本稿末尾參照）どうしても今度我邦の開いた戰爭は唯々露西亞に勝つただけでは決して終局の戰捷を得ることは出來ない、まだ其の外に四つ程の大きな戰を續けなければならぬ。さうして最後に於て勝利を得た時が卽ち我々の勝利である。其所まで奮鬪して遂に終局の勝利を得ると云ふのが此の戰死者の決心であります。此の志を繼いで進むのが我々が此の戰死者に對して酬ゆる所以であらうと考へるのであります。第二に此の戰死者が臨終の時に氣に懸つたことは何でございませうか、申す迄も無い、是は子孫の教育といふことであつた。楠正成は七度生れて敵を滅ぼすと云つて居る。是は宗教の觀念からも出たのでありませうが、假令自らは今戰死することがあつても、必ず其の子孫が又我同志の人が此の志を繼いで將來に於ては必ず勝利を占むるものであるといふ所の確信である。此の確信を以て

湊川で仆れたが果して其の精神といふものは七度ならず復活して多くの子孫に現れ多くの同志の人の精神に現れて遂に維新の際に於て我邦をして王政復古の大事業を成就せしめたものである。今日日露戰爭に勝つところの精神も矢張り楠正成や、新田義貞の如き愛國者の精神の復活であると信じても宜しい。是が卽ち國の爲に、身を献げるところの諸士の精神である。唯々自分の子孫の教育の爲といふばかりではない、どうか我子孫をしてどうか我國民をして我々の志を繼がしめて、此の偉業を成就したいといふことに外ならぬのである。故に我々遺族が此の戰死者に對して酬ゆる所以は我子孫の教育を重んずることにある。先日近衞公爵の御夫人に御目に懸りました時の御話に一番心に掛けて居られるところの事柄は其の子孫の御教育である。「若し公爵が存命して居たならば、此の自分の子供も矢張り親に連れられて方々に出歩く、又色々の人が來往するにつけては自分がえらいのでは無い、是は親のえらいのであるといふことが分らず、自らえらい者の如く考へて遂には怠りを生ずるといふ恐れがあるが、併しながら親に先立たれたことは誠に悲しむべきことであるが、教育に取つては非常に有力な感化である。又常に言ひ聞かせて居るのに、御前は御父さん以上にならなければならぬ、御父さん位の人物になつた所がそれは當然である、子たる者は親よりも少し進まなければならぬ義務がある、御父さんよりえらい者になると思うても或は御父さんの半分にも達しないかも知れない。故に志は大きくせねばならないと常に言ひ聞かせて居るが、子供の事であるからまだ能く悟ることが出來ないが、併しながら昨年の暮頃になりまして、大分さう云ふ事が分つて來たやうで誠に自分は喜ぶ」、といふやうな御話がありました。是は誠に感ずべき御話である。此の御夫人は實に公爵の御精神を能く受け繼いで御出でになる、その御精神を以て御子さん方を能く御教育になつて居るといふ事を聞いて私は誠に喜んだ次第であります。私も六つの時に母親を喪ひ、十四歳の時に父親を喪ひましたが誠に是は生涯忘れる事の出來ない悲しみであります。併しながら此の悲しみは如何に自分を奮起せしめたか分らない、此の不幸が、如何に親の志を繼がなければならない、又自立しなければならぬ、人に賴つてはならないといふ獨立心を鼓舞したかといふ事を記憶してゐる。私は實に御遺族に深い同情を持つて居りますが、併し今近衞公爵夫人の御話になつた如き御決心を以て子供を御教育になるならば私は確かに親の志を繼ぎ尙親に優るところの子供になるといふ動機を御與へになることは難しい事では無い。實に此の御遺族が此の戰死者の靈に對して御盡しになるところの一番大切なる

本務は私は其の子孫を能く御教育になるといふことである、又我々總べてが斯う云ふ際に於て自ら任ずべきことは其の精神であると考へるのであります。

それからモウ一言私は申して終りたいと思ふのでありますが、それは此の戰死者達の臨終に於て最も心配されたのは何でありませうか、矢張り自分の國の爲に喜んで生命を献げられたのであるけれ共、又其の國の基を成して居るところの我家、我家と言へば則ち我妻、我子、我父母、我兄弟といふことを思はずに、瞑することの出來る人はおそらくあるまいと思ひます。能く我々が口に唱へる言葉である「内顧の憂あらしむる勿れ」若し我邦の御婦人が其の夫或は父親をして或は兄弟をして内顧の憂なからしむるところの婦人でありますれば、如何に我邦の士氣は振ひ我軍の勢は加はるか分らないのである、實に此の夫を失ひ子を失ひ父を失つた所の御遺族は誠に深い御悲しみのあつたといふことは私共の察する所である、是は人情であります。又人間たるものゝあるべき事である、又爲すべき同情でありますから敢て深く悲しみ痛く御憂へになるといふことを私共は少しも無理とは考へないけれ共、若しも其の悲哀の爲に妻たる者或は娘たる者が失望落膽して自分の方向を誤り、自ら爲す所なくして子孫をして路頭に迷はしめ夫の名を汚し父の名を瀆すといふやうな事に立ち到つたならば如何でありませう。此の如き心配は敵彈に向つて少しも恐れない所の其の勇者の心には最も深く感ずるところの事である。男子をして進まんとして進むこと能はざらしむるものは何であるか、己の義務を見て其の義務の爲に進むに躊躇せしむるものは何であるか、將に死なんとして心を殘す所のものは何であるか我家であります。此の心配が心から無くなる迄は決して勇しく討死することは出來ない、或は今後商工業の戰に於て世界を跋渉して歩くといふやうな氣象が男子に起ることは出來ない。男子をして最も足絆れになり、男子の心を挫き、男子の成功を半ば以上破壞して仕舞ふものは皆婦人たり、妻たる者の自主の勇氣に乏しい事からである。今日我出征軍人が最も心に掛けられることは何であるかと言へば此の御婦人であるのです。獨り我妻、我妹、我娘ばかりでは無い、我日本の婦人といふ事である。あなた方御婦人の其の同情、其の勇氣、其の決心といふものは何處まで彼等を慰藉するところのものでありますか判らない、婦人といふ者は、誠に力の弱い涙脆い情の濃やかなもので、奈ぞ此の戰爭といふ樣な事に關することでは無いかの如く考へられるけれども、實に我日本をして誠に強くならしむるところのものは、此の眞に同情の涙を持つて居る御婦人である。我軍人の斯くの如く強かつ

たのも矢張り我日本の婦人の内顧の憂ながらしめた功に歸するのであります。今日我々が最も感謝すべきことは遺族殊に此の出征軍人をして内顧の憂なからしめ給うた御婦人に向つて、私共は最も同情の念、感謝の意を表したいと思ふのであります。又我々此の一千有餘の生徒諸子は、此の遺族方に同情を表せられると同時に、諸子の將來はどうか、其の父、其の夫、其の兄弟をして内顧の憂なからしむる所の立派な婦人になつて貰ひたいといふ事であります。今後戰をするにも、又此の商工業を發達せしむるにも、知力的戰爭に戰ふにも我軍を引起すには實に諸子の働は大いに與つて力あるのである。其の一つの事實として此の際御報告したいと思ふ事があります。それは今朝御手紙……清國駐屯軍司令部から、日本女子大學校御中として……軍事郵便が參りました、軍用の手紙が司令官から我女子大學へ來るのは不思議な事である、何か女子が此の戰に關係を持つて居るかと思つて披いて見ましたらば斯う云ふ手紙です。

別冊譯文は當國に於て發刊の獨逸新聞に掲載せる本邦婦人に關する記事の譯文に有之候本邦女子教育に關し如何に外人の目に映じつゝあるかを知るに足るべくと被存候に就ては御參考迄に御配付申上候　敬具

明治三十七年十二月三十一日

在天津　清國駐屯軍司令官
陸軍少將　仙波太郎

日本女子大學校御中

といふ獨逸の新聞に出たのを態々日本文に譯して我學校に參考の爲に寄贈された其の中に我日本女子大學校第一回の卒業式に臨んで其の有樣を見たところの記事が掲げてある。其の終りの方に斯う云ふ事が書いてある。

「……此の種の大學校の爲に日本女子の地位も漸次上進すべきや疑を容れず、日本の婦人は今や政治上のことにも注意を拂ひ、現に此の日校長と卒業生の演説中にも日露戰爭の事に說き及んで此の戰爭後に來るべき將來の時局に對し、日本婦人は如何にすべきやの問題を以て語を結べり、唱歌は日本古來よりの習慣にて殊に年の或時季には教師は問題を掲げて練習せしむるを常とせるが、此の卒業式に於ても幾曲かの歌は卒業生により唱はれ又此の式は唱歌を以て終を告げたり。

此の種の學校の設立は極東にては殆ど破天荒なり、余は信ず、此の種の學校は女子教育の中心となり獨り日本婦人のみならず全極東の婦人の爲に大いなる誘導者たるに至らんと……」

それで此の手紙を仙波少將から御多忙の際に態々之を譯して贈つて下さるといふものは如何に此の女子教育、女子といふものが世界の人目を惹いて居るかといふことを知らせる爲であり

ませう。同時に又軍人方が如何に日本女子の養成といふことに重きを置いて居るかといふ事を我々が察するに足るであらうと思ひます。

私は今日我邦の爲に死んで下さつた此の多くの靈に對して我々の感謝を捧ぐるに當り獨り感謝の意を表するだけでは足りない。我々がどうか其の人々の意志を繼いで益々子孫の教育といふものに重きを置いて、夫は外に出て戰ひ我々婦人は内を守つて内顧の憂なからしむるところの精神と行爲を以て進まなければならないと考へます。卽ち本校などは昨年から常に其の精神を以て業を勵み、又生徒は餘暇を以て或は手仕事をし或は軍人の着物を縫ひ、又は少しづゝの金を集めて繃帶を拵へて居ります。今度又義勇艦隊の計畫もありまして、此の女子の手で出來るだけの働きをして國家の爲に盡したいといふ精神を以て日頃勵んで居るのであります。

我々は斯樣な精神を以て今日此の祝賀式を開きまして其の志を軍人遺族諸君に表したいといふ心盡しでございます。是から開きます文藝會も誠に拙いのでありますがどうか精神のあるところを酌んで暫くの間どうか御慰め下さるやうに希望致します。

（註）

五大戰爭　第一は既に闘はれつゝある日露戰爭にして國運の伸暢に伴ふ砲火の戰爭なり。第二は世界的大舞臺に立ちて輸贏を列强と相爭ふべき商工業的戰爭なり。第三は知力的戰爭にして歐米列國が相競ふの國民教育の振興を計るもの實に此の戰爭に對する準備に外ならず。第四は天然を征服する戰爭にして卽ち科學應用の力を以て無限の天然力を征服し之を利用し之を使役するの選手たるべき地位を爭ふ大競爭なり。第五は國民最後の決戰にして自己と戰うて其の有ゆる惡習を革新し延いて家庭、社會、國家を革新すべき精神的社會的戰爭なり。是我日本民族が百年を期するも終局の勝利を占めさる可からざる五大戰爭なりとす。

（「家庭週報」第十六號・戰勝祝賀會）明治三十八年一月

談片

▲仕事の秩序につき必要なる個條

イ、人、各々己に屬する本務あり。

ロ、物、各々其の場所あり。

ハ、頭腦の倉庫に納むるに於ても然り。

ニ、時にも各自の受持あり。

ホ、かるが故に、多くの仕事を比較的、小なる時間になすには、一時に於て、一事をなすにあり。卽ち一つ一つ、順序を追ひ、進むにも一歩一歩、階級を昇るべし。

▲整理の方法につき注意すべき個條

イ、仕事、或は、考へ事を分類する事。

ロ、全體の組織をたつること、卽ち總合統一すること。

ハ、取捨、選擇すること、卽ち事の利害、後先要不要とを考ふべし。

▲仕事の變更につき、注意すべき個條、尤もこゝに變更といふは、調和的變更なり。

イ、吾人究竟の目的は圓滿なる發達を遂ぐるにあり。若し一方に偏するならば藝としては成功するも、人間としては完全ならず。

ロ、身體健全の爲必要なり。

病は身體の罪惡なり。この罪惡なる病は、身體全部の發達、平均を失ふより來る。

身心の健全を得るには、三の規則あり。卽ち節制、平均、全體の調和、この三の規則を守るには、吾人の動作を適宜に平均すべし、その平均に最も必要なるは、仕事を變更するにあり。

ハ、時の經濟の爲必要なり。

西洋の諺に「一錢に注意せよ、然らば一圓以上は自然に注意せらるゝに至らん」と。之と同じく時も一分を有益に用ふべし。その有益に用ふるには仕事を巧みに變更するにあり。

▲時に對する原則

イ、無意識に事物を爲し得る事は時を用ふる上に利益あり。

ロ、成る可く迅速に、又成るべく善良なる習慣をつくるべし。

ハ、時を違へざる事。

ニ、時を躊躇せざる事。

ホ、嚴正に時を守るべし。

團體的生命を養はんが爲には、こは缺くべからざる條件なり。

ヘ、時を配合する事。

ト、將來を慮る習慣。

チ、敏捷。

迅速、直ちに始むる事、延引せざる事等は、皆この中に含む。こは天性にもよるべけれど、また習慣と方法とは大いに與りて力あるものなり。

（「家庭週報」第十七號）明治三十八年二月

我校の教育方針に就て

吾人は曩に、我邦家の現狀と將來とを慮り、殊に戰後に於る百般の經營に想ひ到るごとに、默過すべからざる憂患の存するあるを感じ、「第二維新を論じて我國教育の宿弊に及ぶ」と題する一篇を公にし聊か愚衷を披瀝して識者に訴ふる所ありしが、幸にして江湖吾人と憂を同じふするの士乏しからず、深厚なる同情を寄せて吾人を激勵せらるゝ少からず感奮措く能はざるものありき、而も吾人の文辭の足らざりし爲、或は多少誤解を生ずる點なきやを慮りたりしが果せる哉、頃者某氏の評言を讀み、評者が多くの點に於て、吾人と感を同ふせるに拘らず、二三主要の點に於て多少誤解の存せるを見たり。然れども吾人は之に依りて、如何なる點に於て、吾人の文辭の足らざりしかを知るの便を得て、評者の精察を謝すると共に、更に吾人の意見を詳叙するの機會を得たるを欣ぶものなり。請ふ以下項を逐うて之を述べん。

一、尚武と軍事的教育

廣義に云ふ所の尚武の元氣は、二千年來我國武人の理想となせる武士魂に外ならずして、軍人教育に在りて主腦の要素となり、其の勇氣、忍耐、仁愛、果敢、廉恥、團結、犧牲有ゆる美德の由つて生ずる源泉なりとす。是獨り武士道の源泉たるのみならず、政治家の精神に現れては、公明、謙遜、達識、果斷の美德となり、實業家の精神に現れては、沈勇、機敏、廉直、勤勉の美德となり、或は教育家の精神に現れては、仁慈、溫厚、清廉、義烈の美德となり、又勞働者の精神に現れては、忍耐、正直、向上、勤儉の美德となる。斯くの如き美德が著しく軍人の精神に於て發現せるに反して、他の方面に於て多く之を見るを得ざるは、吾人の最も痛嘆する所なりとす。而も今や我國民は此の未曾有の時局に際會し、又軍人に現れたる義烈なる精神に感激して、最も眞面目に自省自奮の狀態の現るゝを見る。是實に看過すべからざる精神的修養の機會にして、吾人は此の時機に當り國民の精神に尚武の氣象を鼓吹せんと欲するものなり。論じて茲に至れば、吾人が前に教育の弊と稱せるものは、此の尚武の氣象を指せるにあらざるは敢て疑ふに足らざるを信ず。而して吾人の認めて教育の短所なりとする所のものは前に述べたるが如く、軍事的教育の甚しく發達せるに比して他の方面の教育の之に伴はざる事是なり。我國現時各種の教育に於

て、能く歐米先進の識者をして驚嘆措く能はざらしむるものは、科學の進歩にあらず、美術の發達にあらず、又商工業の勃興にもあらずして、實に軍事的知能の進歩にあらずや。啻に知能に於て然るのみならず、同情の念、團結の心、勇敢、忍耐等讃美すべき實例は多く戰場に於る軍士の行動に之を見るを得べくして、政治、教育、商工、何れの社會に於ても、又何れの家庭に於ても、之を見ることの甚稀なるは拒む能はざる事實なりとす。斯くの如く學術も知力も將た道德も、獨り軍事に於て其の發達の顯著なるに關らず他の進歩の遲々として振はざる所以のもの其の所因なくんばあらず、吾人は因より此の軍事的教育の進歩を指して直ちに教育の病弊なりとするものにあらず、却て今日の進況を來さんが爲に、各種の學校を設け或は軍器の發明に、或は火藥の改良に、或は被服、糧食、衛生の研究に、多年拮据怠らざりし當局の功勞に對し、感謝するに躊躇せざるなり。然れども他の方面の教育に至りては、其の設備遙かに之に劣れるものありて、今日の懸隔を生ずるに至れるに外ならざるなり。吾人は之を古今の歴史に徵し、邦家興亡の由來する所を案じ獨り軍事と云はず、商工と云はず、法律美術と云はず、又宗教と云はず、唯一方にのみ發達して、他の之に伴はざるの邦國は多くは衰亡を免れざるを見る、而して吾人が屢々論じたるが如く、今や我國民は二十世紀の世界的大舞臺に立ち、政治、外交、商業、工藝、有ゆる方面に於ける競爭に加はらんとするに當り、果して軍事に於けるが如く、列强をして後に瞳若たらしむべき實力を發揮するを得べきか、吾人は實に其の精神、其の實力に於て、未だ大いに勉めざるべからざるもの多きを感ぜざるを得ず。是吾人が今日の教育の一方に偏するの傾向あるを認め、大いに實業的社會的教育を振興し教育の發達をして圓滿普通ならしめざるべからざるを論じたる所以なり。

二、實業的社會的教育

吾人の茲に實業的社會的教育と稱するものは商工技術、工藝等の所謂實業教育と、大いに其の主義を異にするものあり、卽ち Industrial Social Education を意味するものにして、我日本女子大學校の教育主義とする所、又今日米國及び蘇格蘭の一部に於て盛に行はれんとしつゝある Manual Training に均しきものなりとす。卽ち學校をして工場的社會的、家庭的要素を具へしむるもの、文學も之に加はれり、商工、手藝も之に加はれり、音樂、美術も凡て之に包含せられ之によりて知育、情育、德育、體育を完全に行はんと欲するの理なり。之を詳言すれば、學生をして學ぶ所のものは、自ら之を實行して、自ら理解

力、選擇力、想像力、發明力及び觀察力を養はしむるにあり。例せば我校に割烹を教ふるも、啻に魚鳥、蔬菜の調理を學び、煮炊の法を知るに止まらず、理化學應用の能力を啓發し、衛生、經濟の工夫も、自ら實驗によりて會得せしめ、又牧畜、園藝によりても、動植物發育の實際と生物進化の狀態を不知不識の間に理解せしめ、微妙なる天然の法則も、之に由つて其の一班を會得せしむるなり。吾人は教育上の効果斯くの如く偉大なるを認むると共に、其の實用上の價値に就て之を考ふるに、今日多くの青年子女が、其の學校を離れて、實際の生活に入るや、學校時代に於る優秀なる俊才をして、其の學べる所と實際の餘りに甚しく懸隔するに驚き、踏跙逡巡其の才能を用ふるに所なきを嘆じ、遂に自ら期せざるは邪徑に陷り、或は空しく厭世の悲境に沈ましむるに至る。是實に學校が社會及び家庭と遠く相疎隔せるに因由せずんばあらず。須く、學校をして常に社會家庭と相通じ、學校に於る生活は、直ちに社會家庭の實際生活に相應ぜしめざるべからざるなり。卽ち學校を以て小社會となし、小工場となし、模範的家庭となし、學課に遊戯に凡て學校に於る生活に於て、研究、理解、選擇、判斷、悉く之を自治自修に依らしむると共に、共同の慣習犧牲の精神、奉公の勇氣も、自動的發作によりて養成せられ、以て生涯の職業的基礎を定めしむべく、家庭的社會的生活が、實際に訓練せらるべき實業的社會的教育の勃興せんことを希望して止まざるなり。

三、家庭及び社會と學校との渾一

今日の如き教育的旨意なき我國の社會と家庭をして、如何にして學校と連絡し其の渾一を保たしむるを得べきか。之を歐米文明の諸國に徵するに、此の三者は互に相密接し連絡し、圓滿に渾一せり。其の學校の校風は、嚴肅なるチヤペルの講壇に發し其の家庭に於る氣風は和樂なる團欒より生じ、社會の風教は莊重なるチヨルチの壇上より起り、家庭はチヤペルと相通じ、チヨルチは家庭と相應じて其の間毫も阻隔あるを見ざるなり。然るに之を我國の實狀に見れば、學校に於て造られたるものは家庭に於て破壞せられ、學校に於て溫められたるものは社會に於て冷却せらるゝなり。若し歐米に於る三者の關係を描きて正三角形となせば、我國にありては不等邊三角を描かざるべからず。而して其の一角なる學校より社會家庭に通ぜる兩線は實に遠く隔てるを認めざるを得ず。此の不等邊三角をして正三角たらしめんと欲せば、先づ學校を以て中心となし、他の二者をして漸次に學校に近接せしめざるべからず。學校によりて發したる熱誠は、社會家庭に達して容易に冷却せざるのみならず、反

つて之を溫むべき高溫度を有せざるべからず。學校によりて作られたる品性は、家庭も社會も之を破壞する能はざる程に鞏固ならざるべからず。而もこれ學校が社會と家庭に對して、戰を挑むの謂にあらず、卽ち學校は趣味あり、情致ある模範的社會となり、模範的家庭となり、玆に圓滿なる實例を示し、啻に學問の叢淵となるに止まらず、實際的生活の研究所となり、衣食住改善の顧問となり、ライブラリーとなり、ミューゼアムとなり以て一家を教育し、一村を教育し、一縣を教育し、一國を教育し、遂に家庭及び社會を融和渾一するに至らん事を期するものなり。

四、研究的議論と具體的研究

吾人が教育の宿弊と云ひ、實業的、社會的教育を唱へ、又學校、社會、家庭の渾一を論ずる所以のものは、唯々其の得失を評し、其の利害を論ぜんと欲するに非ずして、之を實際に應用し、具體的に現るゝ効果を見んと欲すればなり、是を以て吾人は先づ、我日本女子大學校の現狀に就き、又將來の希望に就き述ぶる所あらんとす。

（い）日本女子大學校

日頃我校を來觀せる一米國人は、我校の方針を聞き、其の設備を見て、シカゴ大學のデューエー博士の教育主義に酷似せりと評し、何人か往きてシカゴのデューエーに學びたるにあらざるなきやを疑へり。實に然り、我校教育の方法に於てデューエー博士に學ばんと欲するもの多し、然りと雖も博士の新說が、實際に施行せらるゝに至れるは、數年前に過ぎず、吾人が往年女子教育の實況を視察せんが爲に、米國に渡航したる時に在りては、今日の所謂 manual training なるものは、教育學上一の新說として一部教育者の間に唱へられ、又多少其の說の實際に行はれんとするの兆あるを見たりと雖も、未だ具體的に其の組織を觀察するを得ざりしなり。而も其の嶄新なる方法は、大いに吾人の素論と合致せるものあるを認め、手工教育の重んずべき自信をして、彌々深からしめ、日本女子大學校を創設するに當りても始めより此の主義を以て教育の方針となしたりしなり。我日本女子大學校は、現に科を分ちて家政、文學の二部となし、文學部を更に分ちて國文學、英文學の二種となし、附屬として高等女學校を附設せり。而して今日の國情は吾人をして、既成の設備を以て安んずる能はざらしめ、新たに教育學部を增置し、之に附隨して小學校並に幼稚園を設け、來る三十九年度を期して之を開始せんとす。其の各部學課の細目に至りて

は、茲に詳述の要なしと雖も期する所は、吾人が前に述べたる所の教育主義により、女子をして適實なる學藝を修むると共に、人として、婦人として、國民として、能く日進の社會に順應して其の職分を完ふするの識德あり品格あり、淑女たり、良妻賢母たるべき者を養成するにあり、而して一國としても其の教育の一方に偏する結果の憂ふべきが如く、個人としても唯々專門の學課に偏して他を顧みざるが如きは決して喜ぶべき傾向にあらざるを以て、此の弊に陷らざらんが爲に家政部に在りては、歷史、哲學、文學等を選修せしめ、又文學部に在りては、理科、經濟、家政、藝術等を選修せしめ、以て其の趣味を廣からしむると共に、實用の重んずべきを忘れざらしめ、其の性情を圓滿に發達せしめん事は、吾人の最も努むる所なりとす。

（ろ）手工教育

其の所謂 manual training としては、園藝、牧畜、料理等の各部あり、文學に關する各種の團體あり、又高級生の爲に製菓部あり、書籍及び雜貨販賣の實習的事業部あり、之によりて自己の頭腦を手足を以て實物に就て各種の練習をなし、或は天然の事物に觸れて、文學的思想を誘發し、或は社會の實務に接して、其の趣味を悟ると共に之が利用の法を明らかにし、講究、判斷、選擇、理解の力を養ひ、之を Self express するの習慣を養はしむ、更に將來の施設としては、校内に庭園を構へて池あり、畑おり、小丘あり、花園あり、廣場あり、小徑あり、家禽を放ち、牛羊を畜ふ、風致によりて詩歌文章を學び、地形によりて地理を學び、實物によりて博物を學び、以て遊ぶべく、以て學ぶべく、以て運動すべく、以て勞働すべく、趣味と教訓と併せて之を得しむるを期し、而して下は小學校より大學部に至るまで、徒らに學科を注入するを避け、思考の材料と暗示を與へ自修的自動的に自然の本能の啓發せんことを期するにあり。

（は）學校と家庭

我校に在りては或時を期し、學生をして令名ある諸家の夫人を訪問せしめ、又時に之を學校に招待し、或は寮舍の賓客となす。是一は經驗ある先輩の家庭を觀察し、趣味あり、實益ある說話を聞き以て自家の理想を實際に徵し、多種多樣なる家庭の狀態を研究せしめ、又一は自家研究の結果に就て先輩の批評を求め、其は缺點を悟り其の不備を補はんが爲なり。斯くして學校と家庭とは互に觀察し、又觀察せられ、相知り、相知られ、相觸れ相接し、其の間に密接なる連絡を生じ、統一を保つに至らしめんとす。而して我校の寮舍なるものは、所謂寄宿組織に

あらずして家庭組織なり。現に學生の寮舍に在るもの、殆ど六百を越ゆるも、之を分ちて十九寮となす。各寮に寮監ありて之を監督し、寮毎に上級學生交代して主婦となり、寮監指導の下に家事を掌り、庖厨酒掃寮生と共に代る〳〵之に當る、各寮又經濟を別にし、炊事を異にして別に一家をなすを以て、宛然多くの家族集りたる一部落の觀あり。而して校則によりて大體の寮規を定めたる外は其の生活は凡て自治に任じて、敢て拘束を加へざるを以て、衣食住、衛生、經濟、裝飾等の事悉く自ら講究し、實行し、親しく其の得失を實驗するを得ると共に、寮生をして責任を重んずるの心を起さしめ一家相倚り相扶け、友愛の情、團結の會、社交の趣味、犧牲の精神を養成するに至る、要するに外は諸家の家庭に比較して、其の長を採り、内は先輩の批評を求めて其の短を改め改良の功を積むに及んでは、學校生活が實際的家庭生活と區別なきに至らんこと、決して望み難きにあらざるなり。

（に）學校と社會

學校と社會とをして近接し、連絡せしむる事は、實に容易の業にあらず。然りと雖も苟くも教育の効果を完からしめんと欲せば、其の至難なるを認むる毎に、彌々其の必要なるを感ぜざるを得ざるなり。抑も學校の教育は、啻に學校自身の教育を施すのみならず、延いて家庭を教育し、社會を教育するなり。之學校の大任にして、吾人が我學生に向つては、常に献身の精神を將勵し犧牲の精神を鼓吹する所以のもの實に此の大任を感じ、之を完ふせんと欲すればなり。吾人は妙齡の子女をして、此の重大なる責任を荷はしむるを想ふ毎に、衷心忍び難き感に打たるゝを覺ゆ。然りと雖も此の重任を荷ふべき者は、實に教育ある青年子女にして、是を措いて又何處に求むべけんや。其の學校を離れて家庭に入る者は、家庭を導きて、學校に近からしめ、社會に出でたる者は、社會を率ゐて、學校に近からしむるの大決心なかるべからず。而して又此の重任を完ふせんが爲に、嵩高なる品性と、熱誠なる誠心を有する生命ある教育者を起さゞるべからず。學校を出でゝ若し一村の小學校に教員たるものは其の兒童を教育するのみならず、其の父母を教育し、其の一家を教育し、一村を教育するの精神なからざるべからず。更に之を詳說すれば、前章家庭に就て論じたるが如く、學校を中心として社會の實際狀態に通ぜしめ、之と相連絡するのみならず、進んで一村に於る思想の源泉となり、趣味の中心となり、生活の顧問となり、其の感化をして國家社會に及ぼさしめんことを望むものなり。

結論

之を要するに吾人は以上論じたる方針により、前に日本女子大學校を起し、今や新たに教育部を設けんと欲するものは、實に我國の將來を思ひ、世界の進運に適應すべき第二國民を養成し、聊か國運の發展に貢献する所あらんと欲するに外ならず。然れども我校は、豫期の設備理想未だ全く行はれたりとなさず、之を將來の經營に俟たざるべからざるもの多し。而して更に世界の趨勢と我國の現狀に鑑み、國民の荷ふべき責任の重大なるを思へば、啻に一の日本女子大學校に止まらず、苟くも任教育の事に當るの士、其の主義方針に於て多少見る所を異にするものあるべしと雖も、共に奮つて此の主義に則り其の教育の効果を擧げ、以て邦家の鴻業を翼賛するの大任を完ふせんことを切望して止まざるなり。

（「家庭週報」第二十號）明治三十八年三月

第二回卒業生に別れを告げ
併せて本校の略歴現狀の報告を述ぶ

來賓諸君、父兄保證人諸君、大學部第二回、高等女學校第四回卒業證書授與式に際し、第五回創立記念式並に今回設立せんとする教育部、圖書館、櫻楓會館の定礎式を擧行するは、誠に本校の榮とする所なり。今や卒業生諸子に告辭を述べんとするに先だち、本校の略歴、現狀の報告をも併せ述べんと欲す。

前に本校は從來の創立委員の組織を變じ、財團法人となるに至れるに於ては、其の起元と略歴とに顧みて、發起人、創立委員、並に賛助員諸君がいかに多大の盡力を寄せられたるかを述べ、一言感謝の意を表さんとす。

本校の起元は遠く二十年前の事にして、當初十年間は準備の時代ともいふべきなり。その具體的計畫となりて、設立に着手するに至りしは、恰も今より十年前、即ち明治二十八年の今頃なりき、余がこの計畫を以て第一に計りしは、故内海男爵、及び大和の土倉庄三郎氏なり。當時内海男は大阪府知事の職にあり。この計畫を聽かるゝや、我國の爲斯くの如き教育の必要を稱へられ同情と賛成とを以て、必ず一臂の力を添へんと約されぬ。然れどもこの計畫に要する三十萬圓の資金募集は、遺産の慣習ある我家族制度の今日に於ては、到底不可能のことなるべし。たゞ倒れて後止まむ決心あらば、或は着手するも可ならんと云はれたり。土倉庄三郎氏は深くこの事業に同情を表されたるのみならず、直ちにその一分を擔當して、設立に盡さんと誓

はれ、而して大阪の廣岡淺子、住友吉左衞門、北畠治房諸氏の有力家に訴へんことを勸められたり。次に余は廣岡淺子夫人に賛成を求めたり。夫人は熟考の後、非常なる同情者となられたる顚末は、學報第二號に掲ぐる同夫人の談話によりて明らかなれば再び贅せず。次に相計りしは北畠男爵なり。男爵は我國の現狀に鑑み、今後の女子を發達せしむるには、斯くの如き機關の必要なる事を深く信ぜられ、同じく同情者の一人となられき。余は大阪に於て、是等基礎となるべき發起人を得たるを以て、益々志を堅くし、時の總理大臣伊藤侯に余の計畫を陳述せり。この日大臣は官舍に於て、地方長官を集め、重要なる問題につき、一時間後に演說せらるべく、多忙を極めたるにも拘らず、具さに余の計畫を聽かれたり。余の陳述したる問題は三にして、第一斯かる計畫を國家の經營上必要と認めらるゝや否や。第二此の事業が民間にかゝる方法を以て起ち得べきや否や。第三若し國家の必要と認められ、我邦に於て發生し得べしと認められんには、侯爵にも一臂の力を添へらるゝや否やといふにありき。侯爵は滿腔の賛成を表せられ、且つ內海男の云はるゝ如く、我家族制度は公共の爲、資產を擲つに吝なるは勿論なり。然れども一方に於て我國民の義俠心に富み、愛國心に厚きを以て、將來かゝる事業の爲巨萬の資產を擲つものなきにあらざるべしと、また直ちに發起人たることを快諾せられ、この計畫をして大隈伯爵並に時の文部大臣西園寺公爵に計るべしと勸められたり。翌朝西園寺公爵を文部大臣官舍に尋ぬるや、公はこの計畫の自ら考へたると附合するのみならず、將來は國家の事業として必要なるにもせよ、先づ民間に於て起るべきの適當なるを說かれ、同じく發起人たるを快諾せられたり。以來公爵は今日に至る迄、如何なる困難に際し、如何なる中傷離間に對しても、一度として、一日として、本校に對する態度を改められたる事なし。次に大隈伯に賛助を求むるや伯も亦滿腔の賛成を以て、かゝる尊き事業の發起人たることは榮譽とする所なりと述べられぬ。實に本校が今日に至るまで、幾多の困難辛苦に遭遇したるに拘らず、挫かるゝ事なく、蹉く事なかりしは大いに伯の熱心同情によらずんばあらざるは共に我等の認むる所なり。

續いて同伯の紹介により、澁澤男爵、森村市左衞門の兩氏も發起人たる事を諾せられ、爾來日を重ぬると共に彌々本校に對するの熱心を加へられ、殊に財政上鞏固なる基礎を作るを得るに於ては兩氏に負ふ所大なり。

爾後次第に知己を得るに及び、更に土方伯爵、兒島惟謙君、嘉納治五郎君の如き有志家、熱心にこの擧を賛せられ、種々の

便宜を與へられ、茲にこの學校の基礎たるべき發起人の組織の成るに至れり。右の計畫を實施するにつき、必要なる條件二あり、一は輿論を喚起することにして、一は資金募集にありき。この輿論を喚起するに就ては、大いに、當府下の新聞雜誌記者諸君の同情の筆に負ふこと少からざりしも、當初に於ては却てこの計畫の公然たらざらんことを期し、島田三郎、德富猪一郎、岡實、三宅雄次郎諸氏の如き、賛成記者諸君には、直接面會して、その期する所を述べたり。爾後天下の志士を個人〳〵に訪問して賛成を求むることに努めたり。然れども西園寺公、大隈伯の如く、即時快諾せられると異り、其の賛成を仰ぐこと、實に容易なることにあらざりしは、創立に際し困難なる活動の一なりき。稍天下の志士の意向も定まるに及び、始めてこれを世に公にせり。即ち今より八年前の四月廿四日、貴衆兩議員を帝國ホテルに招じて、此の計畫の發表を行へり。時の外務大臣大隈伯爵、文部大臣蜂須賀侯爵、貴族院議長近衞公爵、衆議員島田三郎君、江原素六君等賛成演說を試みられたり。大阪に於ても、同じ性質の披露會を大阪ホテルに催し、聽衆四百名以上に達したり。大隈伯、近衞公、土方伯、北畠男等出席せられ、此の擧に賛成の意を公にせられたり。第三に神戸帝國教育大會に於て演說會を開き、關西教育家諸氏に告ぐる所ありき。時に嘉納治五郎君、伊澤修二君の如き、此の女子大學設立を賛する旨を述べられたり。茲に於て一般の輿論は喫起するを得たり。

資金募集に關しても亦實に創立委員諸君に負ふ所多かりき。第一回創立委員會は八年前の四月廿五日外務大臣官舍に於て開かれたり。主人公たる大隈伯を始め、總理大臣松方伯、文部大臣蜂須賀侯、近衞公、日本銀行總裁岩崎彌之助男、澁澤榮一男、兒島惟謙君、土倉庄三郎君、廣岡淺子君等凡そ十一二名なりき。而して資金募集の議を謀りしが、議論百出到底統一の見込なかりき。其の後如何なる順序によりて、今日の結果を致したるかは、詳說するの暇なきを以て、單に結果の報告に止めんとす。

今より四年前、即ち明治三十四年開校式當時の資金は約十五萬にして、今日即ち三十八年の總計に於ては三十三萬九千六百圓餘を算するに至れり。その增額十八萬九千六百圓餘なり。生徒の數も大學部、高等女學校合して六百十七名を以て開校し、第二年に於て八百三十五名、第三年に於て千六十八名、第四年に於て千百十一名となり、今日に於ては實に千三百十九名を數ふるに至れり。

本校が斯る迅速なる成長發達を致したる理由種々あるべしと

雖も、就中、地の利、人の和、天の時の宜しきを得たるによること多かるべし。地の利を得たるは偏に三井家の賜にして、本校の校風を作り、勉學の境遇を作るが爲、いかにこの地理の便を與へたるかは、今更述ぶるは愚なることなるべし。三井家よりの寄附にかゝる地券面は四千六百八十一坪なりしも、實際は五千四百坪にして、現今は樺山邸より二千坪買入れ、其の他、東北に買入れ、借入れ等して、其の敷地一萬一千五百廿一坪に至れり。第二に本校が人の和を得たるは、委員諸氏の寛大なる度量と、眞に國家を思はるゝ無私の愛による。されば委員會等に於ては、激論し衝突することも少からざりしも、却て其の度毎に基礎固まり、勢ひ發展するに至りたり。これ野心の爲、名譽の爲、己の利用の爲等、寸毫もその心を犯すものなく、學校の爲、國家の爲、人道の爲、肺肝より出でたる議論なり、衝突なるを以てなり。この創立委員諸氏の無私の愛は、本校々風の基礎となれり。四年前六百有餘名の烏合の兵、殆ど玉石混淆の有樣なりし生徒等は、今や鞏固なる校風の下に一致團結するに至れり。去る四月十六日櫻楓會大會を開ける時の如き、正、准會員四百五十名計りは此の堂に會し、彼等の感情は融和し、意志は調和し、恰もその日爛漫たる櫻花の美の如き麗しき、精神は發揮するに至れり。この團體の麗しき精神たるや、本校の基礎となるべきものにして、今後益々發達せしめんことを、せつに希望するものなり。而して本校は敵の攻撃、社會の批難、外部の妨害等は餘り意とせざる所、最も内部の一致團結を努めたる結果、今日は假令いかに激烈なる外部の攻撃障害はありとも、この團結力を破壞するに足らざるべしと信ず。第三天の時を得たることは寧ろ意外なり。設立の際、或は未だ十五年早しとの聲を聞けるのみならず、創立委員自身も亦早しと考へたり。然るに實際、時機は到來せるのみならず、日露戰爭は實に我民族に一大使命を授け、今後益々世界的戰爭を續くるに耐ふる勇氣と忍耐とを有する國民を要し、この國民を產む母を要するの時期に際會するに至れり。殊に今年の卒業生は最も深くこの天職を自覺せられこの自覺は子々孫々に至る迄、決して消滅の期なかるべしと信ず。天は斯かる時機に於て、この極東の一小島に、始めて女子大學を發生せしめ、僅々四年の短日月に於て、地の利、人の和、天の時の宜しきを得しめ、境遇の開拓を早からしめぬ。

次に本校のかゝる進歩を見るに至りしは、經濟的品性の最初より健全なりしことなり。卽ち第一無益の支出は一文たりとも許さず、第二には萬一この計畫の功を奏せざりし曉は、應募金は凡て返濟すべしとし、第三には資金十萬圓以上に達せざれば

校舍の設計に着手せざるべしといふにありき。かゝる斷乎たる決心を實行するを得たるは、偏に廣岡淺子氏並に土倉庄三郎氏の賜なり。此の兩氏最初に於てこの事業不成功に終るの曉は、凡てを負擔すべしと誓はれたるによるなり。

本校が地の利、人の和、天の時を得たる事も、健全なる經濟的品性を保つ事を得たるも、決して偶然の賜にあらずして、創立委員、賛助委員諸氏の熱心なる同情と努力とに依らずんばあらず。又本校教職員並に生徒一同の悉く己の責任を感じ、專心一意、進歩改善を計りしが爲なり。例へば本校に毎年二千圓或は三千圓の不足を豫算すと雖も、實際は之に反し百圓、二百圓の剩餘を生ずるが如きは、勿論澁澤男の會計監督宜しきによるべしと雖も、また庶務主任塘氏を始め、事務員に至るまで、責任を重んずるの念厚きにあるべきなり。

今學年に於て、本校の主義とする、生徒をして成るべく自修的、自動的、且つ選擇的に學ばしめんが爲、學科の編制上、試驗の方法上改善を施したり、例へば必須科の時間を減じ、專修科並に隨意科目の時間を增加せるが如き、又自修、選擇に必要なる境遇を作らんが爲、先づ附屬高等女學校の各教室をして、學年別を廢して學科別とせり。尙大學部の爲には料理室、書籍館の增設を見るに至り十一月頃迄には落成の運びに至るべし。

この圖書館は大倉孫兵衞氏の主唱により同氏の一萬圓、村井保固、新井領一郎、森村市左衞門諸氏の各一萬圓を始め同會員の義捐金になるものにして、建築費、圖書館費等、凡て四萬圓の豫算なり。さて大倉氏は如何なる動機によりてこの擧に出でられしか、今回氏が一豊明會員に送られたる私信によりて明らかなれども、余はこの私信を公にするの自由を有せざるなり。その飾りなく僞りなき、一片の紙上は自ら純潔、至誠謙讓の德を窺ふに足るものといふべし。卽ちこの擧に出づるを得たるは全く自らの力にあらずして、其の心も金も森村社長の賜なると共に、之を國家有要の資に利用して、永遠の生命あらしむるを得るは、偏に成瀨氏の力にあり。自らはたゞ眞に云ふべからざる愉快の感を味ふを得たるは、深く兩氏に感謝する所なりとて、凡ての功を人に歸し、却て自らは感謝してやまざるものあるなり。この品性は、物質上の寄附と共に、長く我校風に加はりて、必ずや偉大なる感化を及ぼすべきことを喜ぶものなり。この圖書館は將來一般府下の婦人の爲に公開せんことを期す。次に櫻楓會館は三井三郎助氏令夫人の寄附にかゝるものにして、本館が全く婦人の手によりて成るを得るは最も喜ぶ所なり。

右の如く今回增設せんとするは教育部（煉瓦作）幼稚園小學校（木造）圖書館、櫻楓會館を始め、寄宿舍三棟、料理室、消

費組合事務所、都合九棟にして、價格凡そ九萬七千五百圓のものなり。

尚今回財團法人成るに及び、二十三名の評議員を選び、七名の常置委員を組織せり。卽ち教育委員には、大隈伯爵、西園寺公爵、久保田讓氏にして、財務委員には、澁澤男爵、森村市左衞門氏、監事は岩崎彌之助男と、三井三郎助氏兩名を推せり。記念式に際しては毎年植樹を例とせるも本年は各教室に自然の美を加へんが爲、高等女學校は植木鉢を、大學部は楓二株を庭内に植ゑたり。尚本校關係者より寄贈の樹木も少からず。

右の報告を聞き、世人は餘りに急激なる進歩發達を是非するものあらん。我等は最も深くこゝに注意し、教育部の如きも尚二三年將來の目的とせしも、如何せん時機は來りて我等の止まるを欲せず、世界の大勢は我等を驅つて進まざるを得ざらしめたり。又油斷大敵を戒めんが爲、本校は最も困難なる創立時代の態度を保ち、一日と雖も、安きを求めざるなり。或は余を評するもの守成の人に非ずして、創業の人なりといふ。蓋し適評と云ふべし。我等は創業家を以て自ら任ずるものにして、この創業時代は永久渝らざるべし。本校が如何に設備は完全すとも、如何に校風は成立すとも、我等は歩を停めて現狀に安んずる事を欲せず。もし安んずるの時あらば、そは本校の衰頽の時期、否本校の終りの日なるべきを信じて疑はず。されば本校の卒業式は常に開校式にして、來らんとする日々は實に創業の時なりといふべし。我等は益々力を集注し、事業を擴張し、事々物々、改善、進歩、發達を期し、終りに至る迄限りなく創業的態度を改めざらんことを要するなり。

終りに臨み、一言卒業生諸子に別れを告げんと欲す。余は今や言はんと欲する事は、日頃に於て盡せりと雖も、たゞ一言加へんとす。諸子よ、願はくは本校の態度を以て態度とし、常に現狀に安んぜず、我等の生命も喜びも將來にあるべきを期し、限りなく奮鬪して止まざるべし。この戰爭に最も必要なる武器は無私の愛、及び諸子が三年間鍛へたる犧牲の精神にあり。而して諸子の身に纏ふべき飾は、實に柔和と謙遜とにあり。この武器を以て、この飾を纏うて、終りに至る迄、耐へ忍びて進まれんことを切望して止まず。別れに臨み、諸子の身心の健全を祝る。

（「家庭週報」第二十二號・卒業式講話）明治三十八年四月